



2017 年度

第5回 通常総代会議案書

2017年6月9日(金) 10時30分～13時
新横浜プリンスホテル5階

第1分冊

●第1号議案●



生活協同組合 ユーコープ

第5回 通常総代会 議案検討のながれ

2016年 9月

第5回通常総代会議案書作成タスクチーム会の結成

メンバー:3県の組合員理事代表者と各部局代表職員

- ◆ 総代アンケートや職員からの議案書コミュニケーションシートで寄せられた声を議案書に反映させ、わかりやすい内容になるように検討しました。
- ◆ 経営基本方針に沿った事業と活動の取り組みの実践事例を豊富に掲載して、総代からも理解され、職員の仕事にも生かせるような事例の収集を行いました。
- ◆ 事業と活動が組合員の視点や、経営基本方針で掲げた目標との関係でどうなのかということを組合員理事もメンバーに入り検討を重ねてきました。

2016年 11月
～2017年 3月

タスクチーム会を5回開催

2017年 3月 16日
～4月 3日

「3月総代懇談会」を開催

かながわ県9会場、しづおか県4会場、やまなし県5会場、計18会場で開催。2月度までの経営状況と、2016年度取り組んだことの一部について懇談し、総代から多数の声が出されました。



2017年 5月 8日
～5月 23日

「5月総代懇談会」を開催

かながわ県9会場、しづおか県4会場、やまなし県5会場、計18会場で開催。議案書作成タスクチーム会で検討された内容と、3月の総代懇談会で出された声に基づき作成された「第5回通常総代会議案書（案）」第1号議案〔第1分冊〕・第2号議案～第5号議案〔第2分冊〕の議案の検討を行いました。

2017年 6月 9日

第5回 通常総代会 開催

基本理念

「「人-社会-自然」の調和ある平和な社会の実現に貢献する」

2020年ビジョン ~私たちのありたい姿~

人と人をつなぎ、生きるを支える

1. 私たちは一つ一つの行動の積み重ねを通じて「ユーコープがあってよかった」という存在になります。
2. 私たちは安定した剩余を確保し、将来にわたって存在し続けます。
3. 私たちは誇りと自信を持ってユーコープに集い、ユーコープで働きます。

代表理事理事長挨拶

総代の皆さん、新しい生協「ユーコープ」が発足をして、4年が経ちました。振り返りますと大変厳しい状況の中での出発でしたが、「苦しいときこそ原点に返る」という思いで、生活協同組合の原点に返り、組合員が主人公の生協創りを、組合員の皆さんとともに進めてきた結果、大きな前進ができたと思います。支えていただいた組合員の皆さんに改めて感謝申し上げます。



生活協同組合ユーコープ
代表理事理事長
とうぐ しんいち
當具 伸一

さて、2016年度は「第1次中期経営計画」初年度として、「すべては目の前の組合員のために」を経営基本方針のスローガンに掲げ、経営基本方針の3つの柱に沿って、事業と活動を進めてまいりました。

第1の柱は「組合員の立場で実践できる人と組織をつくります。」です。まだまだ、道半ばではありますが、「組合員の声をメモに取る取り組み」「組合員の表情やしさから組合員の気持ちを考える取り組み」「組合員の声に応えて、できるだけ早く、商品や、サービスを改善する取り組み」。これらを進めてきた結果、組合員の方から「少し変わってきたね」という言葉をいただく機会が増えました。

第2の柱は「組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。」です。組合員の皆さんとのたくさんのご利用と職員・パート職員・委託スタッフの経営基本方針に基づいた努力の結果、供給高はほぼ予算通り、経常剰余は、約45億と予算・前年を越え、4年連続で増益を達成することができました。

第3の柱は「社会的役割を發揮します。」です。東日本大震災・熊本地震被災地への継続的な支援をはじめ、被爆者の方たちの気持ちに寄り添った「ヒバクシャ国際署名」の取り組み、「みるくぼきん」や「うなぎぼきん」の取り組みに加え、「フードバンクへの食料品の提供」や「リサイクルセンターの稼働」など、多くの方から共感を呼ぶ、社会的取り組みが広がっています。

2016年度から始まった「第1次中期経営計画」の期間は「転換期」と位置付け、次の「再生期」を準備するための重要な基盤づくりの時期です。2016年度の前進面にユーコープに集うすべての人が確信を持ち、新しい生協創りに、ともに、手を携えて進みましょう。

目 次

第5回 通常総代会 議案検討のながれ

基本理念、2020年ビジョン

代表理事理事長挨拶

第1号議案 「2016年度取り組みのまとめと2017年度取り組むこと」

2016年度全体のまとめ	2
私たちをめぐる社会の動き	4
2017年度経営基本方針	5
数値で見るユーヨープのこの一年	6
2016年度取り組みのまとめと2017年度取り組むこと	8
指針1 組合員の立場で実践できる人と組織をつくります。	8
指針2 組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。	14
指針3 社会的役割を發揮します。	34

資料編 56

2017年度 経営組織図
2017年度 おうちCO-OP宅配事業本部事業計画
2017年度 店舗事業本部事業計画
2017年度 参加と連携推進本部事業計画
2017年度 統合マネジメント本部事業計画
2016年度 事業結果（事業所別・直接剰余実績・経常剰余実績）
2016年度 監事会活動のまとめ
2016年度 品質管理の取り組み
市区町村別組合員数
2016年 選挙区別選出総代定数
店舗地図
声明や意見書等

第1号議案

2016年度取り組みのまとめと 2017年度取り組むこと

なお、議決の主旨に反しない範囲での字句等の修正は、理事会に一任します。

※職員の声の所属名は、2016年度取り組み当時のものです。

2016年度 全体のまとめ

1.2016年度の位置付け

生活協同組合ユーチュープ発足後、初めての中期計画である第1次中期経営計画（2016年度～2018年度）のスタートとなる大切な年として、経営の強い土台を築き、未来に向かい飛躍することのできる、人と組織づくりを進めました。

2.2016年度の経営結果

消費者が景気回復を実感できない状況の中、組合員の利用に支えられ、供給高はほぼ予算どおりに確保することができました（予算比99.9%）。一方、事業経費は予算以下に抑えられ、経常剰余金は45億円を確保し、予算・前年を上回りました。

3.経営基本方針を実現するための事業計画に基づく主な取り組み

【指針1】組合員の立場で実践できる人と組織をつくります。

- (1) 「組合員の声を聴く取り組み」は3年目を迎え、全店舗で組合員の声をメモに書きとめる取り組みを開始しました。また、「声の検討会議」に宅配センター長、店長も参加し、役員とともにグループワークを行うことで、組織としての声の共有化が進みました。
- (2) おうちCO-OPでは組合員に安心してご利用いただけるように、配送担当者から積極的に困りごとをお伺いし、要望や疑問にお応えする取り組みをはじめました。

【指針2】組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

- (1) お仲間づくり
 - ① おうちCO-OPでは、宅配サービス料ママ割制度の改定やおまかせ定期便の品目の追加等、組合員の利用定着の向上に向けた取り組みを実施しました。
 - ② 店舗では、新規加入者に「5%割引定期券」を発行することで、レジでの声も掛けやすくなり、お仲間づくりにつなげることができました。
- (2) おうちCO-OP
 - ① ユーチュープセレクションの学習と普及の取り組み、シニア向け非食品部門の新カタログ「DEAR Age」の創刊等、喜んで利用していただける取り組みを実施し、利用人数・利用単価ともに予算を上回ったことで供給高・経常剰余予算を達成しました。
 - ② 夏場の冷凍品溶け防止のために、冷凍お届け品作業手順の定着による品温管理の徹底と組合員の帰宅時間に合わせたドライアイス増量等の取り組みを実施しました。
- (3) 夕食宅配Maici（マイシイ）
 - ① 組合員の要望に応えるために、下期より冷蔵の宅配便でお届けする「健康管理食（やわらか普通食・介護食など）」や「サラダセット」を導入した効果等もあり、供給高・経常剰余ともに予算を超過達成しました。
- (4) 店舗事業
 - ① 組合員の暮らしに応えていくために、買いやすい価格帯のお弁当の発売、少量規格の充実、菓子パンの均一販売、「組合員感謝デー」等の取り組みを進めましたが、来店者数は予算に届かず、供給高は予算未達成でした。
 - ② 組合員がより利用しやすい売場となるように、6店舗（旭ヶ丘店・桜づつみ店・片倉店・桜山店・国府津店・小山台店）の改装を実施しました。

(5) 共済

- ① おうちCO-OPでは、センター長による日常的な共済に関する課題の共有化や共済タブレット端末によるわかりやすい案内が進んだことで、新規加入件数予算を達成しました。
- ② 店舗では共済カウンター設置24店舗を中心とした日常的な取り組みを進めましたが、体制上の問題で担当者を配置できない店舗が発生したこと等により、新規加入件数は予算未達成でした。

(6) 福祉事業

- ① 制度変更により市外在住で要介護認定を受けている方の受け入れができなくなったため、事業収入は予算未達成でしたが、経常剩余は予算どおりに確保できました。
- ② 安定したサービス提供体制を確立するために、ユーコープ主催介護職員初任者研修修了生へのアプローチ、おうちCO-OP・店舗でのチラシ配布、WEB専用カタログの活用等の取り組みを進め、ヘルパー職員25名を新規採用できました。

(7) くらしの願いに応える商品を育てる取り組み

- ① 原料・製法・味にこだわり、ユーコープならではの価値を追求した商品づくりに取り組み、「味菜卵と国産具材の茶碗蒸し」等、2016年度のユーコープセレクションとして43品目を発売しました。
- ② 組合員の声に応えて、9月21日より横浜市・川崎市在住の組合員を対象に「家事支援サービス」を開始しました。今後、サービス提供エリアを順次拡大する予定です。

(8) コスト削減の取り組み

- ① 内部で使用する申請書を電子化することでペーパーレス化が進み、宅配センター・店舗・本部それぞれの事務作業を減らすことができました。
- ② 店舗では、LED照明の導入や冷蔵・冷凍設備の更新による電気料金の削減と、契約の見直しによる委託料の削減で、事業経費を予算以下に抑えることができました。

【指針3】社会的役割を発揮します。

- (1) 静岡県内の全17店舗で専用の回収箱を設置し、組合員に「家庭で眠っている食品」の提供を呼びかけるフードドライブ活動を行い、行政や社会福祉協議会等を通じて、食の支援を求めている方に食品が提供されました。また、ユーコープでは山梨県内初となるフードバンクへの寄付を、おうちCO-OP若草センター（南アルプス市）で行いました。
- (2) 核兵器のない平和な社会の実現をめざし、全国の生協、県連とともに組織全体で「ヒバクシャ国際署名」の取り組みを進めています。
- (3) 神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市と「災害時帰宅困難者支援に関する協定書」を締結し、ユーコープの店舗も災害時の帰宅困難者を支援するための拠点として役割を担うことになりました。
- (4) 利用を通じて組合員の多様な参加が広がるように、コープ商品大試食会、キッズ店長、おうちCO-OPのつどい等、県本部と事業所が連携した取り組みを展開しました。

私たちをめぐる社会の動き

1.社会の変化

人口減少と少子高齢化の中で労働人口が減少し、サービス業を中心にさまざまな業種で人手不足が深刻化しています。大卒求人倍率が5年連続で上昇するなど採用活動にも影響が出ています。生協の事業と活動を支える人づくりは大変重要な課題であり、労働条件・組織風土の改善や作業合理化で働きやすい・やりがいのある職場にしていくことが必要です。

2.経済

内閣府が2月23日に発表した月例経済報告では「雇用・所得環境の改善が続くなかで、2016年10～12月期の実質GDP（国内総生産）の成長率は前期比0.2%で四半期連続のプラスとなり、景気は緩やかな回復基調にある」としています。

しかし、家計調査（12月）では実質消費支出は前月比で減少しており、個人消費は足踏み状態で、景気回復を実感できる状況にはありません。

3.医療・介護

高齢化に伴って膨らむ社会保障費を抑えるために、2017年8月から70歳以上の医療費の自己負担上限額（月額）や介護サービス利用料の月額自己負担上限が引き上げられます。医療や介護に関する高齢者の負担が増え、くらしへの影響が懸念されます。

一方、介護を担う人手不足は続いている、安定的にサービスを提供するための有資格者の確保が課題となっています。

4.平和・憲法

地球上では今もなお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。被爆・戦争体験者が少なくなっていく中で、核兵器廃絶を求める「ヒバクシャ国際署名」の取り組み等を通じて、被爆・戦争体験を次世代に継承し、平和の大切さを伝える取り組みを継続して進めることが大切です。

また、参議院議員選挙の結果により、国会における憲法改定の発議の条件がそろい、憲法改定が本格的に議論される可能性が強まっています。

5.環境・エネルギー

既存原子力発電所の老朽化や地震の頻発によるリスクの増大、未解決な放射性物質廃棄物の処分の問題等があるにもかかわらず、2016年8月に伊方原発3号機が再稼動し、他の原子力発電所でも再稼動に向けた動きが出ています。

原子力発電に頼らないエネルギー政策を進めるために、一人ひとりが世界や日本のエネルギーの現状について学習し、理解を深めることができます。

6.小売業の動向

人口減少により食品市場が縮小する中で、インターネットやスマートフォンの普及を背景に、小売業では業態の垣根を越えた競争が広がっています。コンビニエンスストアの店舗数が引き続き増加する一方で、上位チェーンストアの再編による寡占化が進んでいます。

2017年度 経営基本方針

「すべては 目の前の 組合員のために」

指針1.組合員の立場で実践できる、人と組織をつくります。

- (1) 組織全体で組合員のくらしをよく知り、組合員の声を生かす取り組みを前進させ、最後まで責任を持って応えることのできる、人と組織にします。
- (2) 目の前の組合員にとってどうなのかをものさしに、経営基本方針のもと、自らの判断で実行し、自ら学び、考えていく、人と組織にします。
- (3) 一人ひとりが大切にされ、私も役立っていると実感でき、経営基本方針のもと、力を結集できる、人と組織にします。
- (4) 事業を担うことと同時に、地域でのつながりを、深め広げていくことを大切にできる、人と組織を目指します。

指針2.組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

- (1) 一つひとつの取り組みが、円滑につながり、組織全体の力を発揮することで、供給を通じた利益を増やし、コストを低減させて、継続的に収益が増える構造をつくります。
- (2) 地域の中で、全事業が相互に連携し、組合員のくらしの願い、組合員の期待に事業で応え、地域の中に、組合員の輪を広げるため、お仲間づくりを進めます。
- (3) 組合員の声を大切に、商品を通じて組合員のくらしを深め、組合員とともに、育て広げます。
- (4) 宅配事業は、組合員とのつながりを強め、組合員のくらしに役立ち続けることができるよう、事業伸長と収益を増やし、将来にわたって、地域の中で発展できる事業にします。
- (5) 店舗事業は、組合員とのつながりを強め、地域の拠点として、役割を果たすことができるよう、収益構造の改革を進め、経常剰余黒字化の土台をつくり、持続可能な事業に再構築します。
- (6) 保障（共済・保険）は、一人ひとりの組合員のくらしに役立つことができるよう、心と知識、そして技術を磨き、地域の中に、ユーロープの保障を、お知らせし広げていきます。
- (7) 福祉事業は、地域の利用者に寄り添い、全事業が連携した、持続的な事業活動を展開できるよう、事業環境の変化に対応できる、人づくりと体制づくりを進めます。

指針3.社会的役割を発揮します。

- (1) 内外コミュニケーションを組織全体で進め、ユーロープファンの輪を大きく広げます。
- (2) 利用を通じて、組合員の多様な参加が広がるよう、商品を中心にして、生産者、お取引先、組合員、そしてユーロープとのつながりづくりを、さらに強めます。
- (3) 事業や活動が相互に連携し、環境、地域貢献、社会貢献、被災地支援などの課題を進め、行政や他団体とともに、くらし・地域・社会を包括できるネットワークづくりを目指します。
- (4) くらしの安全・安心、くらしの知恵、実践事例など、様々な情報をわかりやすく、見やすくなる改善を進め、同時にコミュニケーションにおいて様々なチャレンジをしていきます。

2017年度は第1次中期経営計画（2016年度～2018年度）2年目の年となります。3年間の経営軌道を方向づけ、次期中期計画にもつながる重要な年度となります。組合員の声を聴くことを大切にし、その声を生かす取り組みをユーロープ全体でさらに前進させ、経営の軌道を修正していきます。

ユーコープ全体

供 給 高	1,724.7 億円	(前年比 99.1% 予算比 99.9%)
※供給高には共同利用 生協への出荷分は含 まれていません。	かながわ しづおか やまなし	1140.1億円 (前年比 99.0% 予算比 99.5%) 523.8億円 (前年比 99.3% 予算比 100.6%) 60.8億円 (前年比 100.0% 予算比 100.3%)
経 常 剰 余 金	45.4 億円	(前年差+5.3 億円 予算差+21.1 億円)
当 期 剰 余 金	38.2 億円	(前年差+3.3 億円)
組合員数・加入率		
全 体	1,775,387 人	(前年比 100.3%) 加入率 30.6%
神奈川県	1,196,456 人	(前年比 99.9%) 加入率 29.7%
静 岡 県	521,695 人	(前年比 101.2%) 加入率 36.1%
山 梨 県	57,236 人	(前年比 101.5%) 加入率 17.2%
新規加入者数	81,065 人	(前年比 101.1%)
期末出資金残高	347.5 億円	(前年比 97.7%)

貸借対照表

2017年3月20日現在

資 産		負債および純資産	
現金・預金・商品等 (流動資産)	347.4億円	商品代金の支払い等 (流動負債)	316.9億円
土地・建物等 (固定資産)	482.3億円	職員退職給付引当金等 (固定負債)	78.5億円
		出 資 金	347.5億円
		事業発展のための剰余金	86.9億円
合 計	829.7億円	合 計	829.7億円

* 「貸借対照表」は2017年3月20日現在のユーコープの財産状況を示す表です。

損益計算書

(2016年3月21日～2017年3月20日)

供給高	1772.5億円
供給剰余金	520.4億円
福祉剰余金	0.9億円
その他事業収入	42.5億円
事業総剰余金	563.8億円
事業経費	527.1億円
事業剰余金	36.7億円
事業外損益	8.7億円
経常剰余金	45.4億円
特別損益	△8.8億円
税引前当期剰余金	36.6億円
法人税等	1.9億円
法人税等調整額	△3.5億円
当期剰余金	38.2億円
繰越剰余金	3.7億円
当期未処分剰余金	41.9億円

* 「損益計算書」は2016年度1年間の事業の結果を示す表です。

おうちCO-OP

供 給 高	1,116.6 億円	(前年比 101.3% 予算比 100.5%)
かながわ	667.3 億円	(前年比 100.6% 予算比 100.3%)
しづおか	391.6 億円	(前年比 102.8% 予算比 101.0%)
やまなし	57.7 億円	(前年比 100.1% 予算比 100.6%)
組合員数 (個人・グループ合計)	475,026 人	(前年比 101.3% 予算比 99.6%)
個人宅配	406,339 人	(前年比 102.8%)
グループ宅配	68,687 人	(前年比 93.1%)
ママ割・ほほえみ割登録組合員数		
ママ割	91,832 人	(前年比 139.6%)
ほほえみ割	122,983 人	(前年比 107.3%)
e ふれんず登録組合員数	260,551 人	(前年比 106.7% 予算比 103.6%)
e ふれんず利用人数 (週)	98,666 人	(前年比 106.6% 予算比 104.3%)

夕食宅配マイシ

年 間 供 給 高	17.2 億円	(前年比 122.1% 予算比 107.9%)
かながわ	10.7 億円	(前年比 123.0% 予算比 108.7%)
しづおか	5.9 億円	(前年比 121.3% 予算比 108.5%)
やまなし	0.7 億円	(前年比 115.0% 予算比 93.9%)
年度末週間利用人数	11,732 人	(前年比 111.3% 予算比 106.5%)
年度末週間食数	60,615 食	(前年比 112.5% 予算比 107.4%)

店舗事業

供 給 高	590.9 億円	(前年比 94.7% 予算比 98.4%)
かながわ	462.1 億円	(前年比 96.3% 予算比 98.3%)
しづおか	126.4 億円	(前年比 89.0% 予算比 99.0%)
やまなし	2.4 億円	(前年比 94.8% 予算比 94.6%)
実 利 用 組 合 員 数	557,582 人	(前年比 95.5%)
月 平 均 利 用 組 合 員 数	373,175 人	(前年比 95.0%)
シニアパス発行者数	245,171 人	※15年4月度よりバス自動化のため、発行枚数ではなく誕生日登録をしている組合員の中での対象者数
子育て応援パス発行枚数	8,402 枚	(前年比 84.2%)
2016 年度店舗数	99 店舗	(2015 年度店舗数 101 店舗)
かながわ	81 店舗	(大型店 15 店舗 中型店 31 店舗 小型店 35 店舗)
しづおか	17 店舗	(大型店 6 店舗 中型店 9 店舗 小型店 2 店舗)
やまなし	1 店舗	(中型店 1 店舗)

*実利用組合員数=1年間で1回以上利用した組合員数

*月平均利用組合員数=月単位の利用組合員数の12カ月平均

*店舗数=年度末に営業している店舗数

共済

共済保有件数	422,692 件 (期首差 7,822 件 計画差▲1,480 件)
共済新規加入件数	32,832 件 (前年比 107.5% 予算比 91.7%)
共済給付受付件数	65,707 件 (前年比 97.9%)
共済給付金額	35.3 億円 (前年比 96.4%)

福祉事業

年間利用人数 のべ	28,192 人
(前年比	99.0% 予算比 98.5%)
期末ヘルパー人数	337 人
(前年比	100.9% 予算比 100.3%)

組合員よりユーコープに寄せられた声

宅配・店舗で聴いた声	7,320件	e ふれんずおすすめコメント	8,020件
もしもしコープ	6,309件	店舗拡大G担当者が聴いた声	4,950件
商品お申し出	12,368件	組合員活動で出された声	9,839件
おうちCO-OPサービスセンター	887,808件	CO-OP共済フリーダイヤル	6,892件

合 計 943,506件

2016年度 取り組んだこと

指針1. 組合員の立場で実践できる人と組織をつくります。

(1) 組織全体で組合員の暮らしをよく知り、組合員の声を生かす取り組みを前進させ、最後まで責任を持って応えることのできる人と組織にします。

- ・組合員の声を積極的に聴くさまざまな取り組みが広がっています。
- ・いただいた組合員の声をもとに、組合員の暮らしに寄り添った改善を進めています。
- ・店舗改装時にも、組合員の声を生かしています。

1. 「組合員の声を聴く、受けとめる、応える」取り組みが広がっています

組合員の声をメモに書きとめる取り組みを全店で開始しました。宅配センターや店舗では、メモの声をもとに「どうしたらよいか」を話し合い改善につなげています。メモの声やもしもしコープ、共済窓口などユーコープに寄せられる声を集めて共有化する「声の検討会議」には、2016年度から宅配センター長、店長や、各部の部長が月替わりで参加し、役員とともにグループワークをして組合員の気持ちに思いを巡らせ、ユーコープとしてどうしたら良いのか目線合わせをしています。

声の検討会議に参加して、組合員の声を皆で深堀りし、その方がどのような気持ちでその言葉を発したのかを考える良いきっかけになりました。自分の事業所でもこのような取り組みをやってみたいと思います。

おうちCO-OP横浜西部センター（横浜市戸塚区）センター長 宮崎 貴浩



組合員の声はその場でメモに書きとめます



集まった組合員の声を事業所内に掲示し、共有化・改善を進めています

2. 「お困りのことはありませんか？」の問いかけから

おうちCO-OPでは在宅組合員とのコミュニケーション向上や安心してご利用いただけることを目的に、配送担当者から積極的に困りごとをお伺いし、要望や疑問一つひとつにお答えする取り組みを8月よりスタートしました。担当者の声掛けにより「定期便の一時的な止め方を教えてほしい」「不在置き場を日の当たらないところに変更してほしい」といった質問、要望にお応えしました。

- ・おまかせ定期便の休み方が分からなかったのですが、簡単に休めることが分かり利用しやすくなりました。
- ・不在時のドライアイスを増やしてもらえることになり、安心して出掛けられるようになりました。

組合員の声

コミュニケーションを取る機会が増えたことで組合員との距離が縮まりました。また、組合員の不安を解決し、喜んでもらえた経験が配送担当者としての自信につながり、モチベーションの向上につながりました。

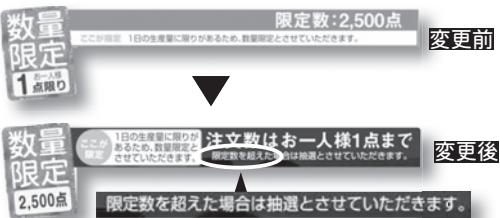
おうちCO-OP伊豆センター（伊豆市）供給マネジャー 鈴木 孝雄



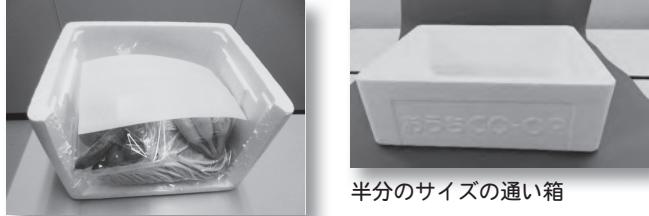
3. おうちCO-OPに寄せられる声で改善を進めています

「組合員の声改善報告会」を定期的に開催し、おうちCO-OPサービスセンターに寄せられる声から課題を発見し、「お買物めも」やお届け明細書の表記など、よりわかりやすく使いやすくなるよう改善を進めています。

【事例1】数量限定の商品に「お一人様〇点まで」の表示しかなかったため、必ず1点は届くとの誤解を生んでいました。「限定数を超えた場合は抽選とさせていただきます。」の文言を追加しました。



【事例2】「蓄冷剤（保冷剤）に野菜やくだものが触れて傷んだ品が届いた」という声を受け蓄冷剤を使用する期間は、物流センターで商品と蓄冷剤の間に緩衝材をセットしてお届けしています。また、以前より意見をいただいていた、小さいサイズの冷蔵品の通い箱を導入しました。



4. お店の近くの組合員宅を訪問してご意見・ご要望を聴き、改善に生かしています

2016年度に改装を計画した店舗にお仲間づくり担当者を配置し、改装前・改装後に、店舗近隣地域にお住まいの人たちへの訪問を実施しました。お会いできた方からは、ご意見やご要望、店舗に対する評価などを伺いました。ご要望に基づき、以前に中止した商品や新たな商品の品ぞろえを行いました。

ご要望いただいた商品を品ぞろえしたことをその方にお伝えしたところ、「ありがとう」と言われ、とてもうれしかったです。

旭ヶ丘店（茅ヶ崎市） 職員



2017年度 取り組むこと

指針1.組合員の立場で実践できる、人と組織をつくります。

(1)組織全体で組合員のくらしをよく知り、組合員の声を生かす取り組みを前進させ、最後まで責任を持って応えることのできる、人と組織にします。

- ・宅配や店舗の利用の場面で聴いた声からくらしを想像し、想いをめぐらせて受け止めることを大切に、聴いた声から改善につなげる取り組みを各事業所で進めます。組合員の声に応えた改善事例は機関誌などを通じてわかりやすく紹介します。
- ・宅配では配送担当者が組合員のお気に入り商品やその使い方を伺い、くらしを知る取り組みを進めます。組合員から聴いたくらしに役立つ情報は、担当者やお買物めも、eふれんずなどを通じて他の組合員に伝えます。
- ・おうちCO-OPサービスセンターや電話注文センターにいただく組合員の声や配達時に担当者が聴いた声を分析し、商品やサービスの向上につなげます。
- ・共済では、加入時・支払い時のアンケートやお問い合わせの内容を共有することで、正確な情報を提供し、正しく受付ができるようにします。
- ・福祉事業では、ユーコープに期待される要望に応えるため、ヘルパーの育成や採用、専門教育の実施などを進め、サービス提供ができる体制を確保します。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針1. 組合員の立場で実践できる人と組織をつくります。

(2) 目の前の組合員にとってどうなつかをものさしに、経営基本方針に基づき、自らの判断で実行できる人と組織にします。

- ・経営基本方針に沿った実践事例を共有し、自ら学び、考える場として、「実践事例発表会」(※)を開催しました。

- ・部内報に実践事例を掲載し、組織全体で共有しました。

※経営基本方針に沿った好事例を、事例の実践者からおうちCO-OPセンター長、店長、本部職員が聴く会

1. 一人ひとりの積み重ねがユーコープの価値と力になっています

【事例1】お休みの手続きを丁寧に案内

おうちCO-OP横須賀センター（横須賀市）

供給職員 石川 博之

連続でお休みされている組合員へ「2週以上のお休みなら手続きすると宅配サービス料が発生しません」というお手紙をお買物めもと一緒に届けました。

気持ちよくおうちCO-OPをご利用してほしいとの想いから、組合員の状況に合わせておうちCO-OPの利便性を伝えるように努めています。

石川さんは、センター内でも常に穏和で、組合員に電話する際も組合員へ配慮しながら丁寧にご案内しています。配送先でも、組合員の立場に立った行動を心がけ喜ばれているのだと思います。

おうちCO-OP横須賀センター
供給主任 飯澤 和浩



おうちCO-OP
横須賀センター（横須賀市）
供給職員 石川 博之

忙しく注文書を出せていませんでしたが、お手紙をいただき、お気遣いに感動しました。

組合員の声

【事例2】一人ひとりに合った対応を心がけています

おうちCO-OP静岡センター（静岡市葵区）

供給職員 山本 繁生

配達時に会えない組合員が多くなる中で、安心して利用していただけるよう、細かな点にも気を付けています。例えば商品の置き場所の日当たりがよく、商品の保管温度が心配な場合、置き場所が急に変更されたいたずらされたのかと心配する人もいるので、こちらから「冷凍品は溶けていませんか?差支えなければ置き場所を変えさせてください」と伝えています。年にのべ1万軒以上配達をしていますが、配達に関する不具合でお申し出をいただくことはほとんどありません。

山本さんはとても感じがいいので安心して利用しています。働いているので買い物が大変でおうちCO-OPの簡単・便利商品に頼りきり。きちんと届かなかつたら本当に困ります。

組合員の声



おうちCO-OP静岡センター（静岡市葵区）
供給職員 山本 繁生

【事例3】「この店で頼みたい」という気持ちに応えて

すすき野店(相模原市中央区) 副店長 児玉 友紀子

組合員さんから「お花のアレンジメントと一緒に果物のカゴ盛りを頼みたい」と言われました。小型店では果物のカゴ盛りは承っていませんが、近隣のユーコープの店にたずね用意できることになりました。よくこのお店に一緒に来ていた旦那さんの1周忌と納骨の法事に使いたかったとのこと。旦那さんの生前の好みに合わせた果物のカゴ盛りとお花のアレンジメントをお渡しすることができ、とても喜ばれました。

通常は承れないことを依頼されるることは多々あります。「コープの商品がいい」「すすき野店で買いたい」と言わわれるとその気持ちがうれしく、大切にしたいので、できるかぎりお応えしようといつも努力しています。



すすき野店(相模原市中央区) 副店長 児玉 友紀子

【事例4】組合員との売場でのコミュニケーションを大切に

竹山店(横浜市緑区) (株)コープ水産 近藤 恵一

猛暑や大雨で来店者が少ない時でもいつも変わらず、明るく元気な声でおいしい食べ方とともに旬の魚をおすすめしています。組合員とのコミュニケーションやどんなご要望にも応える姿勢を大切にしています。

そんな中、パックからはみ出た刺身のツマを気にする組合員のしぐさを目にしました。鮮度やボリューム感・色合いを重視するあまり「手に取った時の清潔感」がおろそかになっていたと気づき、水産部門全体で改善しました。



竹山店(横浜市緑区) (株)コープ水産 近藤 恵一

2017年度 取り組むこと

指針1.組合員の立場で実践できる、人と組織をつくります。

(2) 目の前の組合員にとってどうなのかをものさしに、経営基本方針のもと、自らの判断で実行し、自ら学び、考えていく、人と組織にします。

- ・職員自らが考え、目の前の組合員のために実践できる組織にしていくために、「できている人・できている事業所から学ぶ」ことができるよう担当者間の交流の機会を増やします。
- ・職員が自ら考えて行動するきっかけとなるよう、組合員の暮らしに寄り添った応対などの好事例を共有するツールとして、スマートフォンなどからいつでも閲覧できる「Web 部内報」をスタートします。
- ・組合員に喜ばれた事例や、働く仲間同士ですばらしいと感じた実践事例の共有を進め、組合員のために自らの判断で行動できる職員・パート職員を育成します。
- ・経営基本方針に沿った好事例を共有し、自ら学び、考える場として「実践事例発表会(※)」を開催します。
※経営基本方針に沿った好事例を、事例の実践者からおうちCO-OPセンター長、店長、本部職員が聴く会

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針1. 組合員の立場で実践できる人と組織をつくります。

(3) 一人ひとりが大切にされ、私も役立っていると実感できる人と組織にします。

- おうちCO-OPでは「あなたにまっすぐ。表彰」、店舗では「ありがとう表彰」、2016年度から新たに参加と連携推進本部で「地域・くらし貢献表彰」を実施し、組合員から喜ばれた事例や優れた事例について各事業所での共有化と水平展開をしました。

- CO-OP共済契約者から共済担当者へいただいた「ありがとうの声」のカードに部長が「声」をいたいた職員・パート職員へのメッセージを加筆して担当者へ渡しています。

1. 2016年度「あなたにまっすぐ。表彰」

おうちCO-OP宅配事業本部では、組合員や地域の方・職場の仲間に喜ばれた優れた事例を表彰しています。

2016年度推薦事例数 5,061件(2015年度 4,931件)

【事例】不在組合員に手紙をお渡ししてコミュニケーションがとれるようにしています

おうちCO-OP平塚センター(平塚市) 委託スタッフ 二宮 春樹

おすすめ品の配達週にはお礼と食べ方や使い方を書いた手紙を入れています。担当コースが変更になる際には、組合員に安心してご利用を続けていただけるよう、次の担当者の名前を記入してお知らせしています。

普段留守にしていますが、手紙が入っているので、おすすめ品を注文したことに対する感謝の気持ちが伝わり、「また買おう」という気持ちになります。担当者が変更になる際にもきちんとお知らせしてくれ、安心して配達を受けています。

組合員の声



2. ありがとう表彰

店舗事業本部では、職員・パート職員などの接遇で組合員にお褒めいただいた好事例を「ありがとう表彰」として表彰しています。表彰された事例は、すべての店舗で共有し、接遇レベルの向上につなげています。

2016年度472件(2015年度494件)

【事例】組合員にとって役立つ情報を提供します

八千代店(静岡市清水区) デイリーデ部分 パート職員 瀬本 和代

組合員さんが小麦粉を見ていたので、「今日必要ですか?明日から粉類が10%引きとなりますが…」と声をかけると、組合員さんは「買い置きなので、安い時に買うわ。ありがとう」と言われました。

翌日来店された組合員さんは、カゴの中を指しながら、「買い物にきました。安いので2個と、これも買いました!ありがとう!」と言ってくれました。

組合員の、その時求める物を提供するのが優先ですが、ときには、組合員にとって有益になる情報を伝えることも接遇につながるので、この事例を共有し、店内でこのようなコミュニケーションを取れるパート職員を増やしていきたいです。

八千代店 店長 海野 年起

組合員を考えての対応に感心しました。

組合員の声



3. 「ありがとうの声」カードの取り組み

2015年度よりCO・OP共済契約者から共済担当者へいただいた「ありがとうの声」をカードにし、手続きをした職員、パート職員に返す取り組みをはじめました。カードには宅配センターでは共済部長が、店舗事業では店舗運営部長が「声」をいただいた職員・パート職員へのメッセージを記入し、渡しています。

2016年度上期実績

宅配センター 282枚 店舗218枚

知人からのすすめで、加入時の1年以上前からCO・OP共済に入りたかったのですが、担当の福嶋さんが、親身になってくれたので、入りやすかったです。

組合員の声

今回、このようなうれしいお言葉、本当にありがとうございます。「どんなご相談でもお気軽にどうぞ!」という姿勢でいつも笑顔で共済センターに座っています。すべての組合員にCO・OP共済をお知らせし、加入していただくことが私の目標、夢です。

新沢田店（沼津市）共済担当パート職員 福嶋 晴美



4. 地域・くらし貢献表彰を開始しました

2016年度下期から県本部や福祉事業など、参加と連携推進本部で働くすべての人を対象に、経営基本方針に沿った取り組みで組合員や利用者に喜ばれた事例に対する「地域・くらし貢献表彰」を開始しました。この取り組みを通じて、経営基本方針に沿った行動が広がることをめざします。

【事例】振り込め詐欺を未然に防ぎました

コープケアサポートセンター旭（横浜市旭区）訪問介護員 土屋 里美

サービス提供中、ご利用者の電話のやり取りが気にかかり、もしかしたらと思い本人の了解を得て電話を代わったところ、先方は突然電話を切ってしまいました。ご利用者に、最近不審な出来事などは無かったかお伺いしてみると、携帯電話に憶えのないクレジット請求のメールが届き、問い合わせの連絡をしたことがあったとのことでした。電話で何度も「身に覚えはない」と伝えても、先方からしつこくされて困っていたところをヘルパーが気づき、今回の対応につながりました。



2017年度 取り組むこと

指針1.組合員の立場で実践できる、人と組織をつくります

(3)一人ひとりが大切にされ、私も役立っていると実感でき、経営基本方針のもと、力を結集できる、人と組織にします。

・職員、パート職員などへの感謝の言葉の共有や、働く仲間への感謝の気持ちを伝える「ありがとうカード」の活動を通じ、感謝される行動に光をあて、褒める文化を育てます。

・新しくスタートする職員向けのツール「Web部内報」を活用し、事業所や職員の小さな好事例も全体で共有できるようにします。

・組合員から「ありがとう」と言っていただいた事例を表彰する制度を組織全体で開始し、事例の共有を進めます。

(4)事業を担うことと同時に、地域でのつながりを、深め広げていくことを大切にできる、人と組織を目指します。

・総代懇談会や秋のつどいなど、組合員が集う場にさまざまな立場の職員が参加し、交流を深めます。

・「宅配センターまつり」「交通安全教室」「おひるねアート」「冠ゲーム」など、地域や組合員との接点を増やして地域でのつながりを深め、広めます。

・宅配、店舗の全エリア部長と事業系、組織系の本部長、部長が一同に会する場を定期的に設け、地域でのつながりや事業と活動が連携した好事例を共有し、取り組みを推進します。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針2. 組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

(1) 全事業で新規組合員拡大を推進し、ユーコープ全体の利用を広げます。

- ・あらゆる場面でユーコープをご利用いただけるように、さまざまなサービスを横断的に広くお知らせしました。
- ・食材管理、家計管理がスマートフォンでできる「ユーコープmyアプリ」ができました。

1. 改装休業によるご不便を最小限に

店舗と宅配の職員が一緒に、改装休業する店舗近隣宅を訪問し、改装のため休業中のお買い物の手段としておうちCO-OPのご利用を案内する取り組みをしています。一緒に訪問することで、店舗改装のお知らせとともに組合員の暮らしに合わせたおうちCO-OPの利用についても提案ができます。

最初は宅配サービス料が無料の期間だけ試してみようと始めたのですが、野菜や果物も新鮮なものが届いて、飲料やお米など重たいものも玄関先まで配達してくれるのでとても便利。お買い物の時間が短縮できて趣味の時間を増やせました。今後もお店とおうちCO-OPの併用利用を続けるつもりです。

旭ヶ丘店（茅ヶ崎市） 組合員

組合員の声



2. 店舗の新規加入手続き時に宅配をご案内

店舗のサービスカウンターで新規加入受付時に宅配利用案内をすすめて店舗とおうちCO-OPの両方のご案内をしています。



新しくユーコープの組合員になられた皆様へ

本日 生協の宅配 おうちCO-OPの資料請求をしていただきますと
ふれあいポイント 300ポイント差し上げます!!

コープでお店と宅配をいっしょに使っている人
なんと5人に1人

新規出資金は不要です。簡単な登録だけでご利用になります。
資料ご希望の方は、フリーダイヤル (0120-581-111) から電話連絡させていただきます。

店舗での宅配利用案内チラシ

3. 冷蔵庫の中身をスマホでチェック! 便利なアプリ

ユーチュープの組合員のための、食材管理や家計管理が簡単にできる「ユーチュープmyアプリ」ができました。おうちCO-OPやユーチュープの店舗でのお買い物情報は自動的に、他のお店で買ったデータもレシートを撮影するだけでアプリ内の“かんたん家計簿”に取り込まれるので、家計簿で最も手間のかかる「入力作業」が軽減され、気軽に家計管理ができます。また、同時にアプリ内の“冷蔵庫チェッカー”にもお買い物情報が自動反映され、外出先からでもスピーディに在庫を確認することでき、買い忘れや賞味期限切れも防げます。アプリ配信ストアから無料でインストールできます。

登録件数 6,026件 (2017年3月20日現在)

- 帰宅してから夕飯を考えるより、電車通勤の際に夕飯を考えられるので便利です。
- 事前に宅配のお届け商品が分かるので、同じものを買うことがなくなり、無駄がなくなりました。開始当初から愛用しています。

組合員の声



“かんたん家計簿” イメージ

“冷蔵庫チェッカー” イメージ

4. (株)コープライフサービス 「無料映画上映会」開催

日頃からのご利用への感謝と、ユーチュープの子会社(株)コープライフサービスの事業をより詳しく知っていただくことを目的に、2016年8月に静岡、2017年2月に神奈川で「無料映画上映会」を開催しました。

(株)コープライフサービス事業の紹介後、静岡会場では「ファインディング・ドリー」、神奈川会場では「恋妻家宮本」を上映しました。



2017年度 取り組むこと

指針2.組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

- (1) 一つひとつの取り組みが、円滑につながり、組織全体の力を発揮することで、供給を通じた利益を増やし、コストを低減させて、継続的に収益が増える構造をつくります。

組合員の期待に応える商品・サービスを継続的に提供するための収益を生み出すために、各事業所で業務の効率化・コスト削減を進めることができます。

- おうちCO-OPでは、「チラシ、カタログが多い」という組合員の声を受けて、下期から一部紙面の選択配布を開始し、カタログ制作にかかるコストの削減も進めます。
- 5月より衣類のカタログ「スクロール」商品の配達を宅配便からおうちCO-OPの配達ルートに変更します。おうちCO-OPの商品と一緒に届けすることで配達コストが削減でき、商品の返品などがより便利になります。
- 宅配の営業職員が使用する携帯電話をスマートフォンに切り替えます。訪問先で配達曜日が案内できるなど、利用手続きがスムーズに行えるようになります。
- 店舗では、曜日別セールやポイントプロモーションの内容について、より組合員が利用しやすく効果的なものに見直しを進めます。
- 現場と本部の役割を見直し、桜木町本部の機能を絞り込みます。本部のフロア数も減らし、本部にかかる経費を削減します。
- 桜木町本部では、職員がどこでも仕事ができるようにシステムを整備し、固定席を廃止することで、部局を越えた会話や仕事の知恵が生まれる環境を作ります。また、本部職員が組合員に近い店舗や宅配センターで仕事をすることも可能になります。
- 備品や業務で使用する消耗品の発注先や方法の整理と見直し、業務手続の電子化などを進め、業務を効率化し、経費を削減します。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

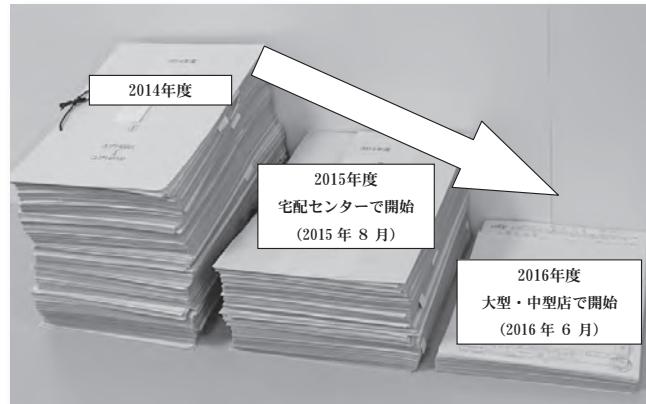
指針2. 組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

(2) 組織全体でコスト削減の追求、作業効率や費用対効果を高め、収益性を改善します。

- ・申請書を電子化することで、作業の効率化を進めました。
- ・おうちCO-OPでは物流効率を高め、配送費用の削減を進めました。
- ・店舗ではLED照明や、デマンド監視システムの導入、広告の効果的な使用により損益改善を進めました。

1. 内部で使用する申請書を電子化して作業を効率化

従来、複写式の紙で処理していた交通費や稟議書の申請手続きを電子化することで書類の作成が簡易になりました。また、記載不備の確認作業も軽減され、宅配センターや店舗だけでなく本部の事務作業を減らすことができました。



2. エネルギー使用量の削減

2016年度は8店舗へのLED照明の導入（2016年度末で19店舗導入）、デマンド監視システム（※）の店舗数拡大（2016年度末で36店舗導入）、そして日常的なエネルギー削減に向けた職員・パート職員の行動（夏の暑い日には、室外機に水まきをして温度を下げたり、休憩室・更衣室など使用時以外は消灯するなど）によって、電気使用量・電気料金を削減することができました（904万円削減）。

2016年度 LED照明導入店舗

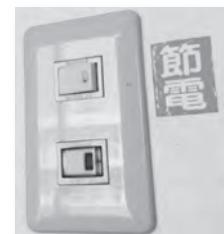
日限山店（横浜市港南区）、厚木戸室店（厚木市）、
桜台店（横浜市青葉区）、長井店（横須賀市）、岡崎店（平塚市）、
ミオクチーナ小豆餅店（浜松市中区）、城北店（静岡市葵区）、
ハーモス荏田（横浜市青葉区）



LED照明導入 厚木戸室店（厚木市）

※ デマンド監視システムとは…

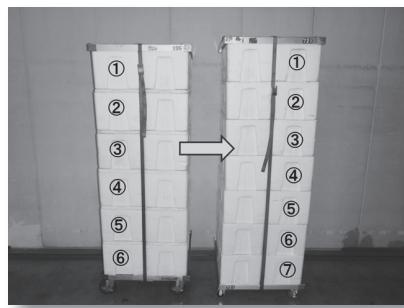
デマンド値（最大需要電力）が目標電力を超えそうになった時に、警報を発信することにより、あらかじめ決められた手順（空調機を消す、室外機に水をまくなど）を実施して、デマンド値の抑制を図るためのシステム



作業室も使用時以外は消灯しています

3. 商品1点あたりの配送料の削減

2015年度、しづおかエリアの冷蔵品通い箱の台車1台あたりに積む箱数を24箱(4箱×6段)から28箱(4箱×7段)に増やし、宅配センターへの配送料の削減を行いました。2016年度は、同様の取り組みをかながわ・やまなしの冷蔵品、かながわ・しづおか・やまなしの農産品でも実施したこと、商品1点あたりの配送料を引き下げることができました(2015年度比91%)。



4. 事業所の施設管理に関する経費を削減

宅配センターや店舗、ケアサポートセンターの維持・管理のために行っている、各種清掃作業や法定を含む点検作業、清潔な状態を保つための防虫・防鼠などにかかる費用の見直しを行いました。

作業内容や頻度の見直し、相見積実施による委託先の変更などにより、年間2,700万円の経費を減らすことができました。

施設管理費・衛生費等業務委託金額(年額)

見直し前: 2億9,500万円

見直し後: 2億9,800万円

削減額: 2,700万円

5. 店舗の広告宣伝費の効果的な使い方

新聞購読率が年々低下する中で、組合員へ効果的にお知らせするために電子チラシ(※)に取り組んでいます。チラシが発行されない週もPOPなどを掲載し、お買い得情報が分かる工夫を行っています。

※電子チラシとは…パソコンやスマートフォンで見ることができるチラシ



2017年度 取り組むこと

指針2.組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

(2) 地域の中で、全事業が相互に連携し、組合員のくらしの願い、組合員の期待に事業で応え、地域の中に、組合員の輪を広げるため、お仲間づくりを進めます。

- ・店舗にお仲間づくりを進める「ご案内ルーム」を新設し、各地域のイベントでユーコープのお店の案内など地域でのコミュニケーションを強化し、より多くの方にご利用いただけるようにします。
- ・新しくユーコープの組合員になられた方には、必ず、コープ商品のひとつとしてCO・OP共済をご案内する取り組みを進めます。
- ・組合員のくらしに合わせて、宅配と店舗を組み合せてご利用いただけるよう、2018年度からの実施に向けて宅配と店舗のポイント共通化の準備を進めます。
- ・宅配と店舗を併用している組合員に喜ばれるプロモーションなどを検討します。
- ・宅配センターでは、普段配達している地域社会への貢献として「交通安全教室」の開催を20会場を目標に進めます(2016年度18会場)。
- ・妊娠中や子育て中のママを応援するための情報サイト「子育てクラブ(仮称)」をスタートします。商品のお届けだけでなく、子育てに役立つ情報の発信やママ組合員同士のコミュニケーションの場、各種イベント情報などの提供でママのくらしをサポートします。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針2. 組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

(3) 組合員の声を大切に、くらしの願いに応える商品を、組合員とともに育て広げます。

- ・ユーコープならではの価値を追求した商品づくりに取り組み、ユーコープセレクションとして商品開発を進めました。味菜卵を使った茶碗蒸しや、エクストラバージンオリーブオイルなど2016年は43品目を発売しました。

- ・日本生協連とともに、コープ商品の見直しを進めました。

1. 愛され広がっていますユーコープセレクション

(1) ユーコープセレクションに新しい仲間が増えました(43品目)



CO・OP エクストラバージンオリーブオイル
ぜひ生食で試してみたいですね。冷製パスタで味わいたいと思います。くどさもなく、口に残ることもないので、とても良いオリーブオイルだと思いました。

サザエさんママさん

CO・OP 味菜卵と国産具材の茶碗蒸し

味菜卵を使用しているので味がいい。だしの味もよい。国産具材で化学調味料不使用なので安心して子どもに食べさせられます。

りょうママさん



グリーン・プログラム

ながさき南部生産組合の新たまねぎ
本当においしい新たまねぎで大好きです!
コープの商品で一番のお気に入りです。生産者の方々と大地の恵みに感謝!

Y.Yさん



(ユーコープセレクション先行試食会参加者)

初めて参加させてもらい、熱い思いやこだわりを聞けて今まで以上にファンになりました。今まで買ったことのない商品ばかり試食させてもらい勉強になったし、周りにも広めていきたいと思いました。

りかさん

組合員の声

3県産品で地産地消

わたしたちのくらす地域で生産されたものや、それを原料にした加工品を開発しました。身近な商品としておいしさを味わい、愛着をもって育てます。

2016年度開発件数 7件



(2) 組合員が参加♥育てています

グループインタビュー

美味しい白だし



2016年の秋、「ユーコープならでは」の特徴がある「白だし」がユーコープセレクションシリーズのひとつに加わりました。発売に向け、神奈川県・静岡県・山梨県の3会場で各2回「試食会」を開催。既存の「CO・OP料理用白だし」と市販品を食べ比べ、意見交換を行いました。ここでの意見を反映して開発されたのが、今回の「美味しい白だし」です。

開発にモニターとして関わらせていただいたが、“使わないであろう白だし”から“レギュラー入り確実”と変化しました。この超絶おいしい白だしを皆さんにもぜひおすすめしたいし、一度試して味わってもらいたい至極の白だし商品です。

ぶどう姫さん

組合員の声



ユーコープオリジナルの化粧品を開発するにあたり、秋のつどいで総代・組合員の皆さんにアンケートを行ったり、使い心地や基本コンセプトについて組合員グループインタビューを実施。いただいた意見をもとに、商品の構成や香りの方向性を決め、試作を繰り返しました。完成した化粧品をインターに参加した組合員に1ヵ月間試していただいたところ、高い評価をいただきました。

最初に試した時より、格段に品質がUPしているように思います。実際の商品を手にしたら、我が子のように愛しく思うでしょう。発売を心待ちにしています。

あんど～なつさん

組合員の声

産地で体験



特栽米秋田大潟村あきたこまち、玄米

2016年11月にユーコープセレクションとして包材のデザインを変更して発売しました。それに伴い産地の生産者の方々と組合員の交流を開始し、実際に田んぼに入り、田植え・稲刈り体験を行いました。

秋田県に來るのも田植えも初めてで良い経験になった。生産者の方のご苦労を伺って、大潟村あきたこまちに対する信頼が深まった気がします。これからはお米を大事にいただきたいと思います。

組合員の声



旬に搾った信州のトマトジュース（食塩無添加）

2016年9月にユーコープセレクションとして包材のデザインを変更して発売しました。8月の収穫時に実際に産地に行き、ジュースの原料に使用しているトマト「愛果（まなか）」についての学習や収穫体験を行いました。

赤く熟れたトマトを選ぶとすっかり童心に返りました。こういうイベントには初めての参加でしたが、商品の価値、おいしさを実感でき、これから生協商品にも愛着がわきました。とても楽しい時間が過ごせました。

組合員の声

(3) すごいぞ!コープ商品まつり

「すごいぞ!コープ商品まつり」は、「コープ商品をもっと好きになり、仕事をもっと楽しむ」ことをめざした、ユーコープで働く全員が参加できるイベントです。2015年度は「CO・OP若鶏ももから揚げ和風醤油味」のリニューアルにモニターとして職員・パート職員が参加しました。

2015年12月～2016年1月に「試食モニター」を募り、抽選で選ばれた職員・パート職員など約1,000人が参加し、3回にわたって試作品の試食アンケートを実施し、意見を出し合いました。多くの方に商品開発に参加していただき、2017年3月の発売をめざし、取り組みました。

しかし、発売直前の2017年2月、「はぐくみ鶏」の産地で鳥インフルエンザが発生し、発売延期を余儀なくされました。

現在、販売に向けた最終調整中で、販売時期は未定です。



いろいろ工夫されていて、何度も試作を重ね、結果が良くなっている経過がみれたこと、参加できたことに感謝しております。

おうちCO-OP川崎中部センター
(川崎市宮前区)
営業リーダーパート
松尾 裕子

家庭的な味でサクサクっと食べられました。本当に手作りっぽかったです。

組合員の声



完成を記念してのお披露目会の様子

2. コープ商品の見直しが進んでいます

(1) 組合員の声をもとに改善しました

【事例1】ミックスキャロット

声 家族にマンゴーアレルギーがあるので、ミックスキャロットにマンゴーが入ってしまったのが残念です。



▼
マンゴーを抜きました。にんじんに加えて、りんごとみかんも国産に切り替え、全体の85.5%が国産原料になりました。素材を生かした飲みやすい味に変更しました。

【事例2】

声 パッケージについているひよこの目をサブレ自体にも入れられたらかわいいですね。

▼
ひよこの型に目を新たにつけました。併せてお子さんにも安心して食べていただけるよう、原料も国産小麦に変更しました。個包装のパッケージにも、アレルギー物質の表示を追加しました。



改善前



改善後



(2) 組合員の声からもっと見やすく・使いやすく

パッケージの見やすさ、わかりやすさの改善につなげるため、旭ヶ丘店（茅ヶ崎市）の店頭で和惣菜、豆腐のあけくち表示についてアンケートを実施、白根店（横浜市旭区）では、和惣菜の包材に表示している情報の見やすさについてグループインタビューを実施しました。アンケート結果やインタビューでいただいた意見は、日本生協連を通じてコープ商品の改善に生かしていきます。

シニアの方を中心に100名を超える組合員からたくさんの意見を聞くことができました。この結果を参考に順次、表示の改善を進めていきます。

日本生協連 担当職員



旭ヶ丘店店頭アンケートの様子

(3) 忙しい家庭を応援「コープのかんたんレシピ」を紹介

コープ商品を使って、おいしく、短時間で健康的な料理ができるよう、家庭料理研究家の奥薗壽子さんオリジナルのレシピを展開しています。商品からアクセスできる「コープのかんたんレシピ」マーク付きのコープ商品を店舗の売場、お買物めもで紹介しています。

◆ 「コープのかんたんレシピ」アクセス方法



3. 家事支援サービスの開始

横浜市・川崎市在住の総代からいただいたアンケートを参考に、2016年9月21日より横浜市・川崎市在住の組合員を対象に、「掃除」「買い物」「草取り」などの「普段の家事サポート」として家事支援サービスを開始しました。なお、組合員からの要望にお応えし、2017年1月より対象エリアを神奈川県内全域に拡大しました。また、9月末には静岡県内でのサービス展開を予定しています。

※山梨県内へのサービス拡大は現時点では未定です。

足が不自由なため、お風呂掃除をお願いしたら見違えるようにきれいになって大満足でした。高いところまで掃除してもらい大変助かりました。定期的にお願いしたいと思います。

組合員の声

まだスタートしたばかりのサービスです。今後もサービスエリアとサービス内容を拡大していく予定ですが、該当地域の総代や組合員の声をサービス内容に反映させていくことを大切に進めています。

(株)コープライフサービス
サービス事業部 サービス課長 大川 清広



2017年度 取り組むこと

指針2.組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

(3) 組合員の声を大切に、商品を通じて組合員のくらしを深め、組合員とともに育て広げます。

コープの良さが伝わり、より多くの組合員に喜ばれ、ご利用につなげていくことが課題です。

- ・コープの産直・産地指定商品をはじめ、ユーコープならではの価値を追求したユーコープセレクション商品の開発・お知らせを進めます。
- ・お店や宅配のご利用時に伺った声や集いやイベントで出された声を継続的に商品改善に生かします。
- ・組合員モニターやグループインタビューなどを開催し、商品開発や改善に組合員の意見を生かします。
- ・商品を身近に感じていただくために、産地と組合員が交流する機会を作ります。また、声を生かした開発や改善など商品の背景についての情報発信を積極的にしていきます。
- ・地域に密着した生協をめざし、その地域で利用の多い商品や地域ならではの商品の取り扱いを部分的にはじめます。
- ・フライパンやお鍋ひとつでできる食材キットやすぐに食べられる総菜など、下処理済み、調理済みの商品の取り扱いを増やします。
- ・健康や環境に配慮、在宅介護へのお役立ちなど、アクティビシニアのくらしに対応する商品や情報提供を進めます。
- ・子育てしている組合員モニターの声を生かして開発したコープ商品の新ブランド「きらきらステップ」の取り扱いをスタート。離乳食に便利な下ごしらえ済みの素材系冷凍食材など子育て世代を応援する商品シリーズです。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針2. 組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

(4) 宅配事業は、実利用人数を増やすとともに、事業伸長と収益性を高めることで、将来にわたって発展し続ける事業にします。

- ・配食事業でやわらか食、介護食など「健康管理食」をスタートしました。

- ・おまかせ定期便の2週に1回・4週に1回の配達や、多様なカタログの発行、マイシィのサラダセットの開始など、組合員の声に応えた利用しやすさの改善に取り組みました。

1. 配食事業でやわらか食、介護食など「健康管理食」をスタート

高齢化に伴い、組合員から「やわらかめのおかずを食べたい」「糖尿病に対応する食事を開発してほしい」など、個々の体調に合わせた商品の取り扱い要望が増えています。

そこで組合員の声に応えるため、新たに「コープの健康管理食」をスタートしました。1日2食または3食の食事を1週間分まとめてクール宅配便でお届けするサービスです。おいしさにこだわり、すべて冷蔵でお届けします。

【ご利用実績】

週間ご利用食数253食（1月3週時点）

やわらか普通食	108食
きざみ食	19食
ムース食	8食
カロリー調整食	55食
たんぱく調整食	63食

種類	対象	コース名
やわらか普通食	健康なご高齢の方	やわらか普通食
介護食	かむりや飲みこむ力が弱い方	きざみ食 ムース食
カロリー調整食	糖尿病、ダイエット中の方	カロリー1600調整食 カロリー1440調整食
たんぱく調整食	腎臓病、人工透析をしている方	たんぱく40g調整食 たんぱく60g調整食



やわらか普通食



ムース食



きざみ食

2. 「ママ割」無料期間延長

「ママ割」は小さなお子さんがいる方の宅配サービス料を割引する制度です。2016年3月21日より「ママ割」を見直し、宅配サービス料半額期間を延長しました（お子さんが7歳になるまで）。さらに、2017年1月23日より無料期間を延長しました（お子さんが3歳になるまで）。お買い物される量の多少にかかわらず、ご利用いただきやすい宅配サービス料とすることで、子育てを応援します。

「無料期間が、1歳未満から3歳未満までに延長となりました」とお伝えすると、多くの方に喜んでいただけます。何かとお金がかかる子育て世代を、これからも応援していきます！

おうちCO-OP横浜北部センター（横浜市緑区）
営業主任 山田康介



3. おうちCO-OP冠ゲームの実施

組合員の満足度向上と、おうちCO-OPの認知度向上を目的に、初めておうちCO-OP冠ゲーム(※)を開催しました。7月の横浜DeNAベイスターズ戦と10月のジュビロ磐田戦に各50組200名の組合員を抽選で招待しました。また、試合への招待だけでなくスタジアム見学ツアーや、始球式、花束贈呈、選手との写真撮影など、普段は経験できない各種イベントに組合員が参加する機会をつくりました。

※冠ゲームとは…プロスポーツ試合への単独協賛

- ・来年もぜひよろしくお願いします。
- ・サッカー選手に憧れている息子には、夢のような時間でした。
- ・貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

組合員の声



横浜DeNAベイスターズ冠ゲーム



ジュビロ磐田冠ゲーム

4. 夏場の冷凍品質向上キャンペーンの実施

冷凍品の溶けに関するお申し出の多い6月2週から9月1週の期間を冷凍品質向上キャンペーンと位置付け、お申し出の削減に取り組みました。キャンペーン開始前から配送担当者全員が冷凍お届け品作業手順学習とセルフチェックによる手順の定着を進め、品温管理を徹底しました。また、組合員に対してお買物めもや明細書案内で、帰宅時間に合わせてドライアイスを増やせることや不在置きする取り組みをお伝えしました。

冷凍品溶けに関するお申し出件数 前年比68.6%

キャンペーンとして取り組んだことで、配送担当者の冷凍品の扱いに対する意識が高まりました。組合員の帰宅時間に合わせてドライアイスを適正量を投入できるように、帰宅時間をお伺いするなど組合員の立場に立った取り組みが進みお申し出を削減できました。

おうちCO-OP横浜新山下センター（横浜市中区）
供給マネジャー 篠原 啓徳



夏場の冷凍品についての明細書案内

配達の時間にいないことを配送担当者に伝え、不在置きしてもらいました。21時に帰宅しましたが、冷凍品がしっかり凍っていて安心しました。

おうちCO-OPサービスセンターに入った声

組合員の声

5. おまかせ定期便が利用しやすく

「おまかせ定期便」を利用する組合員から「毎週注文しなくてよいので便利」「注文忘れがなくてよい」と声がある一方で「毎週だと多すぎる」「お米やティッシュなどを毎月自動的に届けてほしい」などの意見を聞いていました。これら組合員の声を受け、5月4週配達より順次、2週に1回配達27品目、4週に1回配達18品目の計45品を追加し、組合員の利便性を高めました。



6. コープの夕食宅配マイシィでサラダセットを開始

2016年秋より、マイシィのお食事とセットでお届けするサラダの供給を開始しました。それまでは、週に1回袋入りのカットサラダを扱っていましたが、2~3人前という量もあり、マイシィご利用組合員にとって、利用しにくい商品でした。そこで1人前の日替わりサラダを、毎日のお食事とセットでお届けできるようにしました。マイシィのご利用者からの「生野菜が食べたい」の声にお応えできました。

サラダセットの平均利用率 0.27%→3.03%



7. 多様なカタログの発行

組合員から、どこに何が載っているかわからない、同じような商品が複数のカタログに掲載されている等のご意見を多くいただきました。多様化する組合員の幅広いニーズに応え、わかりやすく・楽しくお買い物ができるように非食品を中心に9月4週企画よりそれぞれのテーマに特化したカタログの発行を行いました。



介護食・介護用品に特化したカタログ
「Care Time」



調理器具関連に特化したカタログ
「DEAR HOME」



シニア向け趣味・雑貨に特化した
カタログ「DEAR Age」



化粧品に特化したカタログ
「COSME」



大型商品など宅配便企画に特化した
カタログ「HAPPY COLLECTION」



衣類・寝具・インテリアに特化した
カタログ「Style memo」



季節の必需品となる日用品に特化した
カタログ「暮らしと住まい特集」



CD・書籍・文具に特化したカタログ
「かるなび」

8. おうちCO-OPポイント 200円から付くようになりました

これまで4,000円（税別）以上ご利用の場合に、200円（税別）ごとに1ポイントが貯まる仕組みでしたが、2016年3月4週からはご利用金額にかかわらず、どなたでも200円（税別）につき1ポイントが付くようになりました。

200円からポイントが付くようになりました。金額を気にせず買い物ができ、気持ちが楽になりました。身体に安全、安心なものを供給してください。期待しています。

組合員の声



9. おうちCO-OPのCMを放映

まるごと産直の産地、ながさき南部生産組合の生産者である永友さんにもご出演いただき、玉ねぎを素材にCMを作成しました。毎年産地にお届けしている「組合員からの手紙」をおうちCO-OP職員がお預かりする様子を映し、組合員と産地とおうちCO-OPの3者のつながり、顔の見える安心感を表現しました。



10. ご不明な点を調べやすいように、ホームページを改善

おうちCO-OP・コープの夕食宅配マイシィ・eふれんずのホームページに掲載されている「よくあるご質問」の内容を充実させました。また、キーワード検索機能の追加や検索見出しの改善をおこなうことで、組合員が見つけやすい状態をつくり、サービスセンターへ問い合わせしなくとも、インターネット上で解決できる仕組みを構築します。さらに、電話やメールでの問い合わせ状況を分析し、組合員に必要な情報の掲載を進めます。

2017年度 取り組むこと

指針2.組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

(4) 宅配事業は、組合員とのつながりを強め、組合員の暮らしに役立ち続けることができるよう、事業伸長と収益を増やし、将来にわたって、地域の中で発展できる事業にします。

- ・担当者の応対や冷凍食品の溶けに対するお申し出削減の目標を掲げて取り組み、配達や応対品質の改善を進めます。
- ・2018年度からの導入に向け、高齢の方に使いやすい新しい注文書の検討と準備を進めます。
- ・夕食宅配マイシィは、現在月・水・金と曜日固定の3日間コースを、曜日が選べるようにします。
- ・これまで配達トラックに搭載して事故削減に効果が出ているシステムを一部営業車にも導入し、車両事故のさらなる抑制につなげます。
- ・お買物めも紙面に月に1回程度掲載している「みんなの声をきかせください！」コーナーを改善し、商品の使い方、調理方法などが書き込めるようにし、紙面づくりに生かします。
- ・組合員に「お気に入り商品」を聞く取り組みを進め、組合員のお気に入り商品を紙面に掲載しておすすめします。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針2. 組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

- (5) 店舗事業は、既存店の来店者数減に歯止めをかけるとともに、経常剰余黒字店舗を増やし、コスト削減と業務の効率化で、経常剰余赤字を削減し、持続可能な事業に再構築します。
- ・組合員に支えられて、店舗の誕生祭イベントや年末予約のお知らせ、生産者による産直市などを行い、多くの方にユーコープを知っていただきました。
 - ・2016年度は6店舗の改装を行いました。
 - ・閉店提起店舗7店舗の存続を図るために、組合員、店舗と本部が一体となって、さまざまな取り組みをし、2017年度は全店が営業継続となりました。

1. 組合員に支えられて

各店舗では、地域の組合員に支えられて、さまざまな取り組みを継続的に行ってています。コープ商品をより多くの組合員に知っていただくための普及活動、店舗の誕生祭イベント、年末予約のお知らせなど、たくさんのご支援をいただいています。

すすき野店（相模原市中央区）では、地域の組合員にご協力いただき、年末予約のお知らせ活動を行いました。ときには、注文書を持ってお知り合いに訪問していただくこともあります。

毎年、年末予約商品のおすすめをしています。組合員に試食をしていただき、生の声を聴いています。新商品や私たちのお気に入り商品をおすすめし、すすき野店の年末予約の注文につながるように、みんなで声をかけて活動しています。

ユーコープふれんず
すすき野店をささえる会

組合員の声



すすき野店 年末予約商品のおすすめの様子

寺尾台店（川崎市多摩区）では、6月5日に「第35回誕生祭」を店舗くらぶの皆さんや、組合員、職員、パート職員が一丸となって開催しました。

お店がにぎわっていて、久しぶりに会う方もいたので楽しかったです。

寺尾台店 組合員

組合員の声

2. 産直市開催

消費者と、食べ物の生産にたずさわる皆さんとの交流の場としてコープの産直・産地指定の生産者をユーコープの店舗に招き、試食や商品のおすすめをする産直市を開催しました。今年は11月に茶美豚、はぐくみ鶏、ひとめぼれの生産者が売場で組合員とともに商品の試食・おすすめを行い、来店者に「顔が見える産直商品」をアピールしました。また、産直市の前後では、生産者と組合員の交流会も開催しました。



片倉店での様子
(横浜市神奈川区)



緑ヶ丘店（掛川市）での生産者との交流の様子

3. 利用しやすい店舗をめざした取り組み

①できたて総菜

時間帯別の来店人数と、商品分類ごとの利用状況を把握し、それぞれの時間帯に必要な生産体制をとることで、より利用しやすい総菜売場をめざしています。



できたて総菜

③少量パックの配置と糖度表示の実施

少人数家族にも利用しやすい少量規格や果物のおいしさの目安をお伝えする糖度表示の実施を徹底しています。



少量パックの配置



売場での糖度表示

②小型店の品ぞろえの見直し

小型店の品ぞろえの見直しを店舗改装とは別に、職員・パート職員の手作業で実施しています。

手作業で改装して大きく拡充・コーナー化した
長井店（横須賀市）簡単・便利商品コーナー

④健康スポットターの装着

健康に配慮した商品がひと目で分かるように売場にスポットター（※）をつけています。

※スポットターとは…

その棚にどのような商品が置かれているかを伝えるための小型POP



健康スポットターの一例

4. 店舗組合員感謝デー開催

2015年の総代懇談会で、シニアの組合員、子育て中の組合員だけではなく、食べ盛りの子どもがいる世帯にもお得になるサービスがほしいというご意見をいただきました。

これを受けて、2015年度からはたくさん利用するとお買い得になる企画として「食べ盛り家族応援団」を開始し、2016年度からは「組合員感謝デー」と題して、ポイントカードを提示すると誰でもお買い物総額5%割引となる企画を開始しました。



湘南辻堂駅前店（藤沢市）の様子



茅ヶ崎高田店（茅ヶ崎市）の様子

5. 改装・売場変更実施

【事例1】 旭ヶ丘店（茅ヶ崎市）

1992年以来初めてとなる大規模な改装をしました。組合員からもっともご要望の多かった総菜の品ぞろえを大幅に増やすなど、各売場で組合員の声を生かしました。



広くなった総菜売場

地場野菜の品ぞろえも充実しました

品数がすごく増えました!今まで
は足りないものはバスで他の店に
買いに行っていたけれど、これから
は旭ヶ丘店でそろいそうだから
助かるわ。お肉もお総菜も種類が
多くて満足!

組合員の声

各種総菜の充実と、リニューアル前から取り組んでいた青果の鮮度向上に徹底して取り組み、もっと期待に応えられる売場にしていきます。もちろん、接遇も地域1番をめざします。

旭ヶ丘店 店長 須藤 良徳



【事例2】 桜づつみ店（駿東郡）

老朽化した冷蔵・冷凍設備の入れ替えとあわせて、全面的に売場レイアウトと商品構成を見直しました。主な通路を広げて買いやすさを追求し、総菜や地場産の品ぞろえを増やしました。



大にぎわいの店内の様子

青果売場の通路が広くなりました

通路が広くて、通りやすく
選びやすくなりました!
タカキベーカリーのパンが
あってうれしい。他のスーパーでたまに見かけるとい
つも買っていたのですが、
これからはユーコープで買
えますね。

組合員の声

競合店より支持されるために大切なのは、第1に接遇、第2にユーコープらしさや味を伝えることだと考えています。私たちの顔を覚えていただるために各売場に責任者の顔写真を掲示したり、コープ商品をこれまで以上におすすめしたり、試食に力を入れたりします。

桜づつみ店 店長 塩田 健一



6. 閉店提起店舗の取り組み

2016年度閉店提起7店舗（※）は全店が2017年度営業継続となり、2017年度末の閉店は、2015年度に決定したハーモス相模大野1店舗となりました。ただし、営業継続7店舗のうち、2店舗が2017年度も閉店提起店舗となります。閉店提起店舗では、組合員にご支援いただき、店舗と本部が一体となって、利用促進はがきの発送や年末予約商品の紹介と試食会開催など、さまざまな取り組みをしました。

※ハーモス座間（座間市）・大豆戸店（横浜市港北区）・いずみ野店（横浜市泉区）・秦野曾谷店（秦野市）・緑ヶ丘店（掛川市）・下野東店（静岡市清水区）・ちづか店（甲府市）

7. 店舗基本課題の実施

店舗基本6課題のひとつである「応対改善」を課題として推進し続け、組合員の皆さんから喜んでいただけた事例が増えてきました。

【事例3】 片倉店（横浜市神奈川区）

鮮魚売場で扱っていたお寿司（「お魚屋さんのお寿司」）を総菜売場のお寿司コーナーにまとめておくようにしました。組合員の皆さまから、選びやすくなったとのお声もいただいています。また、お肉の一部を店内加工としました。2017年度以降、安定した経常剩余黒字をめざします。



お肉の一部が店内加工になりました



寿司売場の様子

海鮮バラチラシを買いました。おいしそうねえ。こんなに豪華なチラシ寿司は生まれて初めて食べるわよ。

組合員の声

冷凍・冷蔵設備はすべて一新し、売場もピカピカになりました。売場だけでなく、働く人すべての笑顔と元気がパワーアップしたことを組合員に実感していただき、「毎日来たい」「片倉店があってよかった」と言っていただける店づくりをしていきます。

片倉店 店長 昆野 穩

**【事例4】 桜山店（逗子市）、国府津店（小田原市）、小山台店（横浜市栄区）**

昨年、改装店舗で好評だったシリアル食、スイーツコーナーを今回も3店舗に導入し、冷蔵飲料、冷蔵ビールのコーナーも拡大しました。今回の改装では、漬物コーナーを増やし、パンコーナーにはLED照明を導入しました。



小山台店 スイーツコーナー



小山台店 パンコーナー

LED照明になって店内がきれいで、見やすいし、買いたくなりますね。

組合員の声

お店がきれいになり、組合員に喜んでいただいているので、なおのこと“スタッフ一丸となり国府津店を盛り上げて行かなければ”と身が引き締まる思いで頑張ります。

国府津店 店長 加藤 小夜子

**2017年度 取り組むこと****指針2.組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。**

(5) 店舗事業は、組合員とのつながりを強め、地域の拠点として、役割を果たすことができるよう、収益構造の改革を進め、経常剩余黒字化の土台をつくり、持続可能な事業に再構築します。

組合員の声に基づいた品ぞろえや商品案内、困りごとへの対応など、組合員に喜んでご利用いただける取り組みを進めます。

- ・売る視点から利用する視点での品ぞろえに変更します。青果、生鮮、総菜の一人前規格を増やし、利用しやすさを提供します。
- ・ユーチューブセレクションやコープ商品、コープの産直を中心に商品政策をわかりやすくお知らせするとともに試食を強化するなどお店のファンを増やす取り組みを進めます。
- ・地域の組合員の声に応えるため、品ぞろえも含めたお店づくりを店長が主体となって進めます。本部は店舗をサポートする役割をします。
- ・やまなしのちづか店とその周辺地域を実験エリアとし、地域の拠点として組合員の願いに応えるお店づくりを進めます。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針2. 組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

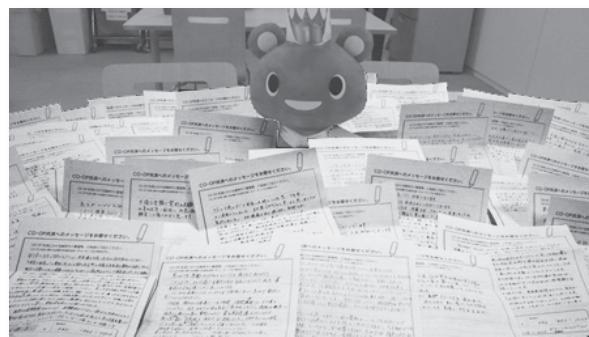
(6) 保障(共済・保険)は、日常推進をさらに進め、新規加入者と保有件数を増やし、組合員利用の満足度をより高めていきます。

- ・CO・OP共済長期加入者向けの感謝企画を実施し、26,943名の方に感謝のカードを送付しました。
- ・組合員にいつでも安心して気軽に保障相談していただけるように、宅配では共済専任職員を全センター配置、店舗では共済カウンターの設置を進めました。
- ・CO・OP共済はサービス産業生産性協議会が行った日本版顧客満足度指数調査において、4年連続で生命保険業界の顧客満足度1位になりました。

1. CO・OP共済長期加入者向けの感謝企画を実施

1987年～2000年にCO・OP共済にご加入をいただき、2016年8月末時点で共済金の請求履歴がない契約者（ふれあい共済契約時も含む）26,943名の方に感謝のカードを送付しました。同封のメッセージカードに記入して返送いただいた方に「末永く健康に」の気持ちを込めて万歩計をプレゼントしました。

契約者の皆さまからは1,000通を超えるメッセージカードをお寄せいただきました。



いただいたメッセージカードの一部

思いがけず感謝状などいただき、大変うれしく思います。また、長く加入しているだけでなく、共済金の請求履歴がないということをいたただすことにより喜びを感じております。

メッセージカードより

組合員の声

予想を大きく超える数のメッセージカードをお寄せいただき、改めて契約者の皆様のCO・OP共済に寄せる期待の大きさを感じました。CO・OP共済の輪を広げていくことで、さらに契約者の期待に応えられる制度にしていきたいと思います。

共済部 宅配共済推進課 課長 中村 誠司

2. 共済専任職員（おうちCO-OP）・共済カウンターの拡大

組合員により詳しい保障内容の提案を行うために共済を専任でお知らせする職員、パート職員の配置を進めています。

2016年11月現在、宅配センターには41名の共済専任職員と50名の共済専任パート職員を配置しています（全センターに配属）。

店舗では組合員の保障の相談窓口として24店舗に共済カウンターを開設しています。



マイクチーナ柳島店（茅ヶ崎市） 共済カウンター

担当者の方からの「何も全て該当する保険に加入しなくてもいいんですよ。その家の事情に合わせて入って安心していただければ」という言葉に安心感を覚えました。ありがとうございます。

CO・OP共済加入時
アンケートより

組合員の声

CO・OP共済はシンプルでわかりやすく、パンフレットがあれば十分にご説明することができます。また請求手続きが簡単でスピーディーで組合員に喜ばれていることや、全国の組合員とお互いに困った時には助け合って行くという「たすけあい」の精神などがとても素敵だと思っています。

おうちCO-OP横浜北部センター（横浜市緑区）
共済専任職員 高田 弥生

3. みんなの力でさらに保障が充実

2016年9月にCO・OP共済は2つの大きな商品改定を行いました。

- ◆《たすけあい》ジュニアコースの年齢満期を19歳から20歳に、加入年齢を18歳から19歳に引き上げました。
- ◆《たすけあい》に先進医療特約が誕生しました。



今現在加入しているコースからの移行を生協の方に教えていただき、+100円で先進医療特約があることを知り、とてもうれしく思います。

CO・OP共済保全アンケートより

組合員の声

先進医療特約がCO・OP共済に付帯できるようになるのは、組合員と生協職員がともにめざす保障内容の充実に向かって大きな前進だと思っています。

秦野曾屋店（秦野市）共済担当パート 佐野 幸恵

4. CO・OP共済顧客満足度4年連続1位

CO・OP共済は、公益財団法人日本生産性本部内・サービス産業生産性協議会が発表した2016年度日本版顧客満足度指数調査（Japanese Customer Satisfaction Index）において、4年連続で生命保険業界の顧客満足度1位になりました。



★2016年度JCSI（日本版顧客満足度指数）調査結果 生命保険部門



5. Web加入、共済タブレット端末導入

2016年度より宅配センター、店舗の一部に共済タブレット端末を導入し、組合員にライフプランや保障内容のシミュレーションをたてて、よりわかりやすくお伝えできるようになりました。また、2015年9月よりインターネットからCO・OP共済にお申込みいただけるインターネット共済加入システムの取り組みを開始しています。インターネット共済加入システムは自宅で時間を選ばずにCO・OP共済にお申込みいただけます。

タブレット端末を使った保険金のシミュレーションは非常に分かりやすくて良いと思います。

CO・OP共済加入時アンケートより

組合員の声



共済専任職員同士のタブレット端末を使用したロールプレイングの様子

2017年度 取り組むこと

指針2.組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

(6) 保障（共済・保険）は、一人ひとりの組合員のくらしに役立つことができるよう、心と知識、そして技術を磨き、地域の中に、ユーコープの保障を、お知らせし広げていきます。

保障のコープ商品であるCO・OP共済を年間でお知らせし、生命保障・医療保障の分野で組合員に一番に選ばれ、世帯の保障の中心となることをめざします。

- ・組合員の多様なニーズに応えられるよう、宅配では共済専任職員を配置し、店舗では共済カウンター設置を進め、気軽に保障について相談していただけるようにするとともに、より組合員に寄り添った提案ができるようになります。
- ・2016年度の制度改定により良い保障内容となった《たすけあい》ジュニア20コースをお知らせし、子育て世代にむけた保障提案を強めます。
- ・2017年度に新発売されるご年配の方むけの保障商品「プラチナ85」のお知らせをすることで、より多くの方により長い期間CO・OP共済の保障を提供します。
- ・インターネットからのCO・OP共済新規加入申込や、共済タブレット端末を使用した保障提案など、組合員にとって便利な加入方法の提供を行い、組合員満足度のさらなる向上を図ります。
- ・契約者からいただいた「ありがとうの声」を職員・パート職員で共有し、CO・OP共済の良さの理解とコンプライアンスの取り組みを進めて、地域にCO・OP共済のファンを増やします。
- ・おうちCO・OPでは担当者が携帯用のプリンターを使うことで、訪問先で説明の際にお待たせせずに対応できるようになります。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針2. 組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

(7) 福祉事業は持続的な事業活動を支えるため、今後の環境変化に対応できる人づくりと体制づくりを進めます。

- ・川崎市・横浜市・相模原市にある8カ所のコープケアサポートセンターで、行政から介護や障がい者の認定を受けた方を対象に、条例に基づくサービスを行っています。※神奈川県限定のサービスです。

- ・介護職員初任者研修を開催し、ホームヘルパー有資格者を育成しました。

1. 「ふれあい」と「あたたかさ」そして「笑顔」を大切にした福祉サービスを提供しています

社会保障制度が刻々と変化する中、福利事業はご利用者に寄り添い、地域・社会に貢献できるサービスを持続的に提供しています。今後ニーズがますます高まる「中・重度要介護」「認知症」「障がい福祉」へのサービス提供力の向上、働きやすさの改善、地域の行政・関係機関等とのネットワークづくりを他部署と連携しながら進めています。

【事例1】

医療等の関係機関と連携し適切なサービスを提供
入院先からご自宅に退院されましたが、意識障害や歩行不安定な症状がみられるなど、介護度が悪化していました。そこで、日頃から交流のある医療関係職種の方に相談したところ、大学病院の勉強会で特徴的事例として取り上げられ、適切な医療的対応のアドバイスをいただくことができ、ケアプランの作成で連携している訪問医や訪問看護に対応いただくことでご利用者の病状が改善し感謝されました。

介護度が重度のご利用者の場合、担当ケアマネジャーの知識や経験だけでは、必要なケアプランの作成や、その見直し、改善をしていくことが困難な場合があります。日頃から医療関係者と顔の見える関係ができてしたことから適切な対応を行うことができました。今後も医療関係機関と顔の見える関係づくりを広げていきたいと思います。

コープケアサポートセンター相模原（相模原市南区）
居宅介護支援事業管理者 飯田 李枝

【事例2】

おうちCO-OPと一緒にサービスを提供
ヘルパーによる買い物の支援がサービスの1つにありました。しかし、購入する品目や重量が次第に増加するようになり、ご利用者本人とヘルパーの負担も増し、このままでは他の支援内容が十分にできなくなる等の悪影響が懸念されていました。そこで担当者がおうちCO-OPの情報提供をし、おうちCO-OPのサービスをご利用いただくことで、サービス提供時間が限られている訪問介護支援を充実させることができました。

このご利用者は目が不自由なため、食べ残しや賞味期限管理の支援などに配慮することや、お届け日時とヘルパー活動日時があうように調整し、よりご利用者への支援が充実するように進めることができました。おうちCO-OPを継続利用いただきながら在宅での生活を永く支援させていただきたいと思います。

コープケアサポートセンター港北（横浜市港北区）
訪問介護事業管理者 増田 紀久子

2. 補聴器の相談・供給をはじめました

5月度から補聴器（特定管理医療機器）のご相談と販売を開始しました。お問い合わせの電話の後、ご利用者ご自宅にお伺いして聴力測定や補聴器の試聴を無料で行うことで、外出が困難な方でもお気軽にご相談いただいている。今後はおうちCO-OPや店舗でのお知らせを広げていきます。

声が聞こえるようになり、親子での会話が増えて明るくなりました。

組合員の声



ご自宅での聴力測定の様子

3. 組合員や地域の方を対象に介護職員初任者研修を開催

現場経験豊富な現役の医師や施設長、大学や専門学校の講師の方々を講師に、春と秋の2回「介護職員初任者研修」を開催し、組合員や地域の方を対象に介護職員の有資格者を育成しました。ユーコープでは受講生に介護の「いろは」を分かりやすくご理解いただけるように、ユーコープのホームヘルパーと一緒に直接ご利用者宅を訪問し、実際のサービス提供の現場で実習を行う等、制度で定められた標準的なカリキュラムよりも充実した内容で実施しています。また、より多くの方に受講いただけるように受講料を安価に設定し、2016年度は32名（職員4名含む）の方が資格を取得しました。

店舗で組合員と接する中で、介護の知識があればもっとお役に立てることが増えるかも知れないと思い、受講しました。研修を通じ、どんな人でもその人らしく生活することが大切だと学び、私たちユーコープの職員も、組合員に寄り添える存在になりたいと思いました。

店舗運営部 店舗運営企画課 原 布紗（第7期研修修了生）



研修の様子

4. 第三者機関から優良事業所として表彰を受けました

ユーコープが提供している介護サービスについて、毎年ご利用者の満足度等について評価をお願いしている外部機関（公益社団法人かながわ福祉サービス振興会）より、サービスの質の向上に努めたとして7事業所が表彰されました。

表彰選考対象事業所 約1,400カ所中、表彰事業所35カ所中、
コープケアサポートセンター7カ所



「利用者満足度調査」でお褒めいただいた点は継続し、ご指摘は真摯に受け止め改善し、今後もなお一層ご利用者へのお役立ちに努めて参ります。

コープケアサポートセンター戸塚（横浜市戸塚区）居宅介護支援管理者 砂川 陽子

2017年度 取り組むこと

指針2.組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

(7) 福祉事業は、地域の利用者に寄り添い、全事業が連携した、持続的な事業活動を展開できるよう、事業環境の変化に対応できる、人づくりと体制づくりを進めます。

サービス提供を担う人財不足解消のため、訪問介護員の待遇を改善するなどし、安定した体制確保が課題です。また、今後予定されている介護保険制度等の改定対応準備が課題です。

- ・ 福祉事業は、地域の利用者に寄り添った福祉サービスを提供するため、宅配事業、店舗事業などさまざまな事業と連携し、地域の中で役立ち続けていくことをめざします。
- ・ 地域関係団体と顔が見える関係を築きながら、在宅福祉サービス（ヘルパーの派遣、ケアマネジャーによる介護支援、デイサービスや福祉用具の提供など）を、地域関係団体と顔が見える関係を築きながら必要性に応じたサービスを提供します。
- ・ 今後見込まれる社会保障政策に対応した、福祉事業の展開や介護保険制度の影響を受けにくい事業について研究を進めます。
- ・ 補聴器のご案内やヘルパー募集などを、おうちCO-OPでのチラシ配布や店舗での掲示などユーコープの各事業と連携して進めます。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針3. 社会的役割を發揮します。

- (1) 内外コミュニケーションを組織全体で進め、ユーコープファンの輪を大きく広げます。
- (2) 利用を通じて組合員の多様な参加が広がる取り組みを推進し、くらし・社会・地域でのネットワークをさらに広げます。
 - ・「秋のつどい」は今年で3年目をむかえました。ユーコープセレクションの試食をしながら交流を行いました。
 - ・組合員から組合員へ広くコープの良さ、コープらしさが伝わるように、「食べ知るコープ」や、産直品の大試食会を行いました。

1. コープ商品を試食しながら楽しく交流「秋のつどい」

これまでの「総代懇談会」から組合員なら誰でも参加できる「ユーコープ秋のつどい」に変更し、今年で3回目の開催となりました。11月発売のユーコープセレクションの商品を一足早く試食していただきました。また、上期の事業報告、センター長・店長・エリアコーディネーターの事例報告、商品部職員による商品説明を実施しました。いただいた声を受け止め、事業や商品、活動などの改善に生かしていきます。

総代ではなく一般で参加させていただきましたが話しやすい雰囲気で良かったです。皆さんのお話を聞いてコープの利用について今後の参考になりました。利用歴も一年足らずですが、今後も学ばせていただきたく思います。また、このような機会に参加させていただければうれしいです。

組合員の声



静岡・しまだ練習センターにて

総代	380人
総代以外の組合員	55人
計	435人参加

2. 商品活動

(1) 商品のあれこれをみんなでワイワイ「食べ知るコープ」

コープ商品を真ん中に、見て・ふれて・食べて・学んで交流することでファンを広げる「食べ知るコープ」。各エリアがさまざまな工夫を凝らして取り組みました。参加者の満足度も高く、初めて参加した方も増えています。

2016年度 75会場 参加人数1,300名



やまなし 国中エリアにて



しづおか 西部3エリアにて

初めての参加で、しかも子連れでドキドキしながら来てみましたが、アットホームで子どもにも気をかけてくださって、楽しく参加できました。またお邪魔させていただきます。

組合員の声

(2) 組合員のお気に入りコーパ商品をお知らせ「商品おすすめ会」

自分のお気に入りやぜひ紹介したい商品、とっておきのレシピなど、組合員や地域の方に広くお知らせする「商品おすすめ会」。組合員が店舗の売場や地域のコミュニティ、まつりや催しなどで開催しました。

2016年度 481会場 46,563人
(2015年度 650会場 50,205人)



寺尾台店（川崎市多摩区）にて



緑ヶ丘店（掛川市）にて



鳶尾店（厚木市）にて

(3) 多くの組合員の参加で大試食会を7品目で開催

産地や生産者のご協力のもと、ユーコープセレクションなどを食べて、その良さやこだわりを知っていただけたための大試食会をコーパの産地指定商品など7品目で開催しました。「店舗くらぶ」や「ユーコープふれんず」などのメンバーが中心となってアイデアあふれるレシピの提供や試食を行い、多くの方に喜ばれました。エリア会でも大試食会として商品学習会を開催し、参加を幅広くお知らせしました。

2016年度 360会場 22,666人
(2015年度 152会場 11,320人)



しづおか 中部3エリア会
茶美豚大試食会の様子



やまなし ユーコープふれんず「クロワッサン」
宮城県産活〆銀鮭大試食会の様子



かながわ 店舗くらぶ「ラブ河原口」
宮崎県産鰻樂うなぎ大試食会の様子

(4) 大試食会に参加した方の声を組合員が直接産地にお届けしました。

取り組みの報告とともに、アンケートによる組合員の声やアイデアレシピをまとめて、組合員の代表が産地を訪問し、ご協力いただいた生産者へお届けしました。

声を届けた産地 5カ所



2月18日 鹿児島県の茶美豚の生産者にお渡ししている様子



11月8～9日 宮城県の活〆銀鮭の生産者にお渡ししている様子

3. 子育て支援

(1) 子育てひろば

店舗のスペースを有効活用して、未就学児の親子が一緒に参加して自由に過ごせる子育てひろば。親子の交流の場としてさらに広がっています。地域の中で、悩みを共有し一緒に子育てできる場があるとママも気持ちが楽になり、自然に笑顔になります。



八千代店（静岡市清水区）にて

(2) おひるねアート撮影会

小さなお子様をもつ組合員を対象に、初めて開催、大好評でした。パパやママ、そのお友達が、今ならではの愛らしいお子様の一瞬をカメラに収めました。会場にはおうちCO-OPと共にブースも設置し、随時ご紹介しました。

※おひるねアートとは…

赤ちゃんに背景や小物をつけて撮影する、赤ちゃんと一緒に作るアート写真



スタッフも皆さん感じがよく、今後もおうちCO-OPを利用したいと思えるイベントでした。近所で気軽に参加できるというのも、イベント好き子連れとしてはうれしいですね。

組合員の声

4. 職場体験

(1) キッズ店長

地域の子どもたちにユーコープの店舗でお仕事体験をしてもらう「キッズ店長」。組合員が店舗と協力して企画・実施しています。



西鎌倉店（鎌倉市）にてレジ体験をする小学生

(2) おうちCO-OP子ども参観日

おうちCO-OP宅配センターで働く職員・パート職員の子どもたちが父母の職場を訪問し、作業体験を通して父母の仕事に対する理解を深めてもらうとともにおうちCO-OPのファンを育てる取り組みです。



お母さんが一生懸命仕事をしている姿を見て感動しました。僕も大人になつたらユーコープで働きたいと思いました。

〈参加した子どもの感想〉

組合員の声

5. 賢い使い方を楽しく「おうちCO-OPのつどい」

おうちCO-OPをもっと賢く、便利に楽しく使ってもらい、ファンを広げる「おうちCO-OPのつどい」を宅配センターとエリア会が協力して開催しました。コープ商品・ユーコープセレクションの試食の他、センター長がポイントの使い方、インターネット注文、「eふれんず」の利用方法などを説明、参加者に理解を深めてもらいました。あわせて意見や要望を直接伺い、コミュニケーションをとる機会となりました。



ペイステージ下田で行われた様子

6. インターネットでユーコープのさまざまな取り組みを発信

2015年度に開設したおうちCO-OP公式Facebookがユーコープ公式Facebookになりました。レシピや組合員参加の取り組み、生産者とのつながり、おうちCO-OPや店舗の情報などを続々と発信しています。また、ユーコープの公式Instagram（※）を11月に開設しました。旬の食材を使って簡単に作れる料理写真を、料理に関連したユーコープの商品や産地の写真と一緒に紹介し、「ユーコープっていいね！」を広げていきます。

※ Instagram（インスタグラム）とは…Web上で写真を中心に交流できるツールで、若年層を中心に利用者が広がっています。



7. 2年目を迎え、店舗との連携を深めた「店舗くらぶ」

「店舗を応援したい、一緒に盛り上げたい」と思う組合員自身が店舗と連携を図りながら自主的に店舗を支える活動をする制度です。2年目を迎えた「店舗くらぶ」は、32店舗で商品おすすめ活動、各種の学習会、誕生祭などに取り組みました。



ミオクチーナ小豆餅店（浜松市中区）店舗くらぶ
「小豆餅もりあげ隊」による商品おすすめ活動の様子

2017年度 取り組むこと

指針3.社会的役割を發揮します。

- (1) 内外コミュニケーションを組織全体で進め、ユーコープファンの輪を大きく広げます。
- (2) 利用を通じて、組合員の多様な参加が広がるよう、商品を中心にして、生産者、お取引先、組合員、そしてユーコープとのつながりづくりを、さらに強めます。

商品を真ん中にした気軽に参加できる取り組みを広げ深めていくことが課題です。また、地域の組合員活動や組合員同士のつながり、産直産地や行政・他団体との連携を通じて、組合員のくらしや地域社会への貢献につながる取り組みを進めることができます。

- ・引き続き「商品活動」を最重点とし、「安心してくらせる地域社会をめざす活動」との二本柱のテーマで幅広い層の新たな参加と参画を促進します。
- ・商品を通じて、くらしの知恵・くらしのテーマなどが深められるよう、大試食会やおすすめ商品の学習などを進めます。
- ・さまざまな商品活動の場で出された組合員の声を、産直産地やお取引先に伝え、交流を深めるとともに、商品に関わる部局に伝え、商品の改善や商品の使い方やレシピなど役立つ情報の発信につなげます。
- ・職員が自分のスマートフォンなどからいつでも見られる新しい情報ツール「Web部内報」を使い、ユーコープの社会貢献の取り組みや商品の価値をよく知り、自信を持って自らの言葉で伝えられるようにします。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針3. 社会的役割を發揮します。

- (3) 事業や商品、活動を通じ、環境、地域貢献、社会貢献、被災地支援などの課題を進め、共感の広がりをつくります。
- ・やむを得ない事情でキャンセルになった商品の一部を子ども食堂活動をしている団体へ提供しました。
 - ・フードバンク・フードドライブ活動への協力を引き続き行いました。
 - ・東日本大震災復興支援や、熊本地震被災地支援、台風10号による集中豪雨災害支援に取り組みました。

1. 子ども食堂へ食品の寄贈活動を開始

おうちCO-OPでは、組合員のやむを得ない事情で配達直前にキャンセルになった商品の一部を行政や地域のNPO団体へ提供する取り組みを開始しました。これらの食品は「子ども食堂（※）」の開催や、食料に困窮する家庭の支援に役立てられています。

おうちCO-OP横浜瀬谷センター（横浜市瀬谷区）では、瀬谷第四地区社会福祉協議会へ寄贈し、子ども食堂「よんたくん広場」で活用されています。また、おうちCO-OP相模原センター（相模原市中央区）では相模原市小山地域の地域支援を行っている団体「きらくクラブ」へ寄贈し、子ども食堂「きらく子ども食堂」で活用されています。※子ども食堂とは…経済的な事情で家庭で十分な食事をとれない子どもや、孤食の子どもたちに、無料もしくは安価な食事や居場所を提供する活動



「よんたくん広場」の様子

2. フードドライブ・フードバンク活動へ協力しています

静岡県内の全17店舗では、8月と1月に店内に専用の回収箱を設置し、組合員に「家庭で眠っている食品」の提供を呼びかけるフードドライブ（※）活動を行いました。また、座間食品セットセンターでも取り扱いを終了した余剰商品を毎週定期的に集め、NPO法人「フードバンクふじのくに」から行政や社会福祉協議会・支援団体を通じて、食の支援を求める方に提供されます。

※フードドライブとは…家庭で眠っている食品を集め、フードバンク団体や福祉団体に寄付する活動。

フードバンクとは…規格外や包装破損などで市場流通できなくなった食品を企業が提供したり、家庭で余った保存食品を個人が寄付するなどし、集まった食品を生活困窮者などに配給する活動。

フードドライブ	8月528.5kg	1月847kg
フードバンク		9,434点



各店舗のサービスカウンター前に設置した専用の回収ボックス

3. 「健康と食生活」学習・活動プログラムの開発に向けた実験を開催

東京大学医学部の研究室と日本生協連が共同で開発したシステムを活用し、「健康と食生活」の学習・活動プログラムの展開を開始しました。このシステムは、社会予防医学分野の佐々木 敏教授の研究室が構築したアンケート形式で回答すると、自らの食生活や摂取している栄養の偏りなどが解析されるものです。自分や家族の食生活を見直すきっかけづくりとして広げていけるように、各県で実験的に展開しています。

4. 平和への取り組み

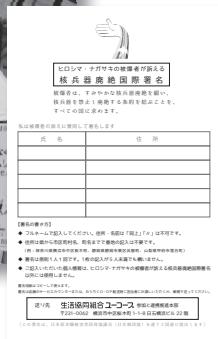
（1）核兵器廃絶を願うヒバクシャ国際署名への取り組み

1日も早く核兵器のない平和な社会になることを願い、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」に取り組んでいます。平均年齢80歳を超えた被爆者が、生きている間になんとしても核兵器のない世界を実現したいと切望し、実施している署名です。ユーコープも賛同し、核兵器のない世界を求める声を1筆でも多く国連に届けます。この署名は、2020年まで実施し、毎年9月の国連総会へ提出していきます。また、誰でも気軽に署名してもらえるように用紙だけでなく、スマートフォンやパソコンからインターネット署名ができるようになりました。

2017年4月17日現在 104,653筆



大谷店（海老名市）の署名コーナー



(2) 組合員の一人ひとりの思いをヒロシマ・ナガサキへ

被爆から71年。ユーロープではヒロシマ・ナガサキの被爆の実相を一人でも多くの方々に知ってもらい、伝える取り組みを続けています。2016年6月9日の総代会でいただいた3,294羽の折鶴は、3県ごとに千羽鶴にして、8月6日のヒロシマ、8月9日ナガサキの平和祈念式典に持参。組合員の代表や公募の子どもたちが一般参加し、核兵器廃絶の願いとともにそれぞれの慰靈碑に捧げました。ヒロシマ・ナガサキに33人の組合員や子どもたちが参加しました。



ヒロシマ平和祈念式典にて

（3）平和の大切さを伝える会

「平和の大切さを伝える会」では、静岡県内8つの放課後児童クラブの児童を対象に、戦争・平和を題材とした絵本を紙芝居にして読み聞かせを行いました。読み聞かせは組合員活動委員と事務局職員が担い、読み聞かせの後に子どもたちに簡単な感想文を書いてもらい、最後に子どもたちの感想を読み上げて、子どもたちが絵本を見てどのようなことを感じたかを交流しました。今年は、8会場357人の子どもたちが参加しました。

絵本を見て、平和ってどんなことかななどあらためて考えられて、良かったなと思いました。日本が平和な国でわたしはすごく幸せだなと思いました。

組合員の声



島田六合児童くらぶでの様子

5. 被災地支援

(1) 東日本大震災復興支援

◆ふれあいサロンへ組合員と参加しました
仮設住宅の居住者同士が交流する場としてコープふくしまが開催している「ふれあいサロン」に組合員・職員がボランティアとして参加しました。

8回 組合員18名、職員5名参加



北幹線第一応急仮設住宅で行われた「ふれあいサロン」の様子

◆現地をたずねることも被災地支援

組合員の「福島訪問」を実施しました

被災地の「忘れないで、被災地に来てほしい」との要望を受け、現地を訪ね、現状を知ることもひとつの支援として、多くの組合員が福島を訪ねました。

6回の訪問、計149名が福島の被災地へ



◆福島県富岡町の「夜の森さくらプロジェクト」に取り組みます

桜のトンネルで有名な福島県富岡町は現在も町の一部が帰宅困難地域となっています。この桜の苗木を各地に植樹する取り組みを「夜の森さくらプロジェクト」として開始しました。ユーコープでもこの取り組みに賛同し、2017年3月16日やまなしのおうちC O - O P甲府センター（甲府市）に植樹しました。今後、神奈川県、静岡県内でも植樹する予定です。



3月16日 植樹式の様子

◆「東日本大震災復興支援募金」は次の段階へ
「被災地を忘れない、必要とされる間は支援を続ける」という思いで「東日本大震災復興支援募金」に継続して取り組んでいます。6年目を迎えた募金は、福島訪問や現地の生協が取り組んでいる被災地支援活動の支援などに役立てられました。

2016年度募金金額	676万7,646円
2011年3月14日～2017年3月20日の累計金額	2億7,804万7,353円

(2) 熊本地震被災地支援に取り組みました

2016年4月に発生し、甚大な被害の出た熊本地震に対しユーコープでは、「熊本地震緊急募金・支援募金」に取り組み、日本生協連を通じて、熊本県、大分県へ全額寄付しました。また、のべ17名の職員を現地へ派遣し、緊急物資の配達やボランティアセンターの運営の手伝い、炊き出し、ボランティアの送迎、仮設住宅への引越しの手伝い、介護職員による入浴支援など、さまざまな支援活動に取り組みました。



全国から届く支援物資の仕分け作業の様子

(3) 台風10号による集中豪雨災害緊急募金に取り組みました

2016年8月に発生した台風10号の被害を受けた北海道、岩手県の皆さんに対する緊急募金に取り組みました。募金は、北海道生協連と岩手県生協連を通じ、北海道、岩手県の被災した方々に送付、役立てられました。

募金金額:	944万6,877円
内、北海道	472万3,439円
岩手県	472万3,438円

6. 食べて守ろう、うなぎぼきん

絶滅危惧種であるニホンウナギの「完全養殖」の研究を応援するため、うなぎ蒲焼1品のご利用につき3円を国立研究開発法人「水産研究・教育機構」へ寄付する『食べて守ろう!うなぎぼきん』に取り組みました。また、2016年度は現金やポイントによる募金も広く呼びかけ、合計90万8,434円を寄付することができました。



7. ペットボトルキャップ回収

「ペットボトルキャップを回収してほしい」という組合員の声に応えて、3月21日からユーコープ全店舗で、9月19日からは宅配全センターで回収を始めました。回収後はリサイクル資源として売却し、その売却益は「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会 (JCV)」を通じてワクチン接種費用として活用されます。2017年1月20日までの期間で約24.3トン（約1,045万個分）が集まりました。



近隣の寿町子供会の皆さんより新沢田店（沼津市）へ
ペットボトルキャップ12kgが寄贈されました

8. リサイクルセンターの開設（2017年3月21日全面稼働）

おうちCO-OPを利用する組合員から回収したカタログやポリ袋などの資源物を分別し、圧縮・梱包するリサイクルセンターが2017年3月21日全面稼働しました。分別により資源としての価値を高めると同時に、組合員へ案内をし、資源回収率の向上をめざします。宅配センターから出る段ボール箱やプラスチックの梱包バンドなども処理し、廃棄物排出量の削減にも役立てます。また、リサイクルセンターでは、障がい者の雇用を進め、地域への貢献をめざします。



リサイクルセンター開所式の様子（神奈川県大和市）

9. 神奈川県立保健福祉大学と秋のお弁当を企画開発

神奈川県立保健福祉大学で栄養学を学ぶ学生たちの食育サークル「シーラボ☆」とユーコープの共同プロジェクトで、学生と協力しながら、2014年から栄養バランスの良い総菜メニューづくりを進めています。今回は栄養バランスを考えた秋のお弁当3品を開発し、期間限定で約40店舗にて販売しました。湘南辻堂駅前店（藤沢市）では店頭で先行試食販売会を行い、学生たちが組合員への試食をおすすめしながら、感想を聞きとりました。



マイクチーナ湘南辻堂駅前店での試食おすすめの様子

10. 国際貢献活動

(1) 世界の子どもたちへ みるくぼきん

社会貢献の一環として、CO·OPマークの牛乳のご利用1,000mlあたり1円を日本ユニセフ協会および国連WFP協会の活動に寄付する「みるくぼきん」。6月からの3カ月間、おうちCO-OPと店舗で取り組みました。チラシや店頭ポスター、またコープ牛乳1,000mlのパッケージに写真を入れて、ネパールの児童労働の現状をお知らせし、組合員、職員・パート職員向けの学習会で、「みるくぼきん」の意義を確認しました。

2016年度募金額	561万6,507円
累計募金額	4,951万3,193円
(2008年～2016年(9年間)累計金額)	



みるくぼきん贈呈式の様子

街頭で募金をするのは勇気がいり、なかなかできませんでしたが、「みるくぼきん」は牛乳を買えば募金になるので気軽に参加できます。

組合員の声

(2) ユニセフネパールスタディツアー

2014年1月から2018年末まで取り組むユニセフの「児童労働と闘うネパール指定募金」の推進に生かすため、ユーコープから2名の代表を派遣しました。現地の子どもの児童労働の状況や、ユニセフの支援（事業）の実情を視察することにより、取り組みへの理解を深め、今後の支援募金推進に活用していきます。



現地の子どもたちとの交流の様子

(3) 1県での取り組みを3県に広げました

①3県の取り組みとしてハンド・イン・ハンドを開催

1972年の国際児童年に始まったユニセフの「ハンド・イン・ハンド募金」も38回目を迎えました。ユーコープの社会的貢献活動の一環として、2015年よりかながわの桜木町駅前、しづおかの青葉イベント広場と109前、やまなしの甲府駅北口で街頭募金に取り組み、ユニセフ支援活動に多くの方の理解と募金につながりました。ユーコープからは58人の参加で、23万1,987円の募金のご協力をいただきました。



甲府市北口ペデストリアンデッキの様子

②現金以外の家庭で眠る資源による募金活動を進めました

NPO法人ハンガー・フリー・ワールドと共に、家庭にある書き損じハガキ、切手、外貨紙幣など現金以外の資源を集め、換金して寄付する活動に取り組みました。募金は飢餓のない世界をめざすハンガー・フリー・ワールドの活動の他、ユニセフの「児童労働と闘うネパール指定募金」や被災地復興支援に活用します。



送られてきた切手の仕分けをするハンガー・フリー・ワールドのボランティアの方々の様子

11. 交通安全教室

おうちCO-OPでは、地域の交通安全に貢献し、地域にとってなくてはならない存在となれるよう、要請いただいた幼稚園、保育園、学校などに出向き交通安全教室を行っています。2016年度は、計12カ所※で開催し、参加人数は1,387名に及びました（11月30日現在）。

トラックを使用したプログラムで、運転手から見えない危険な所を子供達が具体的に体験でき、参加者や子供たちの理解が深まっています。

毎年開催している施設職員の声

組合員の声



交通安全教室

※ 相模原市内郷小学校・横浜市青砥どんぐり保育園・横浜市原幼稚園・南アルプス市大明保育所・甲府市湯田小学校・藤枝センター交通安全教室・浜松市たちばな授産所・南アルプス市ポッポの家・御殿場市玉穂幼稚園・浜松市くすのき保育園・南足柄市華陵学園・浜松市和光こども園

指導の参加は、安全運転を見つめ直す、とても良い機会になりました。コープの安全運転への取り組みを知ってもらえる機会がさらに増えることでコープへの信頼がより高まることを感じました。

おうちCO-OP浜松北センター（浜松市北区）
供給職員 坪井 宏太

2017年度 取り組むこと

指針3.社会的役割を發揮します。

（3）事業や活動が相互に連携し、環境、地域貢献、社会貢献、被災地支援などの課題を進め、行政や他団体とともに、くらし・地域・社会を包括できるネットワークづくりを目指します。

ユーコープだけでなく、行政や他団体と力を合わせ、くらし・地域・社会を包括できるようなネットワークづくりをめざすことが課題です。

- ・フードバンク・フードドライブ、みるくぼきんなど、社会的課題に対して、事業と組合員活動が連携して取り組み、社会貢献に結びつけます。
- ・環境保全を意識した持続可能な地域・社会づくりへの貢献として、組合員のくらしの中で気軽に取り組める身近な課題から理解を深め、考える機会を広げます。
- ・「ヒバクシャ国際署名」やピースリレーなど、核兵器廃絶に向けた具体的な取り組みを継続し、わかりやすく伝えていくことで平和について考える機会を増やします。
- ・事業と活動の連携を含め、ボランティア活動の広がりにつなげます。
- ・組合員から回収した資源を分別し、異物除去、圧縮して資源の価値を高める施設「おうちCO-OPリサイクルセンター」ができたことを組合員に案内し、リサイクルを推進します。

※各事業本部の事業計画は58～61ページに掲載しています。

2016年度 取り組んだこと

指針3. 社会的役割を発揮します。

- (4) くらしの「安全・安心」への組合員の期待に応えるための取組み、情報発信を進めます。
- ・自宅に定期的に訪問する事業特性を生かし、おうちCO-OPやコーパーの夕食宅配マイシでは、お届けの際に組合員の異変に気がついた場合、公的機関に連絡することで行政による地域の見守りの取り組みに協力しています。
 - ・組合員の親子を対象に商品検査センターでの手洗いや顕微鏡での観察などの体験を通じ、ユーコーパーの取り組みを知っていただく機会となりました。

1. 地域見守り活動

ご自宅に定期的に商品をお届けする特性を生かし、おうちCO-OPと夕食宅配マイシでは、公的機関の「地域の見守り」の取り組みに協力しています。配達担当者がお届けの際に異変に気付いた場合、公的機関の連絡窓口へ通報しています。また、あらかじめ緊急連絡先を登録されている場合は、緊急連絡先にも連絡しています。

11月には神奈川県より「地域見守り活動」による人命救助活動に感謝状をいただきました。

担当者からの通報が、異変の発見や救命につながった件数

2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
6件	5件	12件	16件	21件

地域見守り活動が定着し、配達担当者、マイシスタッフの組合員の異変に対する意識が高まりました。行政に連絡したあと、組合員の安否を知ることで配達担当者も安心でき、とても良い取り組みです。

おうちCO-OP川崎新城センター（川崎市中原区）
オペレーションマネジャー 綱島 健之



黒岩神奈川県知事から感謝状を受け取った
おうちCO-OP横浜北部センター（横浜市緑区）
センター長 平瀬 剛

【事例】おうちCO-OP横浜新山下センター

配達に伺った際に顔色が良くなかったので、「大丈夫ですか」と声掛けをすると「大丈夫」と仰られたので、一度は家を離れましたが、気にかかり戻ってみると、座り込んでしまっていたので、救急車を呼びました。

【事例】おうちCO-OP富士センター

いつも在宅の組合員のお宅に伺うと「助けて」と言う声に気づき、救急車を呼びました。1週間動けなく、飲まず食わずだったそうです。

2. 実感・体感 コーパー食の安全探検隊！

2016年7月26日に神奈川県厚木市にあるユーコーパー商品検査センターで開催し、組合員と家族21人（大人10人、子ども11人）が参加しました。全員で手洗い後の洗い残し検査や残留放射能検査などを体験した他、食品の異変に気付くために必要な臭いの感度チェックなどを行い、ユーコーパーの品質管理の取り組みを知り、食の安全に対する興味を深めました。

勉強になりました。毎日口にする食品にこれだけの検査をしているのかと驚きました。

組合員の声



においの体験。5種類の臭いをかいで何の臭いか考えます。

3. がんセミナー開催

(株) コープライフサービスでは、がんに対する知識を深めていただくとともに「早期発見・早期治療」の大切さ、万一、がんになってしまって立ち向かっていけることを理解いただけるよう、がんセミナーを開催しています。2016年は、(株) 病診経営代表取締役の村上賢二さん、テレビ、ラジオの司会やクイズ番組などでおなじみの麻木久仁子さんを講師に招き、183名の組合員の皆さんにご来場いただきました。



株病診経営 村上 賢二さん



タレント 麻木 久仁子さん

4. 災害時帰宅支援ステーション

九都県市首脳会議(※1)が推進する「災害時帰宅支援ステーション(※2)」の取り組みに賛同し、「災害時帰宅困難者支援に関する協定書」を締結しました。

※1 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・横浜市・川崎市・相模原市・さいたま市・千葉市

※2 地震などの大規模災害の発生時に、公共交通機関が運行停止となって生じた帰宅困難者が徒歩で自宅に帰るのを支援する拠点。帰宅困難者に水道水、トイレ、災害情報、一時休憩場所を提供する役割を担います。



「災害時帰宅支援ステーション」に賛同しているお店には、このステッカーが提示されています

5. 「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査」実施

ユーチュープでは2011年度より、日本生協連と共同で「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査」に取り組んできました。これは、「実際の食事からどのくらい放射性物質を摂取しているのか分からない」という組合員の声に応え、実際の食事をご提供いただき、放射性物質を検査する取り組みです。2016年度は全国19都県253世帯にご協力いただき、3年連続で全県不検出でした。ユーチュープからは3県で15組の組合員にご協力いただきました。

2017年度 取り組むこと

指針3.社会的役割を発揮します。

(4) くらしの安全・安心、くらしの知恵、実践事例など、様々な情報をわかりやすく、見やすくする改善を進め、同時にコミュニケーションにおいて様々なチャレンジをしていきます。

組合員の期待に応えるために、単なる情報発信のみだけでなく、安全・安心・くらしの知恵・実践事例などのさまざまな情報を伝え・伝わるよう改善を進めていくことが課題です。同時にITなどの活用も含め、コミュニケーションのあり方・方法についてもチャレンジしていきます。

- ・店舗や工場、お取引先の品質管理の向上と、商品検査を継続し、安心してご利用いただけるようにします。
- ・商品政策や安全・安心の取り組みをわかりやすく伝え、組合員の共感につなげます。
- ・食生活に関する個人の状況や健康に関するアドバイスを組合員個別に情報提供するなど、インターネットの活用などさまざまな手法にチャレンジします。
- ・くらしに役立つ情報を一人ひとりのくらしに合った方法で得られるよう、ホームページや機関誌 mio などの既存の媒体と連携して、Facebook、InstagramなどのSNS(ソーシャルネットワークシステム)の活用を進めます。

※各事業本部の事業計画は 58 ~ 61 ページに掲載しています。

1. 食育講演会を開催しました

「熊八さんと考える "たべる、たいせつ"」を開催し、約200人が参加しました。第一部では“NHKひとりでできるもん”等で知られている森野熊八さんから、「もったいないが食育の基本」をテーマに正しい知識を持つことの大切さについて講演してもらいました。農林水産省 関東農政局の鶴岡佳則さんからは、「未来へつなごう!子どもの食育」をテーマにお話しいただきました。第二部は、ユーチューバーのメンバーも加えてパネルディスカッションを行いました。



- ・とても為になりました。あらためて食に対する責任を感じました。
- ・子どもに食育について話しても理解してもらえない中、実際に子どもに体験させるという話はとても勉強になりました。

組合員の声

2. 新しい平和の取り組みにチャレンジ

子どもたちへの平和を考えるきっかけづくりを目的にオリジナル脚本を作成し、中学生を主人公にした演劇「Join hands」を関内ホールで開催しました。ユーチューバー初の取り組みで、神奈川県原爆被災者の会・神奈川県ユニセフ協会にもご協力いただき、「平和とは何か?」を次世代に考えてもらう機会になり、来場者からは大好評でした。また5月に行われたピースリレーでも、開会式の中でフラッシュモブ(※)を行うなど、新しい形の平和の取り組みが行われています。
※ フラッシュモブとは…不特定多数の人々が申し合わせ公共の場に集まり、前触れなくダンスや演奏などを行うこと。

- ・若い人たちがたくさん参加されていて、とてもうれしく頬もしく思いました。
- ・こうでなくては本当に平和を実現させることはできないと思われます。

組合員の声



3. 新たな参加が広がりました

エリア会では、さまざまな企画で新たな参加を広げてきました。川崎2エリア会では子育て層を対象におうちCO-OPのつどいを開催し、子育て向けカタログ『Dear mom』や離乳食レシピを紹介しました。その他にも親子で参加するリトミックや、キッズ店長など各エリア会でも親子で参加する企画が多数開催されました。保育付きなどさまざまな工夫によりユーチューバーの企画に参加した組合員は5,069名で内、初参加者は692名と参加が広がりました。

親子で参加できるイベントは少ないで子育て中の良い息抜きになります。

組合員の声



4. 行政・他団体との新たなネットワークづくり

各地域でさまざまなネットワークづくりが進められています。西湘2エリアでは行政・東海大学の学生とコラボし、夏休み親子企画として「今年の夏休みはレッツチャレンジ」を開催。県央1エリア会では相模原市の初の試みで行政と事業者との共同企画「教えちゃいます♪上手な買い物の仕方&使い切りレシピ」を開催。湘南2エリアでは鎌倉市の団体とつながり「津波が来るまえに高いところへ逃げるプロジェクト」に参加しました。

地域の方や他団体と触れ合う機会が無かったのでこのような機会があって良かった。(参加大学生)

組合員の声



5. 「被災地をわすれない」復興支援活動

被災地を忘れないの思いを込め、福島訪問を企画。組合員がバスで現地を視察しました。福島ふれあいサロンボランティアの企画では、組合員ボランティア1名と講師が福島へ赴き、リボンレイ作り講習を行いました。また、各エリア会から被災地へ地元銘菓や、カードを送りました。福島の子どもたちを招き、のびのびと体を動かしてもらう「福島子ども保養プロジェクト」にも引き続き取り組んでいます。



6. 家庭の不要なカレンダーで国際貢献できる「カレンダー募金」

カレンダー募金は、ご家庭で余ったカレンダーや手帳を集め、ユーコープの店頭で募金として買ってもらうユニセフ募金活動の1つです。年末年始にユーコープふれんずやエリア会が開催しています。組合員の認知も広がり開始前に行列ができる会場もありました。楽しみにされている組合員も年々増えています。2016年度は53会場で開催されました。

とても良い活動ですね。来年は我が家家の余ったカレンダーをもってきますね。

組合員の声

7. 身近な自然環境のことを考える「きっかけづくり」 ヤマのがっこう みどりのがっこう

「ヤマのがっこうin秦野」を表丹沢菩提里山づくりの会にご協力いただき9回開講しました。親子を中心とした参加者は里山の保全再生活動の大切さ、農業の楽しさを実感しました。「みどりのがっこう」は、公益財団法人かながわトラストみどり財団とユーコープが協力して、神奈川の環境保全を目的に開催しています。小網代の森・鶴見川・野毛山動物園にて神奈川の自然を体験してもらい環境を考えるきっかけづくりになりました。



8. 住みよい地域づくりに大切な活動 ちょっとしたボランティア「ちょボラ」

高齢者支援、子育て支援、ケガや病気でお困りの時等、「ちょボラ」でできることをお手伝いしています。高齢化社会、核家族化、介護保険制度の改正など社会状況の変化の中、ますます住みよい地域づくりに必要とされるくらしたすけあい活動です。県内で334名の組合員がボランティア登録しています。

気軽に頼めてとてもうれしいです。

組合員の声

9. 組合員のくらしの見直しに役立つ情報の提供を

LPA（※）かながわの講師がミアクチーナ湘南辻堂駅前店（藤沢市）と湘南台店（藤沢市）の2カ所で「3回連続FP（※）入門講座」を開催しました。また、「くらし見直し講演会」として、お笑い系ファイナンシャル・プランナーいちのせ かつみ氏を講師に「爆笑!おもろく生きよう!人生100年を豊かにする生活設計」と、「下流老人」という言葉の生みの親でマスコミ等でもおなじみの藤田 孝典氏を講師に「下流老人にならないために～崩れた1億総中流」を開催しました。

※LPAとは…C O · O P 共済連の所定のライフプランアドバイザー養成セミナーを終了した人のことです。組合員にライフプランのアドバイスをしたり、くらしのお金全般についての学習会を行ったり、講師として活動しています。

※FPとは…ファイナンシャルプランナーの略。家計に関わる金融、不動産、保険、年金制度など、幅広い知識をもち、相談者をサポートする専門家。

しづおか 県内の取り組み

1. コープで体験・学ぶ会

「グリーン・プログラム オレ達のえだ豆」収穫体験

「グリーン・プログラム オレ達のえだ豆」は、藤枝市の信念を持った若き3兄弟の生産者が作るふっくらとして濃厚な味と香りが広がるえだ豆です。

この生産者の協力を得て当日は、枝豆の収穫、機械を使って実を摘み取る「脱きょう」作業、目視で実入りのチェックする作業、洗浄作業といった一連の工程を体験しました。

8組19人の参加

農家の皆さんigatorsプライドを持って取り組んでいる姿に感動しました。これからも、おいしい枝豆をつくってください。

組合員の声



「大きな豆が入っているかな？」
実入りのチェックです

2. おうちCO-OP伊豆センター 夏まつり

東部1エリアとおうちCO-OP伊豆センター（伊豆市）と共に「おうちCO-OP大試食会」を開催しました。100名以上の地域の方で賑わい、多くの商品を試食していただきました。

おうちCO-OPの業務用商品を集めたカタログ「DOSA-TTO（ドサット）」の商品も試食しました。今度、注文してみたいと思います。

組合員の声



「コーすけ」と一緒にダンスをしようよ♪

3. 子育てひろば

子育てひろばは、県内6店舗で毎月開催しています。未就園児のお子さんとお母さんがコミュニティルームに集まり、コープの商品をおやつにして、おしゃべりやおもちゃ遊び、子育てスタッフによる絵本の読み聞かせや手遊びなど楽しんでいます。

公共サービスにはない、ほのぼの感がよかったです。

組合員の声



子育てひろばスタッフの絵本の読み聞かせの様子

4. 選べる! FP入門講座

「FP（※）入門講座」は、今まで連続講座で開催していましたが、今年度からは各回で参加者を募集し、参加しやすくなりました。「生命保険」「社会保障」「投資」「将来設計」「税金」をテーマに県内3会場で開催し、のべ166名の方が参加されました。

※FPとは…ファイナンシャル・プランナーの略。家計に関する金融、不動産、保険、年金制度など幅広い知識をもち、相談者をサポートする専門家。

今まで漠然と考えていたライフプランでしたが、生活に見合っているのか確認することが大切だと思いました。

組合員の声



「お金と投資の基礎」をテーマにした講習

5. 虹のまつり

虹のまつりは、地域の組合員で結成した実行委員会が取り組むコープのお祭りです。店舗くらぶやユーコープふれんず、地域の皆さんとの交流の場として、賑やかに開催しています。

お店の人とじゃんけんをして、おかしをたくさんもらつたよ。うれしかつたよ。

組合員の声



店長と「じゃんけんポン！」

6. 健康と食生活の取り組み

聴講を希望された方全員に、最近1カ月間の食事のとり方に関する食習慣調査票の記入を事前にお願いしました。調査票をご提出いただいた約200名の結果を踏まえて「家族の笑顔は食卓から」を演題に、「コープのかんたんレシピ」でも人気の家庭料理研究家 奥薗壽子さんの講演会を開催しました。不足しがちな栄養分のとり方や減塩を意識しながら簡単にできるレシピの紹介では、多くの方がメモをとっていました。

難しそうな減塩対策も簡単にできると思いました。

組合員の声



奥薗壽子さんから、今晚からできるレシピをたくさん聴きました

7. 行政との連携したエリア企画

中部2エリアでは、藤枝市役所危機管理課より講師を招き、防災学習会を開催しました。包丁とまな板を使わない、ジップ付きの保存袋を使った調理を行いました。

熊本地震の詳しい状況を聞いて、東海地震が怖くなりました。わが家の防災グッズを見直します。

組合員の声



ジップ付きの保存袋があれば、絶品トマトパスタも作れます

8. 被災地生協へ地元の銘菓などを贈る取り組み

県内各地から被災地生協へ、寄せ書きした色紙や地場産品などを贈っています。西部1エリア企画で作ったプリザーブドフラワーを福島県の皆さんへ贈ったところ、たいへん喜ばれ、フラワーアレンジの講師が現地へ行き、教室が開かれました。

毎月、いろいろな品をお贈りいただき、本当にありがとうございます。

贈り先の各生協担当者より

組合員の声



応急仮設住宅の「ふれあいサロン」で、しづおかの組合員ボランティアとリースづくり

9. 静岡県難病団体連絡協議会へ署名や募金の協力

「NPO法人 静岡県難病団体連絡協議会」の呼びかけに賛同し、「難病・長期慢性疾患・小児慢性特定疾患対策の総合的な推進を求める請願書」署名や募金を通じて、県内の福祉活動に貢献しています。

220筆 358,073円の募金



目録を渡す、岡田組合員理事（写真左）

やまなし 県内の取り組み

1. エリア会の事業所と連携した取り組み

郡内エリアでは「おうちC O-O P フェスタ」、国中エリアでは「食べ知るコーポin若草」をそれぞれ開催。郡内では商品の試食紹介や都留文科大学の学生による子ども向け演奏会などとあわせてeふれんずやおうちC O-O P 活用術をお知らせしました。国中では若草センター内での大試食会や見学、アウトレット品の販売やとれたて県内野菜の販売などを実施。両エリアともやまなしでは初となる事業所と連携した取り組みを進めました。

両エリア企画計参加者148人 内、活動への初参加25人



国中エリア



郡内エリア

初めてこうしたイベントに参加し、新発売の商品を数多く試食できました。ユーコープセレクションはとてもおいしくびっくり!今後お買物めで利用してみたいと思いました。

組合員の声

2. 国内・郡内エリア合同企画「復興支援ローリングストック講演会」

「東日本大震災から5年、被災者支援を通してできた地域とのつながり」をテーマに、震災の経験を生かして備える知恵「ローリングストック」についてみやぎ生協の方に講演いただきました。やまなしの両エリアの会場でそれぞれ開催。ユーコープで取り扱いのある防災商品の紹介とあわせて、展示コーナーでは熊本県益城町の実際に避難者が困ったものなどの紹介や、簡易トイレの展示なども行いました。

両エリア企画計参加者46人

防災に対する思いが薄れている今日この頃でした。本日の講演の内容を参考に9月の防災の日に向けて、家族でのローリングストックに取り組みたいと思います。

組合員の声



3. コープで体験・学ぶ会(山梨県産ワインづくり)

組合員が商品に愛着をもっていただけるよう、ワインの熟成状況の確認と試飲や、原料のぶどうの収穫体験を行いました。活動への初参加者の割合も非常に多く、商品の開発に組合員に関わっていただく機会となりました。

企画合計参加者39人
内、活動への初参加22人

休みを利用して組合員として参加しました。ワインの基礎から裏話まで聞けて、大変有意義な時間でした。ワインができる工程もよくわかり、普段は生産者や組合員と接する機会は、なかなかないので楽しく良かったです。

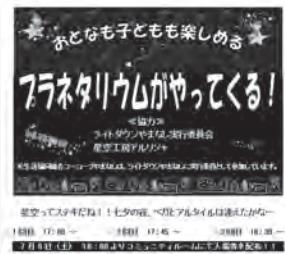
おうちC O-O P 甲府センター(甲府市)
供給担当 飯島秀基



4. ちづか店と連携した新しい参加を広げるイベント

組合員活動委員・店舗くらぶ・組合員理事・職員が一緒にちづか店での誕生祭イベントを計画。店頭模擬店、抽選会などを店内セールとあわせて実施。またコミュニティルームを使ったプラネタリウムは多くの親子の参加となり好評でした。

プラネタリウム参加者70人 内、活動への初参加者50人



5. 総代対象のイベント企画の開催

年末美味予約の商品を中心とした大試食会を総代向けに計画し、当日は体験企画やお楽しみ抽選会なども合わせたクリスマスパーティとして実施しました。総代になつていただいた方への感謝と、総代同士の交流の機会となりました。

参加総代37人

今年から総代になりました。この企画は今回初の催しだと聞いて、ラッキーだと思いました。主婦はなかなかパーティに参加することができないので、「パーティ」って聞いただけでウキウキしてしまいました。

組合員の声



6. 山梨県生協連の講演学習会「電力自由化と私たちのくらし」

組合員の関心の高いテーマであった電力自由化について、講師を招いての講演会を山梨県生協連の主催で開催し、ユーコープの組合員にも呼びかけ31人が参加しました。

全体参加者84人
内、ユーコープ組合員31人

電力自由化になり消費者にとって選択できるようになったが、きちんと知識を持つことの大切さがよくわかりました。節電行動を促すことや原発についてもしっかりと今後も考え、取り組んでいきたい。

組合員の声



7. 男女共同参画推進センターぴゅあ総合フェスタへの参加

総代の声から、山梨県内の多くの団体が出展する地域イベントへ今年度初出展しました。来場者へのコープ商品の紹介や体験ブースでのタロット占いやエコクラフトを組合員の協力で行いました。

ユーコープブースの来場者数125人



8. 山梨県内学校関係食育活動

山梨県内の小学校放課後児童クラブなど5カ所で食育学習を行いました。また小学校の家庭科の授業では豆乳から作った豆腐作りをエリアコーディネーターが実演しました。

2016年度実績5カ所178人
(2015年度実績3カ所 92人)



9. 山梨県生協大会「もしもに備える食」～災害時でもいつもの食事を～

災害時の備えと食事作りについて、数々の書籍の著者である今泉マユ子さんを招いての講演会を山梨県生協連の主催で開催し、ユーコープの組合員にも参加を呼びかけました。

全体参加者88人 内、ユーコープ組合員31人



2016年度 数値でみる 私たちの取り組んだこと (2016年3月21日～2017年3月20日)

～ひろげよう！くらし・社会・地域のネットワーク～

■商品・食育活動（食べものの安全・安心）

企画NO	企画名	ユーローブ計		かながわ県本部		しづおか県本部		やまなし県本部	
		開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数
1	商品大試食会	360	22,666	295	20,182	39	1,831	26	653
2	大試食会産地訪問＆メッセージ	5	9	※宮城県活〆銀鮭・鹿児島大隅産うなぎ・佐賀県はぐくみ鶏は、産地でお渡し、茶美豚・鹿児島県産ブリは、鹿児島フェアに来られた際にお渡しました。					
3	今月のラブコープ商品トーク学習会	10	43	—	27	—	8	—	8
4	食べ知るコープ	75	1,300	37	547	34	613	4	140
5	おうちCO-OPのつどい	56	1,723	10	95	45	1,560	1	68
6	声を生かすアンケート	年間	10,897	—	6,536	—	3,562	—	784
7	コープで体験・学ぶ会	13	325	1	13	10	273	2	39
8	コープの田んぼをつくろう&茶美豚飼料用米稻刈り	4	45	—	26	—	17	—	2
9	工場見学会	29	774	20	580	6	101	3	93
10	メーカー講習会	48	871	26	482	12	222	10	167
11	実感・体感 コープの食の安全探検隊	7月26日	21	—	9	—	12	—	0
12	商品おすすめ会	481	46,563	458	43,546	23	3,017	—	0

■福祉・子育て支援活動

企画NO	企画名	ユーローブ計		かながわ県本部		しづおか県本部		やまなし県本部	
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数
13	キッズ店長	26	462	17	274	6	182	3	6
14	保育活動企画数＆保育を受けた人数	382	1,273	208	653	142	555	32	65

■環境活動

企画NO	企画名	ユーローブ計		かながわ県本部		しづおか県本部		やまなし県本部	
		開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数
15	放射性物質摂取量調査	12月	15	—	5	—	5	—	5
16	捨てないレシピ募集	5/30～6/26	7	—	—	—	—	—	—
17	グリーンカーテンコンテスト	7/21～9/20	25	—	14	—	8	—	3

■平和活動・ユニセフ支援活動

企画NO	企画名	ユーローブ計		かながわ県本部		しづおか県本部		やまなし県本部	
		開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数
18	ピースリレー・平和行進	5/7～5/31 7/13～7/21	356	5/7～5/19	317	5/19～5/31	11	7/13～7/21	28
19	ヒロシマ・ナガサキ平和スタディツアーや ヒロシマ・ナガサキ平和の旅 (8/4～8/7・8/7～8/9)	8/4～8/7 8/7～8/9	24	8/4～8/7 8/7～8/9	13	8/4～8/7	9	8/5～8/6	2
20	3・1ビキニデー	3月1日	24	—	4	—	18	—	2
21	ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名	3月20日現在	81,432	—	45,520	—	28,761	—	4,651
22	平和学習会・報告会、平和のつどい	42	3,169	26	2,465	10	578	6	126

■くらしの力活動

企画NO	企画名	ユーローブ計		かながわ県本部		しづおか県本部		やまなし県本部	
		開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数	開催数 (期間)	参加人数
23	家計簿モニター登録数	年間	675	—	584	—	82	—	9
24	家計簿提出者（のべ人数）	12	6,416	—	5,720	—	612	—	84
25	くらしの見直し川柳募集	8/22～10/20	183	—	112	—	66	—	5

■学びあい・つたえあい活動

企画NO	企画名	ユーチューブ計		かながわ県本部		しづおか県本部		やまなし県本部	
		開催数	登録数 参加人数	開催数	登録数 参加人数	開催数	登録数 参加人数	開催数	登録数 参加人数
26	講師登録数	—	139	—	52	—	74	—	13
27	講座開催数＆参加人数	173	2,262	95	1,515	55	555	23	192

■募金活動

企画NO	企画名	ユーチューブ計		かながわ県本部		しづおか県本部		やまなし県本部	
		期間	募資金額	期間	募資金額	期間	募資金額	期間	募資金額
28	ハンド・イン・ハンド募金	12/17~18	231,987	12月18日	156,404	12月17日	54,300	12月17日	21,283
29	平和の募金	6月~8月	2,531,180	—	1,550,258	—	747,158	—	233,764
30	東日本大震災復興支援募金	年間	6,767,646	—	—	—	—	—	—
31	ユニセフ 「児童労働と闘う ネパール指定募金」	年間	8,370,076	—	—	—	—	—	—
32	ユニセフ一般募金	年間	7,248,790	—	—	—	—	—	—
33	みるくぼきん	6月~8月	5,616,507	—	—	—	—	—	—
34	うなぎぼきん	7月	908,434	—	—	—	—	—	—
35	コープ洗剤募金	4月~10月	282,652	—	—	—	—	—	—
36	石巻グリーングローブの会への募金	年間	50,000	—	—	—	—	—	—
37	熊本地震緊急募金・熊本地震支援募金	4月~8月	48,834,152	—	—	—	—	—	—
38	台風10号による集中豪雨災害緊急募金	9月~10月	9,446,877	—	—	—	—	—	—

■復興支援活動（被災地・県内）

企画NO	企画名	ユーチューブ計		かながわ県本部		しづおか県本部		やまなし県本部	
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数
39	福島訪問	6	149	3	89	2	49	1	11
40	福島ふれあいサロン企画参加	8	167	※福島市のふれあいサロン2カ所、郡山市のふれあいサロン2カ所に参加しました。					
41	ふれあいサロン参加ボランティア登録＆参加数	40	18	20	8	16	8	4	2
42	「ふれあいサロン（喫茶）」への銘菓など の送付（岩手・宮城・福島・熊本）	21	139	7	68	12	65	2	6
43	被災地応援カード（岩手・福島・熊本） (クリスマス・ひなまつり)	3	1,122	2	474	2	407	2	140

■つながる活動・ネットワーク

企画NO	企画名	ユーチューブ計		かながわ県本部		しづおか県本部		やまなし県本部	
		開催数 (グループ数)	参加人数	開催数 (グループ数)	参加人数	開催数 (グループ数)	参加人数	開催数 (グループ数)	参加人数
44	ユーチューブふれんず(登録数・登録人数)	876	7,159	569	4,988	270	1,929	37	242
45	店舗くらぶ (登録数・登録人数)	36	420	30	382	5	35	1	3
46	エリア会スタートの会	32	1,325	29	1,254	1	35	2	36
47	行政諸団体連携企画	66	193,125	22	191,134	21	530	23	1,461

■広報でつながる活動

企画NO	企画名	ユーチューブ計		かながわ県本部		しづおか県本部		やまなし県本部	
		平均発行数 発行回数	累計発行数 案内企画数	平均発行数 発行回数	累計発行数 案内企画数	平均発行数 発行回数	累計発行数 案内企画数	平均発行数 発行回数	累計発行数 案内企画数
48	mio発行部数・ぶらすmio発行枚数 (月平均／累計)	539,774	6,477,290	310,879	3,730,550	196,495	2,357,940	29,346	352,150
49	ぶらすmio掲載企画数 (発行回数／案内企画回数)	42	765	12	495	12	132	18	138

2016年度 数値でみる 私たちの取り組んだこと (2016年3月21日～2017年3月20日)
～かながわ県本部で取り組んだこと～

■商品・食育活動（食の安全・安心）

企画NO	企画名	開催数	参加人数
1	食育学習会	19	681
2	商品学習会	33	1,567
3	おしゃべりの種セット学習会	19	1,055
4	ヤマのがっこ（秦野）	9	369
5	ヤマのがっこ（小田原）	1	32
6	伊勢原米作って食べちゃう会	4	266
7	ユーコープ職員による学習会	2	62
8	産直市	3	57

■子育て支援活動（応援）

企画NO	企画名	開催数	参加人数
9	子育てひろば	59	669
10	子育て支援企画	17	374

■福祉活動（くらしたすけあい活動）

企画NO	企画名	開催数 (時間)	参加人数
11	ちょボラ活動エリア数ボランティアコーディネーター	—	45
12	ボランティア登録数	—	334
13	ちょボラ活動延べ時間・人数	11,823.5	8,233
14	ちょボラサポートーズ	—	1,568
15	福祉活動企画・学習会	2	120

■環境活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
16	みどりのがっこ	3	48
17	田んぼの生きもの調査	1	54
18	環境展・環境学習	6	223

■平和活動

企画NO	企画名	開催日 (期間)	参加人数
19	平和のつどい	1月14日	232
20	原爆と人間展	8/26～8/29	13,000

■くらしの力活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
21	くらし見直し講演会	2	166
22	LPA活動メンバー	—	7
23	LPA企画活動	6	103
24	おこづかいゲーム	1	11

■学びあい・つたえあい活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
25	学びあい・つたえあい講座	95	1,515
26	テーマ講師による講座	21	376

■募金活動

企画NO	企画名	期間	募金額(円)
27	カレンダー募金	12～1月	817,165

■復興支援活動（被災地・県内）

企画NO	企画名	開催数 (期間)	参加人数
28	福島の子ども保養プロジェクト	3/27～3/29	26
29	被災地支援活動	—	1,021
30	防災・減災活動学習会	—	155

■つながる活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
31	コープケーション	5	404

■広報活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
32	mi oふれんど（個人）	—	12

2016年度 数値でみる 私たちの取り組んだこと (2016年3月21日～2017年3月20日) ～しづおか県本部で取り組んだこと～

■商品・食育活動（食の安全・安心）

企画NO	企画名	開催数	参加人数
1	おしゃべりひろば	162	1,117
2	ユーコープ職員による学習会	2	32
3	産直市	1	21

■募金活動

企画NO	企画名	期間	募資金額
10	ハンガー・フリー・ワールド（飢餓救済）	3月下旬～5/31	1,901,095
11	難病支援募金	2/21～3/20	358,073
12	赤い羽根共同募金	12/1～12/31	93,114

■子育て支援活動（応援）

企画NO	企画名	開催数	参加人数
4	子育てひろば	70	1,319

■平和活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
5	9・23焼津行動	1	2
6	平和のつどい	2	221
7	平和の大切さを伝える会	8	357

■くらしの力活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
8	FP入門講座・FP3級講座	21	248
9	くらし見直し講演会	2	44

■復興支援活動（被災地・県内）

企画NO	企画名	実施	募資金額 参加人数
13	ハンガー・フリー・ワールド（復興支援）	3月下旬～5/31	1,901,095
14	防災減災活動	3	43

■つながる活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
15	まつり、諸団体連携	4	2,900
16	エリア企画	177	3,309

■広報活動

企画NO	企画名	発行回数	発行部数
17	こーぶらん。	29	6,766

2016年度 数値でみる 私たちの取り組んだこと (2016年3月21日～2017年3月20日) ～やまなし県本部で取り組んだこと～

■商品・食育活動（食の安全・安心）

企画NO	企画名	開催数	参加人数
1	学校関係から依頼の食育学習	5	178

■広報活動・平和活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
9	ユーコープふれんす通信 (発行回数・部数)	4	220
10	原爆と人間展	1	2,257

■つながる活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
11	ユーコープふれんすオープン企画	68	532
12	ユーコープふれんす交流会	3	44
13	コミュニケーション推進 センター（レポート数）	—	6
14	エリア企画	18	478
15	エリアスタートの会	2	36

■福祉活動

企画NO	企画名	開催数	参加人数
5	買い物支援センターおつかいあり さん活動数とのべ活動参加人数	46	108
6	買い物支援センターおつかい ありさん利用者数	46	214

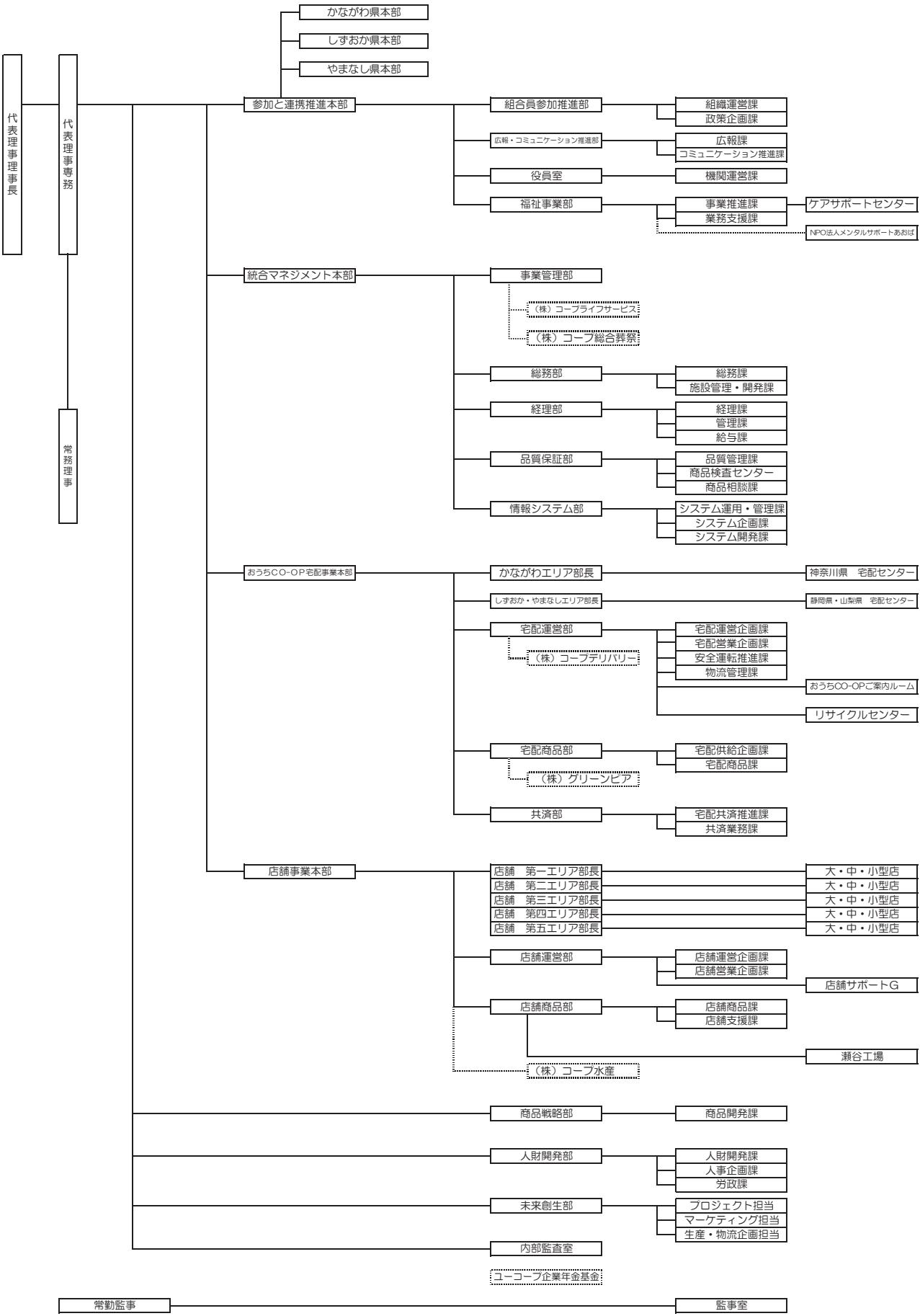
■復興支援活動（被災地・県内）

企画NO	企画名	実施	参加人数
7	福島県富岡町「夜の森さくらプロジェクト」	3月16日	21
8	防災減災活動	2	46

資料編

- 2017年度 経営組織図
- 2017年度 おうちC O-O P 宅配事業本部事業計画
- 2017年度 店舗事業本部事業計画
- 2017年度 参加と連携推進本部事業計画
- 2017年度 統合マネジメント本部事業計画
- 2016年度 事業結果（事業所別・直接剰余実績・経常剰余実績）
- 2016年度 監事会活動のまとめ
- 2016年度 品質管理の取り組み
- 市区町村別組合員数
- 2016年度 選挙区別選出総代定数
- 店舗地図
- 声明や意見書等

生活協同組合ユーコープ 2017年度経営組織図(2017年3月21日~)



2017年度 おうちCO-OP宅配事業本部事業計画

【指針1】組合員の声に事業で応える、人と組織をつくります。

【施策1】経営基本方針のもと、自ら学び、考え、実践する、自主性を重視したマネジメントを進めます。

【施策2】事業を通じ地域や組合員とのつながりを深めることで、組合員に喜ばれ、仕事のやりがいにつながる組織風土をめざします。

【施策3】安全運転行動の徹底と交通安全教室の取り組みにより、地域の安全・安心に貢献します。

【施策4】宅配事業が地域の中でさらに発展できるよう未来開発を進めます。

【指針2】組合員とのつながりを強め、組合員視点での改善を進めることで純増数の上昇軌道をつくります。

【施策1】ママ割の紹介をはじめ、子育て世代へのアプローチを強め、お仲間づくり組合員数の伸長をはかります。

【施策2】加入時の仕組みや商品の丁寧な説明で、永く利用していただける業務プロセスを構築します。

【施策3】応対・配送品質向上と組合員視点での利用しやすさの改善で、継続的に利用いただける事業をめざします。

【指針3】業務の効率化と生産性の向上で宅配事業の収益性を高めます。

【施策1】組合員のくらしの願いに応える商品づくりと声に応える誌面の最適化で、収益性の高いMDづくりをおこないます。

【施策2】物流経費率を維持しながら、商品品質と利用しやすさを高めます。

【施策3】業務プロセスの見直しとオペレーションの標準化、リサイクルセンターの稼働により継続的に収益が増える構造をつくります。

【指針4】商品を中心に生産者・お取引先・組合員・職員のつながりを強め、おうちCO-OPならではの価値を育て広めます。

【施策1】ユーコープセレクション商品の学習と普及、地域MDへのチャレンジで、おうちCO-OPファンになっていただく取り組みを進めます。

【施策2】「デリカシフト」「シニアシフト」の推進と青果の品質改善で、利用しやすい商品提供を進めます。

【施策3】マイシィはお食事の質的向上を軸に、ハレの日・季節の特別メニューの提供と、組合員とのコミュニケーション強化により、組合員に選ばれる配食事業をつくります。

【指針5】一人ひとりの組合員のくらしに役立つことができるよう、心と知識、そして技術を磨き、地域の中に、共済の良さをお知らせし広げていきます。

【施策1】基本的な営業スキルやセット提案スキルを習得し、保障の相談など組合員の立場に立った応対をすることで、共済専任職員ピッチの引き上げをはかります。

【施策2】宅配新規利用者にもれなく共済をご案内できている状態をつくり、新規組合員共済加入率を引き上げます。

2017年度 店舗事業本部事業計画

【指針1】組合員の立場で事業を実践できる、人と組織をつくります。

【施策1】経営基本方針のもと、自ら学び、考え、実践する、自主性を重視したマネジメントを進めます。

【施策2】組合員の声を聴き、広め、つながりを強めることが、仕事のやりがいにつながる組織風土をめざします。

【施策3】店舗が地域の拠点として役割が果たせるよう未来開発を進めます。

【施策4】店長会の開催内容を変え、店舗が地域の組合員の声に応えるために、本部主導ではなく店長が主体性をもった品ぞろえ、店舗づくりを進めます。

【指針2】店舗事業構造の改革を進め、継続的に収益が増える構造をつくります。

【施策1】価格・曜日別プロモーションの平準化を進め、店舗在庫の削減とチャンスロスの削減により店舗商品荒利高を増やします。

【施策2】業務プロセスの見直しとオペレーションの部門横断化定着で、店長が自店の事実の把握、改善に取り組める状態をめざします。

【施策3】ポイントプロモーションに頼らない広告宣伝と店長による事業経費管理力の向上で、事業経費の費用対効果を高めます。また、営業時間の短縮、定休日導入の検討を進めます。

【施策4】組合員視点での品ぞろえ変更と価格プロモーションのコントロール強化で収益性の高いMDづくりをおこないます。

【指針3】来店された組合員とのつながりを強め、組合員視点での改善を進めることで、継続して来店していただける店舗づくりを進めます。

【施策1】店舗一次商圏を中心としたお仲間づくりと非組合員への声掛け、宅配利用組合員への併用促進でお仲間づくり組合員数の伸長をはかります。

【施策2】組合員のくらしの変化に応えた品ぞろえ、毎日利用する生鮮・青果・総菜の一人前規格づくりを進め継続利用をはかります。

【施策3】組合員の利用状況把握を進め、関係性を深めることで、ユーチューブファンになっていただく取り組みを進めます。

【指針4】商品を中心に生産者・お取引先・組合員・職員のつながりを強め、ユーチューブならではの価値を育て広めます。

【施策1】組合員のくらしの願いに応える商品づくりと声に応える売場の改善、組合員のおすすめ商品紹介・試食の強化で店舗のファンになっていただく取り組みを進めます。

【施策2】ユーチューブセレクションやコープ商品、コープの産直を中心にわかりやすい商品政策のお知らせを進め、組合員、生産者、お取引先とのつながりづくりを強めます。

【指針5】一人ひとりの組合員のくらしに役立つことができるよう、心と知識、そして技術を磨き、地域の中に、共済の良さをお知らせし広げていきます。

【施策1】店長がリードし、共済の日常コミュニケーションが図れている状態を確立し、組合員利用の満足度をより高めます。

【施策2】共済提案スキルの習得と組合員の立場にたった応対で、共済カウンター利用者を増やします。

2017年度 参加と連携推進本部事業計画

【指針1】組合員のくらしをよく知り、組合員の声が事業や参加の場で生かされている、生かしていると、組合員や職員が実感できる取り組みを進めます。

【施策1】組合員の声や、声を聴いて深め生かしたプロセスなどを共有し、組織全体で組合員の声を聴く姿勢が広がり、前進する取り組みを進めます。

【施策2】経営基本方針に合致した事例の紹介や、組織内でのコミュニケーションを豊かにし、組合員の立場で実践できる、人と組織をつくります。

【施策3】組織全体の各部門と連携し、組合員の利用の広がりや業務の効率を高め、組合員の期待に応えます。

【指針2】商品を中心に事業とも連携しながら組合員の参加と参画を広げます。

【施策1】商品の利用を通じたくらしの知恵、くらしのテーマなどを事業や産地、取引先とも共有することで、組合員、生産者、ユーコープのつながりをさらに強めます。

【施策2】自主的な活動の広がり、商品政策・活動のあり方をテーマとした検討と具体化、実践を進め、幅広い層の新たな参加と参画を広げます。

【施策3】Webを活用した組合員参加の展開や情報共有など、コミュニケーションにおいてさまざまなチャレンジを進めます。

【指針3】組合員のくらしに関わる課題の学習と、行政や他団体とともに、くらし、地域、社会を包括できるネットワークづくりをめざし、社会的役割を発揮します。

【施策1】食の安全・安心、環境など、組合員のくらしに関わるテーマについて、情報発信と組合員参加を推進します。

【施策2】被災地支援を継続的に進めるとともに、職員ボランティアの派遣など取り組みをさらに広げます。

【施策3】フードバンクの取り組みやボランティア活動、家事支援サービスなど、事業と連携した社会貢献活動を進めます。

【指針4】福祉事業は、地域の利用者に寄り添い、全事業が連携した、持続的な事業活動を展開できるよう、事業環境の変化に対応できる、人づくりと体制づくりを進めます。

【施策1】人財の募集方法の多様化や資格取得を推進し、継続してご要望に応えられるサービス提供体制を整えます。

【施策2】国の社会保障政策に対応した事業展開や新たな収益を生み出す取り組みを進め、事業継続に必要な収益を追求します。

【施策3】宅配事業や店舗事業、サービス事業などと相互に連携し、より利用しやすいサービスの提供と地域の中に組合員の輪を広げます。

2017年度 統合マネジメント本部事業計画

【指針 1】組合員の立場で実践できる、人と組織を作ります。

【施策 1】提供する商品の安全・安心に関わる職員の学びのための支援とスキルアップを促進するコミュニケーション機能を強化し、最後まで責任を持って応えることのできる、人と組織にします。

【施策 2】組合員の声（現場の声）を生かす職員を増やします。

【指針 2】組合員の期待に事業で応え、事業構造の改革を進めます。

【施策 1】第一次中期経営計画に基づく、グループ全体の業績管理とマネジメント、本部部局のコスト削減管理を行い、事業計画を推進します。

【施策 2】第1次中期経営計画に基づく業務プロセスの見直しを進め、本部コストを削減します。

【施策 3】業務全般の安定的な運用と、より組合員にとって利用しやすい事業を実現するためのシステム開発・更改を実施します。

【施策 4】中長期のシステム開発課題を推進し、事業と業務の改革につなげます。

【施策 5】安定した資金調達を構築するとともに、効率的な資金運用により、剰余に貢献します。

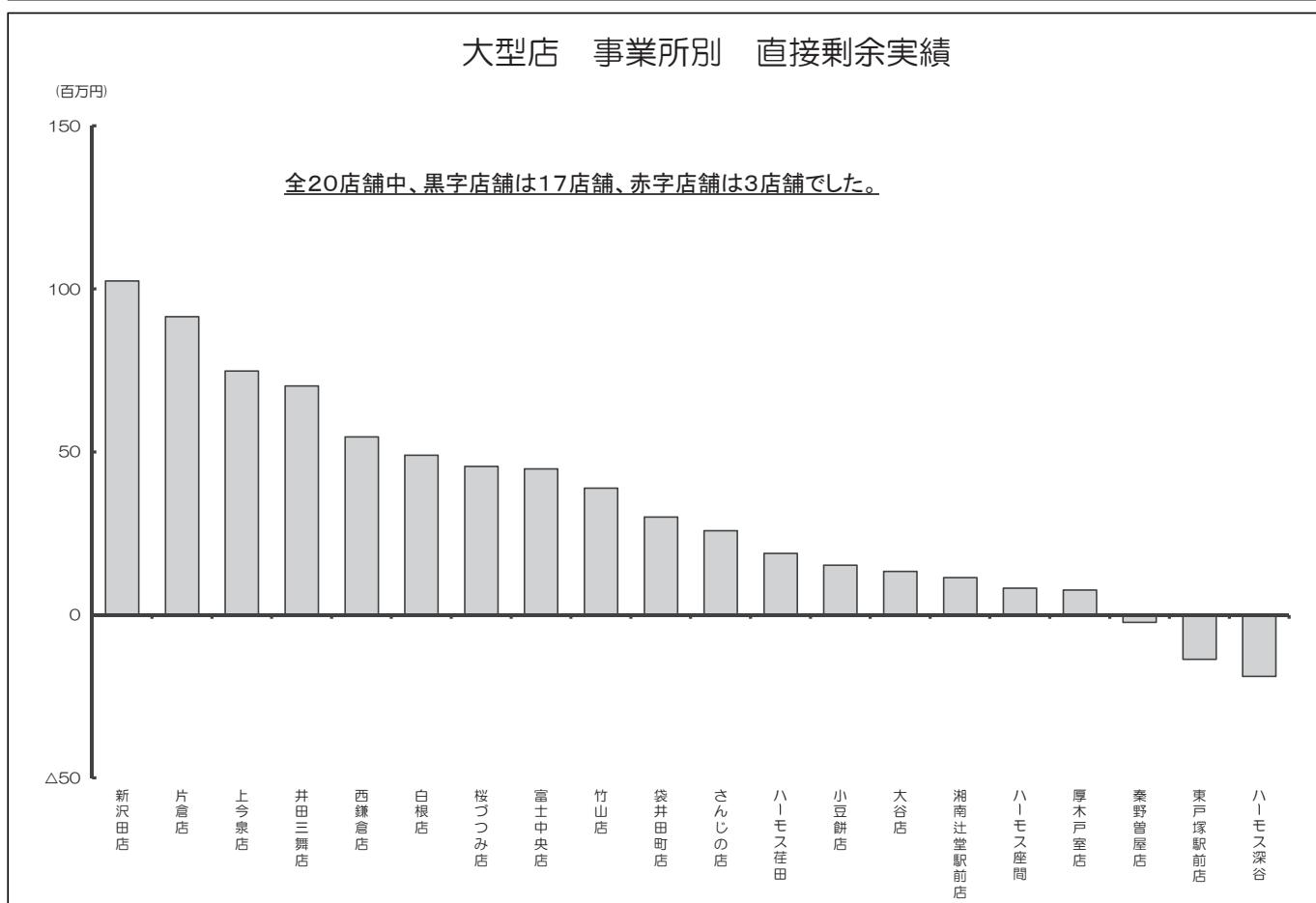
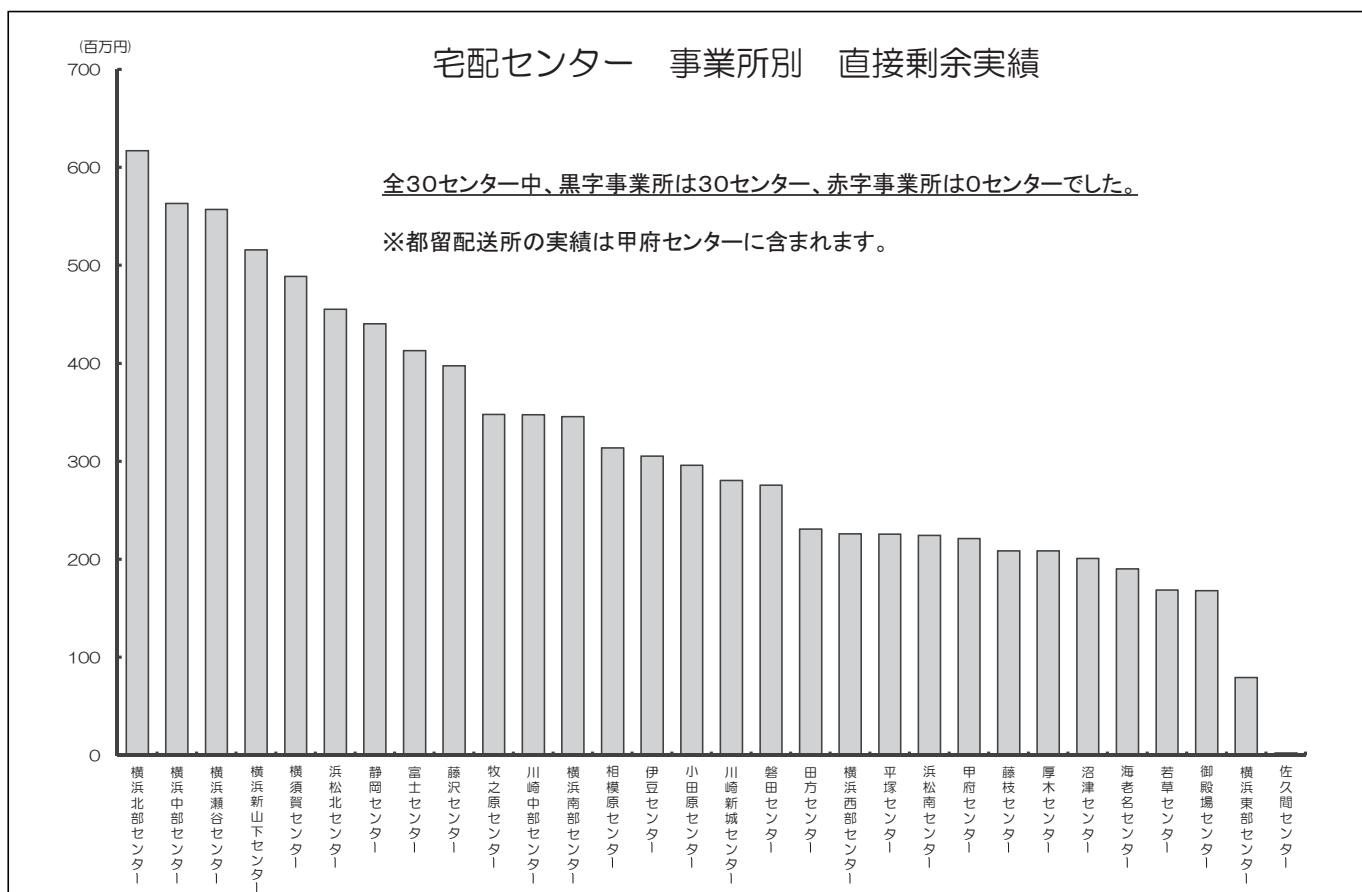
【施策 6】適正な契約管理や閉店店舗への対応、その他資産管理等を進め、資産の保全をはかります。

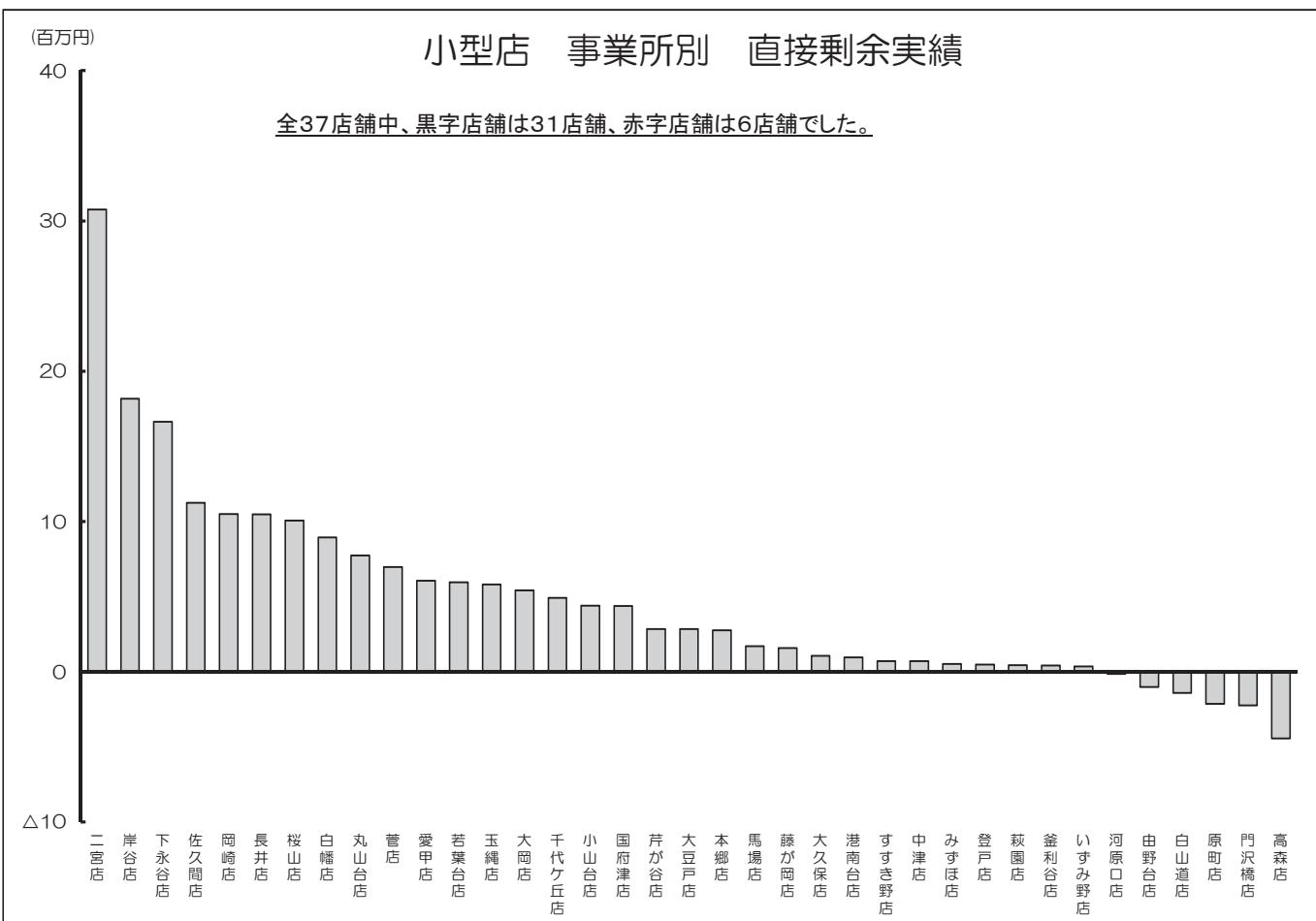
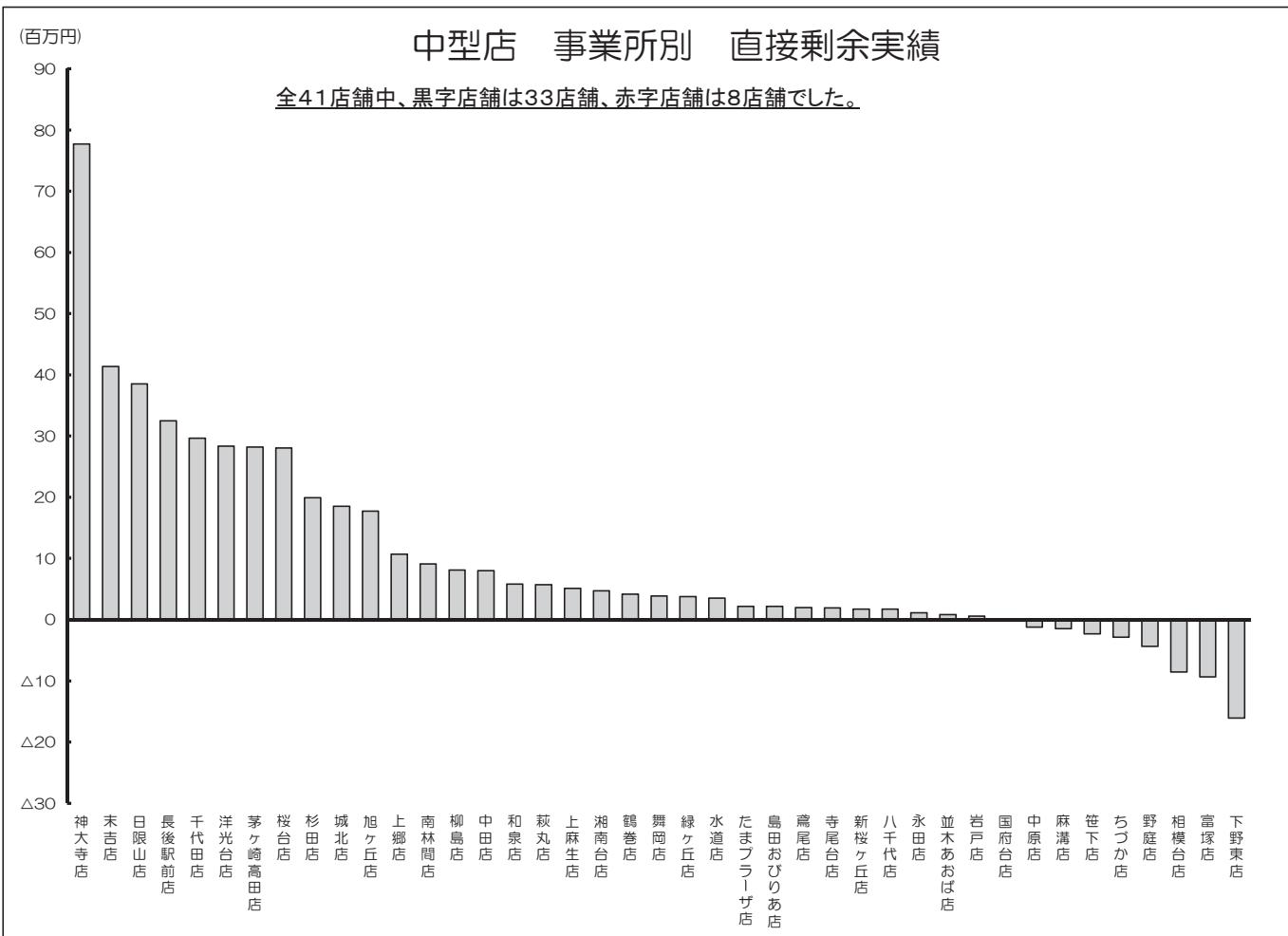
【指針 3】社会的役割を発揮します。

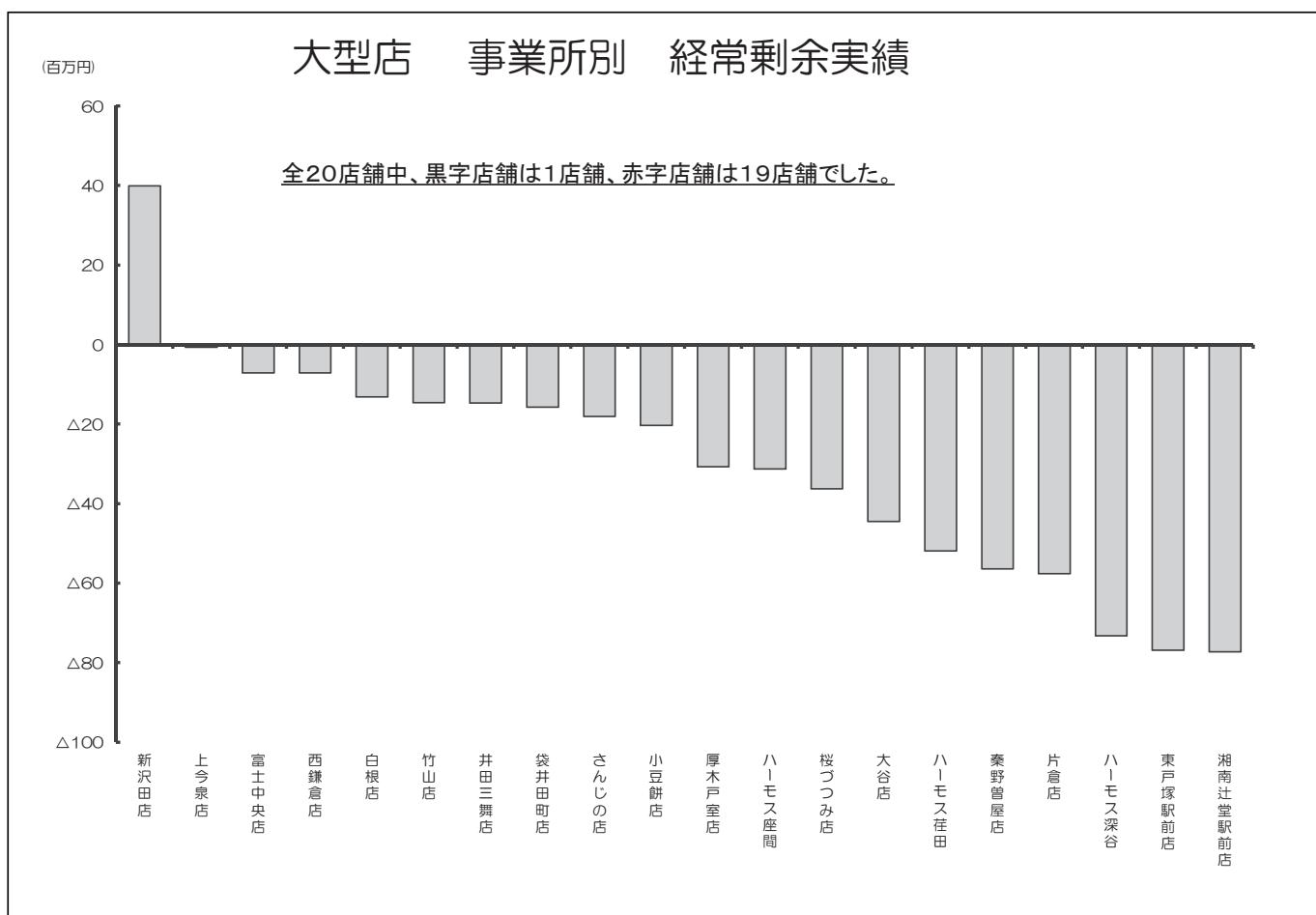
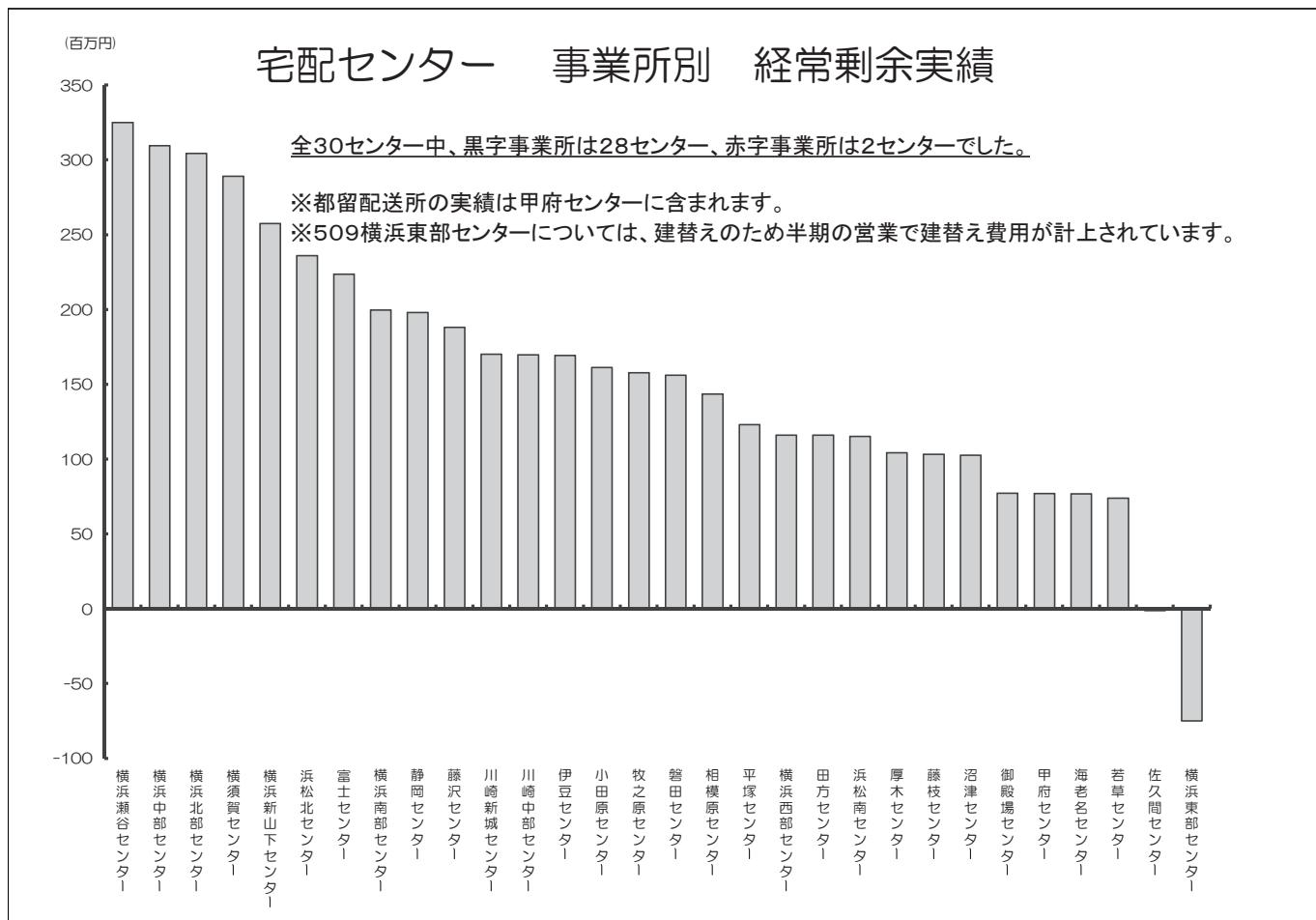
【施策 1】内部統制システムに関する基本方針に基づき、子会社も含めたコンプライアンス経営の推進と、危機対応への準備を進めコープに期待される役割を発揮します。

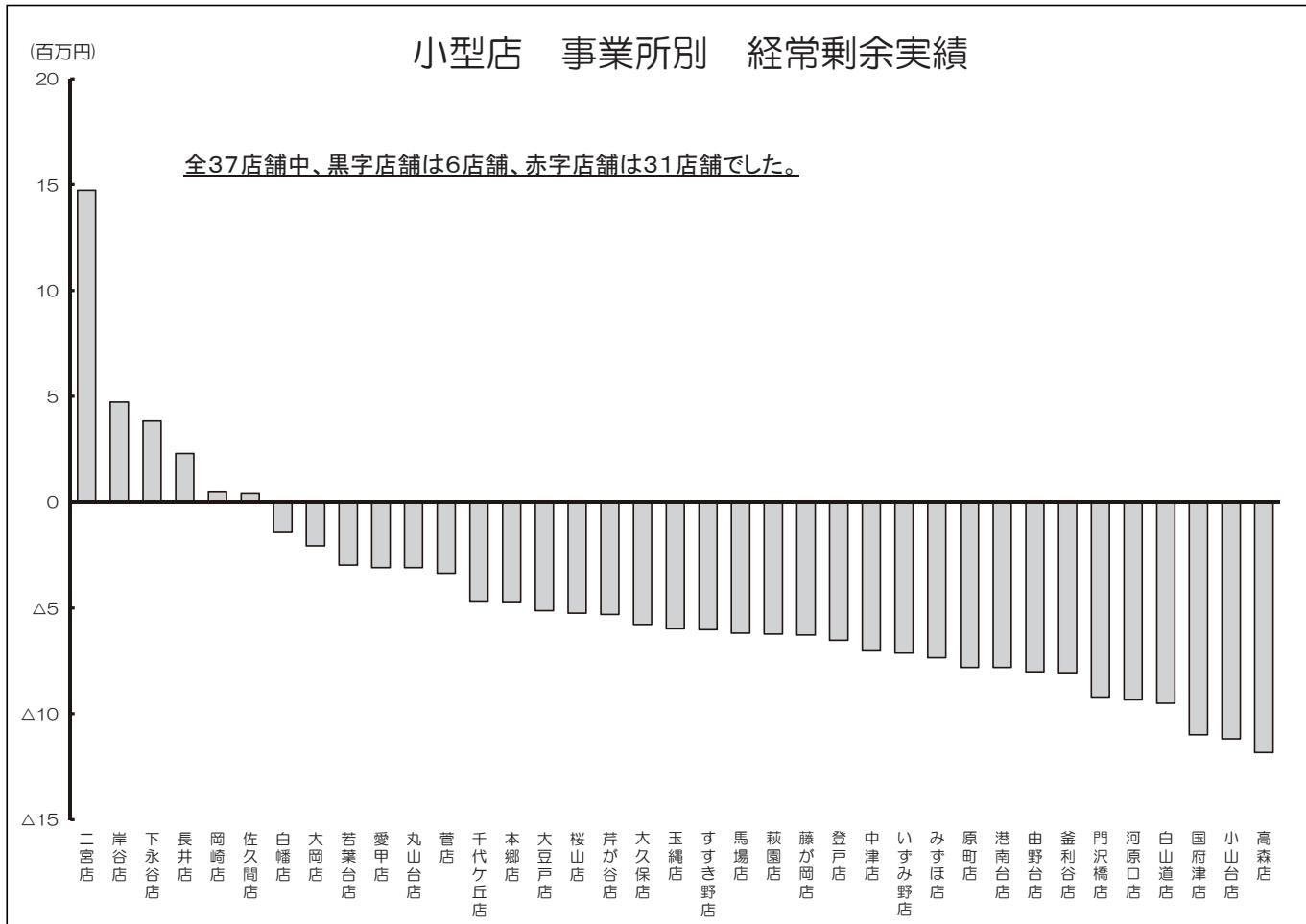
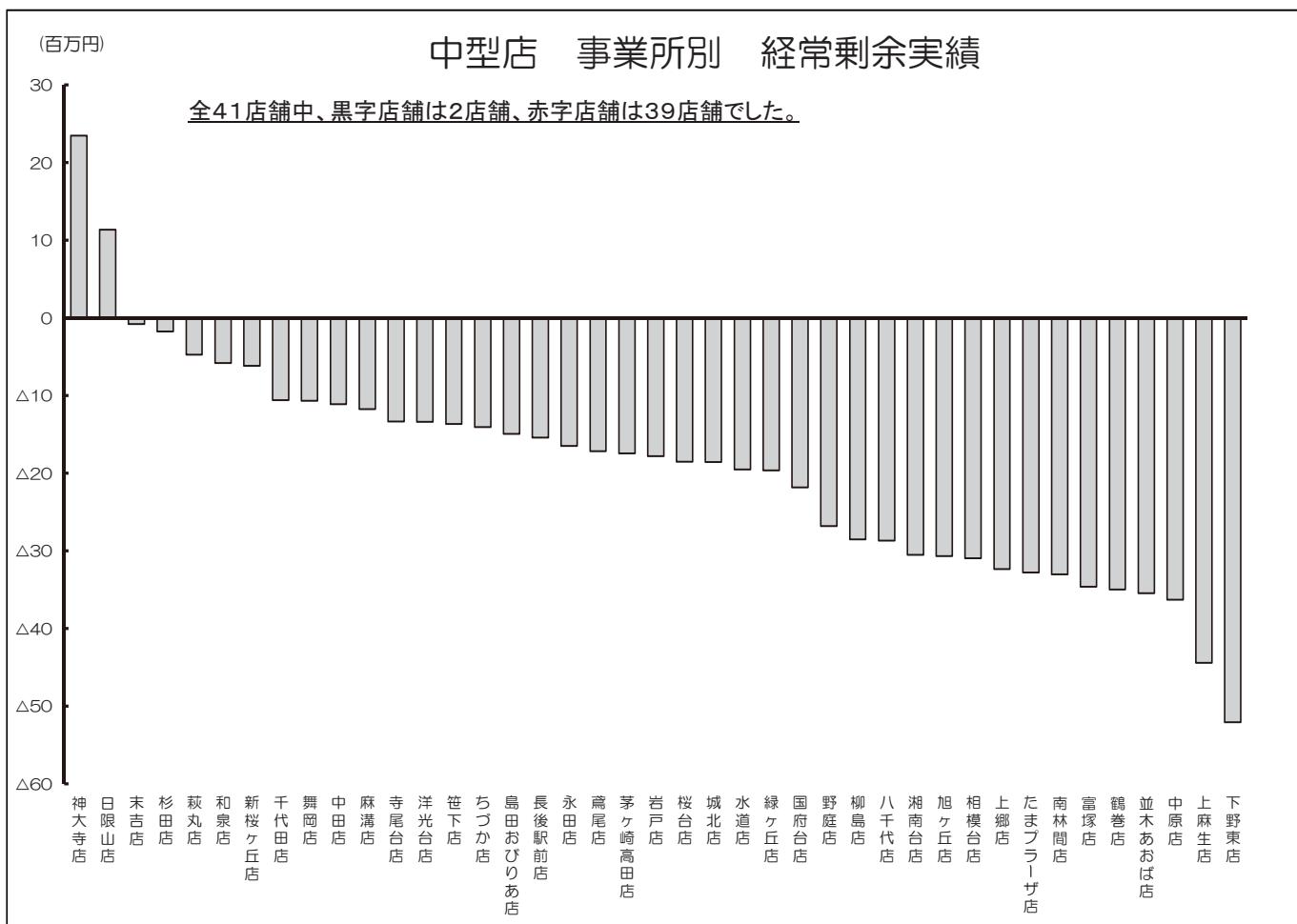
【施策 2】安心してご利用いただき組合員満足につながる一連の品質保証活動（取り組み、情報発信）を商品検査センターが中核となって進め、ユーコープファンの輪を大きく広げます。

2016年度 事業結果（事業所別・直接剩余実績・経常剩余実績）









2016年度 監事会活動のまとめ

生活協同組合ユーコープ 監事会

監事は、理事とは職責を異にする総代会で選任された独立した機関として、生協の健全な経営と社会的信頼の向上のために、理事の職務執行状況及び財産状況の監査を実施してきました。組合員、総代の皆様に、監事監査活動のまとめを報告いたします。

…………… 2016年度監事監査方針は、以下のように策定しました。 ……………

第1次中期経営計画の1年目として、

- ・子会社等を含む内部統制システムに関する基本方針が改定され、内部統制システムの運用状況
- ・店舗事業の黒字化、および宅配事業の成長性に課題があり、第1次中期経営計画の重点施策の実施状況
- ・法令遵守、危機管理、食品安全管理等の運用状況

以上を重点に監事監査を計画しました。

1. 経常監査項目（監事の義務として毎年実施しているもの）

- (1) 機関運営（総代会、理事会）及び重要な諸会議への出席、不正行為や法令・定款違反の有無
- (2) 事業計画・予算進捗の状況
- (3) 内部統制システム理事会決議の相当性及び構築運用状況における不備の有無
- (4) 財産の保全・管理状況（重要な資産の取得・運用、資金の調達・運用、日常の経理処理）及び新会計基準の適用等
- (5) 競業取引、利益相反取引、非通例的取引、無償の利益供与等の理事会での承認手続き

2. 重点監査項目

- (1) 内部統制システム構築・運用状況及びその統制環境について
- (2) 宅配・店舗事業の2016年度計画達成に向けた進捗管理について
- (3) リスク管理、法令遵守について

…………… 監事監査方針に基づき、以下のように監査活動を実施しました。 ……………

1. 監事会の開催 …監査計画・監査意見等の審議と必要な協議・決定

- (1) 開催日（14回開催）
4月8日、4月22日、4月26日、5月23日、6月9日、7月8日、7月19日、
9月9日、10月7日、11月8日、12月9日、2017年1月16日、2月10日、3月9日
- (2) 主な議題
 - ・理事会議案、理事会の審議状況、および毎月度の経営状況の審議
 - ・監事監査方針、重点監査項目、監査計画の審議（事業所往査、本部部局監査等）
 - ・内部監査室より業務監査結果、および定期監査結果の聴取
 - ・監査法人の監査の方法、および結果の相当性についての審議
 - ・監査報告書、監査意見書の審議
 - ・監事報酬の配分に関する審議、監査法人の監査報酬額の審議

2. 重要諸会議への出席 …審議・議決は適切に行われているか（業務監査）

理事の職務執行の状況を把握するため、理事会、総代懇談会等の重要な諸会議に出席し、会議運営・議決が法令・定款等に従って行われているか、理事が善管注意義務を果たしているか等を確認しました。

3.常勤理事・監事懇談会 …経営課題・内部統制等について意見交換

事業の執行状況、重要な経営問題について、理事長、専務理事、常務理事と率直に意見交換しました。

(1) 開催日

9月9日、10月14日、2017年2月14日

(2) 主な議題

- ・ユーロープ発足4年の到達点、今後の経営軌道について
- ・経営全般、および宅配事業、店舗事業の到達点評価と今後の課題について

4.事業所監査 …経営基本方針の具体化、事業計画進捗、業務の妥当性（業務監査）

西鎌倉店、旭ヶ丘店、桜づみ店、おうちCO-OP川崎中部センター、片倉店の監査を行いました。各事業所では、事業計画の進捗、法令・マニュアル等の遵守状況を中心に監査しました。

5.本部部局監査 …経営基本方針の具体化、事業計画進捗、業務の妥当性（業務監査）

商品戦略室、情報システム部、宅配運営部及び両エリア、人事部、店舗運営部及び両エリア、店舗商品部、事業管理部の監査を行い、事業計画の進捗、課題と対策の検討状況等を中心に監査し、理事の職務執行監査につなげました。

6.財産の保全・管理状況の監査（会計監査）

- （1）毎月の経営結果について、監事会で審議しました。
- （2）上期及び下期の経営結果について関係部局より報告聴取するとともに、稟議書・関係申請書等についての調査を四半期ごとに行いました。
- （3）監査法人より期中及び期末監査結果の報告を受けるとともに、会計上の課題等について説明を求めました。

7.内部監査室、監査法人との連携

監事会、内部監査室、監査法人の三者による「三様監査懇談会」を7月19日と2017年3月14日の2回開催しました。相互に監査方針、監査結果を報告、意見交換し、監査の効率化に努めました。

8.理事会へ監査報告書及び監査意見書の提出

年間を通した監査の結果を「監査報告書」にまとめ、理事会へ提出しました。また、監事監査方針で設定した重点監査項目の結果については「監査意見書」にまとめ、理事会へ提出しました。

9.監査品質の向上にむけて

日本生協連の監事監査研究交流会等への参加、また大阪いずみ市民生協監事会との活動交流を行い、監査品質の向上に努めました。また、日本監査役協会の研修等に参加し、最新の監査情報の入手に努めました。

2016年度 品質管理の取り組み

1.商品検査

ユーチュープ商品検査センターで「安全性に問題が無い」ことを科学的に検証しています。

2016年度の検査結果で重大な問題はありませんでした。軽微な問題については、是正改善を再検査で確認しています。商品お申し出は必要に応じて食中毒菌の検査、残留農薬検査と異物鑑定や異味・異臭検査を行いました。

(1)生化学検査

おうちCO-OOPはお買物めもののページごと、店舗は売場ごとに、また、店内調理加工商品は製造施設の衛生点検に併せて検査を行いました。迎春商品は年末に集中して商品の安全を確認しました。ユーチュープ瀬谷工場で製造する商品は毎月、夕食宅配マイシィの商品は毎週検査を行いました。

生化学（主に微生物）検査実績（2016年度）

		検体数(計画)	検体数(実績)
製品	宅配	3,500	3,573
	夕食宅配マイシィ	2,400	2,404
	店舗	2,000	2,067
	店舗インストア製品	1,600	1,425
	瀬谷工場製品	740	772
	年末・迎春商品	1,700	2,185
瀬谷工場	店舗インストア原料	800	749
	瀬谷工場原料	60	57
その他		700	1,005
	合計	13,500	14,237

(2)理化学検査

①放射能検査：出荷規制に関する6県とユーチュープ3県の商品を中心に検査を行いました。ほとんどの商品で検出が無く、ユーチュープ取扱商品において原発事故による影響は無いことが確認できました。組合員の食事を検査する「家庭の放射性物質摂取量調査」に参加しました。

②残留農薬検査：グリーン・プログラム商品、コープの産直（産地指定）品や店舗売場の地場野菜を中心に約340種類の農薬について検査を行いました。農薬残留の問題は無く、産地の農薬管理が適切であることが確認できました。

③食品添加物検査：店舗迎春商品の漂白剤、着色料を重点に検査を行いました。おせちの1具材から商品仕様書に記載のない漂白剤を検出しました。製造者までさかのぼり、仕様書への記載忘れであったことから、仕様書を修正し取り扱いました。取り扱い商品について法基準に適合していることが確認できました。検査対象となる商品が想定より大幅に少なかったことから、検査件数も少ない取り組みになりました。

④動物用医薬品検査：産地指定の精肉、鮮魚等について、使用される動物用医薬品や残留検査の違反事例をもとに検査を行いました。取扱商品に問題の無いことを確認しました。

⑤アレルゲン検査：一部の年末・迎春商品や瀬谷工場で製造する漬け魚のアレルゲン検査を行い、商品取り扱いに問題の無いことを確認しました。

⑥お申し出商品の検査：正体不明の異物混入は材質の分析、異味・異臭は約110種類の異臭成分や残留農薬検査を行いました。安全性に不安がある検査結果はありませんでした。

理化学検査実績（2016年度）

検査分野	検体数（計画）	検体数（実績）
放射能検査	500	549
残留農薬検査	560	479
食品添加物検査	240	44
動物用医薬品検査	20	20
その他	150	88

2.生産工場や店舗の衛生管理

(1) 取引先工場点検

商品お申し出や検査結果で、緊急に改善確認が必要な取引先工場に立ち入りを行いました。夕食宅配マイシィは3工場に定期訪問し、ノロウイルスを中心に食中毒リスクの低減を図りました。迎春商品（特に宅配おせち）は製造時点検を行い、商品事故防止に努めました。

工場点検実績（2016年度） 29件

目的	件数	主な点検先
製造環境確認(新規取り扱い工場含む)	16件	宅配おせち工場、ユーチューブセレクションなど
商品お申し出、商品不具合による緊急立ち入り	5件	総菜原料工場、食品加工工場など
生産時点検	8件	宅配おせち工場

(2) 瀬谷工場の品質管理

ユーチューブの直営工場として、組合員の信頼に応える安全でおいしい商品の生産を目標にしています。定期的に品質協議会を行い、検査結果の評価や情報交流などを行いました。工場の職員には、味とにおいの感度を高める訓練を行いました。

(3) 店舗調理加工施設の衛生管理

ユーチューブの店舗で商品を製造する施設（総菜・鮮魚・精肉・ベーカリー）の定期的な衛生点検を行いました。指摘事項は改善・維持管理まで確認し、年2回の定期点検で食中毒防止、異物混入防止に努めています。

(4) 店舗不適合品正対象事故の削減の取り組み

商品の表示間違いや期限切れを無くす取り組みとして、要因分析の繰り返しや情報の水平展開などで、再発防止を支援しました。特に『異物混入』は、手順や対策を強化し、前年の4割減となり、品質向上に大きく前進しました。

3.お申し出回答管理

(1) 商品お申し出概要

商品お申し出管理システム（クイックプロ）の共同利用生協を拡大し、機能も向上した新システム（クイックプロⅡ）を全国生協に先駆けて導入しました。事業所でお申し出に回答した際の組合員の受け止めのフィードバックが可能になり、組合員のサービス向上に取り組んでいます。

(2) 商品お申し出の傾向

2015年度にSNSに画像が掲載されるなど消費者の関心が高かった食品への異物混入案件も2016年度は落ち着き、商品お申し出全体の件数も前年比86%となりました。

2016年度商品お申し出全体件数と異物混入件数

	2016年度		2015年度		2014年度
	総件数	前年比	総件数	前年比	総件数
お申し出件数（全体）	12,368件	86.1%	14,359件	95.8%	14,987件
異物混入件数	498件	22.5%	2,218件	114.4%	1,938件

4.品質保証にかかわる全国生協との共同作業

(1) 商品検査

それぞれの生協で行った商品検査結果を記録する「検査共同化システム」が改修され、製造工場まで特定が可能となり、安全性監視のレベルが高まりました。

(2) 取引先評価

「生協で扱う商品はきちんと管理されているとの組合員の信頼に応えること」が生協における工場点検の意義のひとつであるとして、全国生協の「工場点検ガイドライン」を作成し、人材育成に共同して取り組みました。

(3) 商品お申し出対応

全国の生協で作成した「組合員商品お申し出対応ガイドライン」をユーチューブの実態に合わせ見直し、「ユーチューブ組合員商品お申し出対応マニュアル」を作成しました。

市町村別組合員数

(組合員数:2017年3月20日現在)

神奈川県

市区町村名	世帯数	組合員数	加入率 (%)
川崎区	113,154	12,044	10.6
幸区	77,058	9,448	12.3
中原区	125,818	27,837	22.1
高津区	108,989	16,306	15.0
多摩区	107,985	19,380	17.9
宮前区	96,580	21,972	22.8
麻生区	75,108	23,786	31.7
川崎市・不明		21	0.0
川崎市計	704,692	130,794	18.6
緑区	75,561	24,282	32.1
青葉区	126,473	48,492	38.3
都筑区	81,364	25,218	31.0
港北区	164,831	33,274	20.2
鶴見区	134,512	32,455	24.1
神奈川区	120,926	40,269	33.3
中区	79,502	8,743	11.0
西区	52,057	8,295	15.9
保土ヶ谷区	93,973	31,862	33.9
瀬谷区	50,785	15,597	30.7
旭区	103,520	35,108	33.9
泉区	61,256	25,758	42.0
戸塚区	114,673	51,140	44.6
栄区	50,953	23,636	46.4
南区	96,263	20,618	21.4
港南区	91,584	40,364	44.1
磯子区	75,310	21,637	28.7
金沢区	87,080	28,867	33.1
横浜市計	1,660,623	515,615	31.0

市区町村名	世帯数	組合員数	加入率 (%)
相模原市緑区	72,046	17,182	23.8
相模原市中央区	118,195	33,911	28.7
相模原市南区	125,175	37,576	30.0
相模原市・不明		255	0.0
相模原市計	315,416	88,924	28.2
大和市	103,560	26,066	25.2
綾瀬市	33,758	10,613	31.4
座間市	56,719	23,861	42.1
海老名市	54,248	29,540	54.5
鎌倉市	73,183	28,147	38.5
逗子市	24,474	9,035	36.9
横須賀市	166,242	38,867	23.4
三浦市	17,490	6,299	36.0
藤沢市	183,254	66,394	36.2
茅ヶ崎市	99,313	48,280	48.6
三浦郡	12,596	3,620	28.7
高座郡	19,030	4,208	22.1
厚木市	96,873	35,345	36.5
伊勢原市	43,652	11,720	26.8
秦野市	70,354	32,901	46.8
平塚市	108,687	31,936	29.4
小田原市	80,112	19,882	24.8
南足柄市	16,287	1,168	7.2
愛甲郡	17,361	5,293	30.5
中郡	23,674	10,313	43.6
足柄上郡	24,293	2,986	12.3
足柄下郡	19,904	4,522	22.7
他県+不明		10,127	0.0
神奈川県計	4,025,795	1,196,456	29.7

※川崎市と相模原市の「不明」は、旧住所登録でデータが残っているため発生しています。

他県+不明の「不明」には川崎市・相模原市の不明は含まれておりません。

※世帯数は取得できる最新のデータとしております。

静岡県

市区町村名	世帯数	組合員数	加入率 (%)
沼津市	81,143	29,290	36.1
熱海市	18,926	3,706	19.6
三島市	45,350	15,936	35.1
富士宮市	50,014	20,912	41.8
伊東市	30,535	8,596	28.2
富士市	93,987	43,955	46.8
御殿場市	32,008	7,091	22.2
下田市	10,210	2,269	22.2
裾野市	20,853	7,709	37.0
伊豆市	12,101	4,158	34.4
伊豆の国市	18,806	5,457	29.0
賀茂郡	12,019	4,772	39.7
田方郡	17,414	4,610	26.5
駿東郡	39,135	13,628	34.8
葵区	102,606	42,560	41.5
駿河区	91,572	24,819	27.1
清水区	94,229	35,438	37.6
静岡市・不明		48	0.0
静岡市 計	288,407	102,865	35.7
島田市	34,766	18,036	51.9
焼津市	51,399	17,146	33.4
藤枝市	53,311	19,135	35.9
牧之原市	15,634	5,294	33.9
榛原郡	13,356	4,336	32.5
浜松市中区	107,127	34,746	32.4
浜松市東区	50,704	15,029	29.6
浜松市西区	39,094	13,516	34.6
浜松市南区	38,808	15,258	39.3
浜松市北区	32,450	10,589	32.6
浜松市浜北区	33,400	12,505	37.4
浜松市天竜区	11,313	4,802	42.4
浜松市・不明		42	0.0
浜松市 計	312,896	106,487	34.0
磐田市	62,351	24,529	39.3
掛川市	41,971	17,599	41.9
袋井市	32,283	16,222	50.2
湖西市	22,504	4,941	22.0
御前崎市	11,431	3,579	31.3
菊川市	16,546	5,764	34.8
周智郡	6,226	2,712	43.6
他県 + 不明		961	0.0
静岡県計	1,445,582	521,695	36.1

山梨県

市区町村名	世帯数	組合員数	加入率 (%)
富士吉田市	18,299	1,488	8.1
都留市	13,363	1,733	13.0
大月市	9,721	1,624	16.7
上野原市	9,600	1,928	20.1
南都留郡	17,948	2,045	11.4
北都留郡	628	0	0.0
甲府市	85,425	16,051	18.8
甲州市	11,340	1,595	14.1
山梨市	12,981	2,014	15.5
韋崎市	11,769	2,059	17.5
南アルプス市	25,492	5,162	20.2
甲斐市	29,891	5,472	18.3
笛吹市	26,620	4,246	16.0
北杜市	18,528	3,325	17.9
中央市	12,810	2,261	17.7
西八代郡	5,883	1,291	21.9
南巨摩郡	14,350	3,029	21.1
中巨摩郡	8,402	1,834	21.8
他県 + 不明		79	0.0
山梨県計	333,050	57,236	17.2

1. 2016年選挙区別選出総代定数 (組合員数:2016年3月20日現在)

選挙区	組合員数	定 数
神奈川選挙区	1,187,737	309
静岡選挙区	514,763	168
山梨選挙区	56,301	73
総 計	1,758,801	550

2. 2016年総代選挙 エリア別の目安

【神奈川県区】

エリア	組合員数	エリア目安数
川崎1	48,959	13
川崎2	80,762	21
計	129,721	34
横浜北1	105,477	27
横浜北2	98,313	26
計	203,790	53
横浜中1	82,718	21
横浜中2	76,782	20
計	159,500	41
横浜南1	62,374	16
横浜南2	90,093	24
計	152,467	40
県央1	91,187	24
県央2	36,648	10
県央3	53,186	14
計	181,021	48
湘南1	45,731	12
湘南2	40,832	10
湘南3	117,366	30
計	203,929	52
西湘1	85,793	23
西湘2	71,143	18
計	156,936	41
合計	1,187,364	309

【静岡県区】

エリア	組合員数	エリア目安数
東部1	23,012	7
東部2	81,880	27
東部3	64,533	21
計	169,425	55
中部1	101,981	33
中部2	37,367	13
中部3	27,395	9
計	166,743	55
西部1	68,989	22
西部2	41,904	14
西部3	67,652	22
計	178,545	58
合計	514,713	168

【山梨県区】

エリア	組合員数	エリア目安数
国中	47,596	62
郡内	8,705	11
合計	56,301	73

● 2017年度ユーコープのお店は **98店舗** ●

神奈川県 静岡県 山梨県

(2017.3.21現在)

すべてのお店をご利用いただけます。

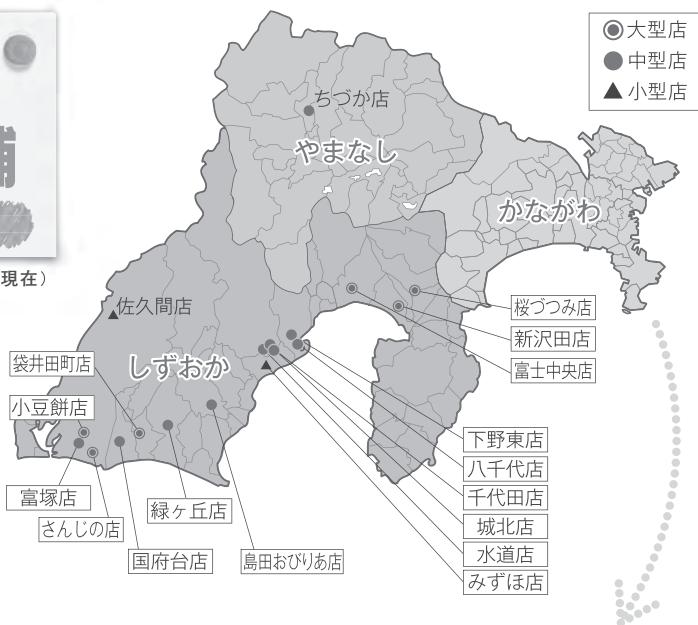
2013年3月21日に組織合同をしたので、組合員の皆さんには、3県内のユーコープの店舗すべてをご利用いただけます。

お出かけの際はお近くのユーノーパークのお店をご利用ください。

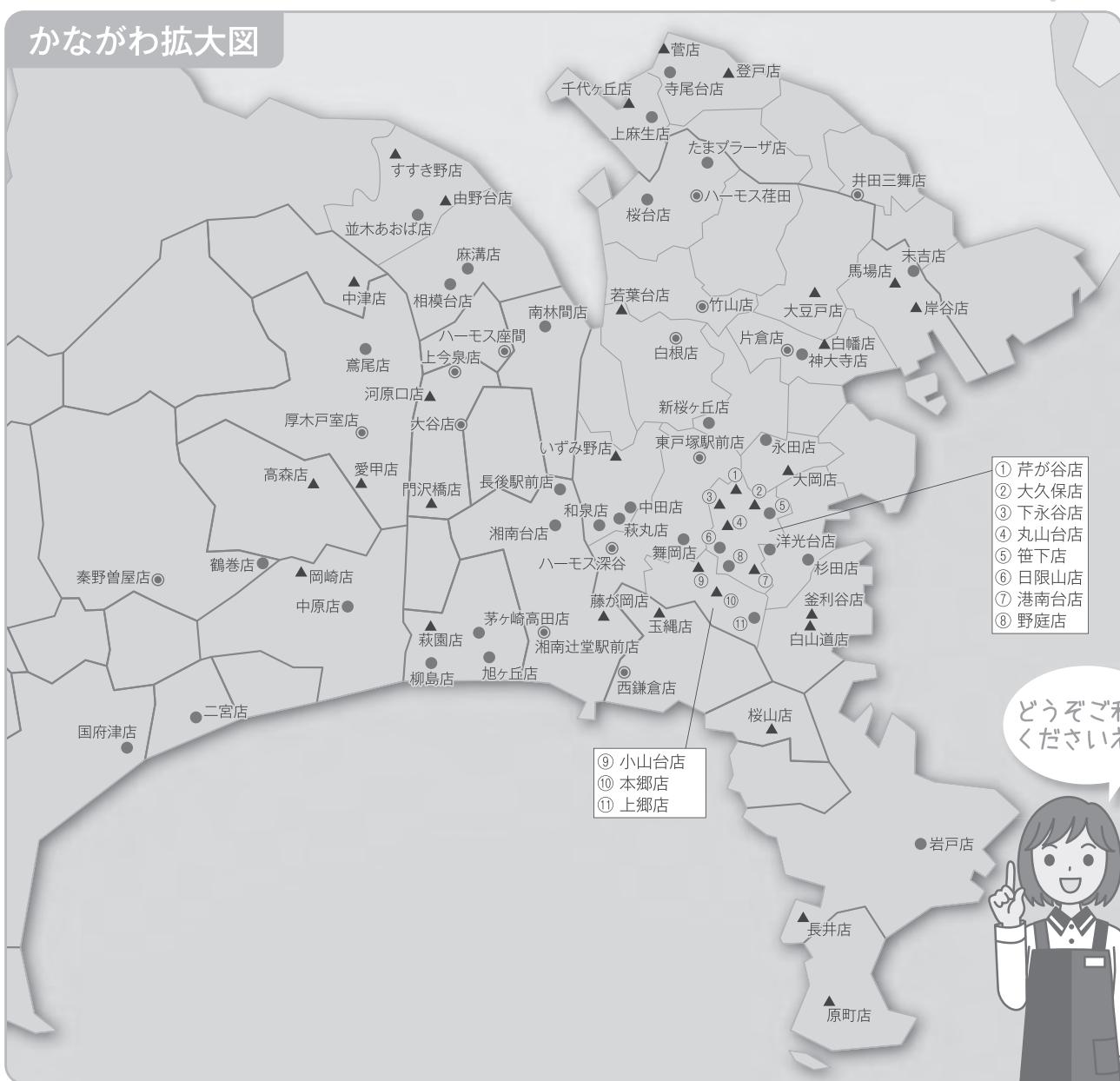
※地図は目安です

店舗のご案内は、ユーチューブHPをご覧ください。

ユーロープ 検索



かながわ拡大図



声明や意見書等

すべての核保有国が核兵器禁止条約締結に向けた 誠実な交渉を開始することを強く求めます

3月11日および15日、私たちは「金正恩第一書記が朝鮮人民戦略軍の弾道ミサイル発射訓練を視察し、新たに製造した核弾頭の威力を判定するための核実験や、核攻撃能力を高めるための実験を継続するよう指示したこと、また「金正恩第一書記が弾道ミサイルの性能向上に必要な大気圏再突入模擬実験を視察し、核攻撃能力の信頼性をさらに高めるため、核弾頭の爆発実験と核弾頭を搭載できる多種の弾道ミサイル発射実験を早い時期に実施するための準備するよう指示した」との朝鮮中央通信による報道をうけました。

北朝鮮はこれまで核実験を2006年、2009年、2013年そして2016年1月6日と4回実施し、この2月7日には事実上の長距離弾道ミサイル発射を行い、3月18日には、10日に続き弾道ミサイルの発射を行いました。このことは、この間の国連の核兵器廃絶に向けた取り組み、核兵器廃絶を求める世界の市民、何よりも被爆者の願いを踏みにじるものです。

私たちは、北朝鮮の核実験および能力向上の取り組みに抗議し、核兵器開発計画の中止を求めます。

そして、1992年2月に発効した韓国と北朝鮮が朝鮮半島の非核化に合意した「朝鮮半島非核化共同宣言（※）」に立ち戻り、非核化を検証するための査察制度について、両者の合意形成を誠実に行い宣言を機能させていくことを求めます。

※両国が核兵器の実験・製造・生産・搬入・保有・貯蔵・配備・使用をしないことなどが内容。

一方、3月7日から4月30日にかけて行われている米韓合同軍事大演習は、韓国軍29万人、沖縄駐留の海兵隊を含む米軍約1万5千人が参加する史上最大規模の演習となり、そこでは、北朝鮮の核ミサイル発射の兆候を把握した際の先制攻撃を想定した作戦や、北朝鮮の重要施設を正確に攻撃する訓練、首脳を排除するための作戦なども実施される演習といわれています。このような情勢の悪化につながる軍事演習には強く抗議します。

ユーロープは被爆国日本の国民として、これまで核兵器廃絶と被爆者援護を共通の願いに、世界の平和をめざす取り組みを進めてきました。

私たちは軍事的対抗による緊張関係の高まりによって情勢が悪化していることに深い危機感を持っています。

北朝鮮が核兵器開発計画をやめること、先制攻撃を想定した米韓合同軍事大演習という緊張を高めあうような手立てではなく、世界の国とともに核保有国が核兵器禁止条約締結に向けた誠実な交渉を開始することを強く求めます。

2016年3月21日

生活協同組合ユーロープ
理事長 當具 伸一

北朝鮮の「新開発の核弾頭の爆発実験」実施に強く抗議する

北朝鮮の朝鮮中央通信は9月9日、新たに開発した「核弾頭」の威力を判定するための「核爆発実験」を実施したと核兵器研究所の声明として伝えました。

北朝鮮による核実験は1月6日に続き5回目。金正恩体制下では3回目となります。韓国軍によると、爆発の規模は10キロトン程度と推定され、過去最大規模とされます。

この間北朝鮮は、8月24日には潜水艦発射弾道ミサイル（SLBM）を日本海に向けて発射、9月5日には中距離弾道ミサイル「ノドン」（射程1300km）とみられるミサイル3発を連續発射し、日本の排他的経済水域（EEZ）内の同じ海域に落下させたばかりです。金正恩・朝鮮労働党委員長は、「核の兵器化事業にさらに拍車をかけ、運搬手段の開発に総力を集中する」と強調したとされます。

今回の核実験は、この間の国連の核兵器廃絶に向けた諸国の努力（直近では、2016年8月19日の国連オープンエンド作業部会の「核兵器禁止条約交渉の会議を2017年に開くことを勧告する報告書」採択や2015年12月28日の「核兵器の全面的廃絶に向けた新たな決意の下での共同行動」や11月2日の国連総会第1委員会（軍縮）における「核兵器の使用禁止や廃絶のための法的枠組みづくりの努力を呼び掛ける決議」）、そしてその背景となる核兵器廃絶を求める世界の市民、何よりも被爆者の願いを踏みにじるものです。

私たちは、貴国の度重なる核実験を暴挙として強く抗議し、核兵器開発計画・核兵器運搬手段の開発を放棄することを求めます。

そして、1992年2月に発効した韓国と貴国が朝鮮半島を非核化することに合意した「朝鮮半島非核化共同宣言」（両国が核兵器の実験・製造・生産・搬入・保有・貯蔵・配備・使用をしないことなどが内容）に立ち戻り、非核化を検証するための査察制度について、誠実に両者の合意形成を行って宣言を機能させていくことを強く求めます。

また、他国には不拡散を求めながらも自国の核保有は正当化するアメリカやロシアをはじめとする核保有国の態度が核開発を誘発し、核拡散の原因になっていることも明白です。改めて、全ての核保有国が核兵器禁止条約締結に向けた誠実な交渉を開始することを求めます。

ユーロープでは、被爆国日本の国民として、これまでも、核兵器廃絶と被爆者援護を共通の願いとして、世界の平和をめざす取り組みを進めています。私たちは、速やかな「核兵器の廃絶を願い」「核兵器をなくす取り組み」「被爆者との連帯」を平和活動の柱に取り組んでいます。

私たちは、貴国が核兵器開発計画を放棄すること、そして世界の国とともに核兵器禁止条約締結に向けた誠実な交渉を開始することを強く求めます。

2016年9月10日

生活協同組合ユーロープ

理事長 當具 伸一

内閣総理大臣 安倍 晋三 殿

TPP（環太平洋連携協定）に関する意見表明

生活協同組合ユーコープ
理事長 當具 伸一

国会では10月14日よりTPP協定の承認案と関連法案が衆院特別委員会で審議入りしました。与党は10月24日の特別委員会理事会に於いて、野党の「28日に強行採決をしない」との確約の求めに対し、「担保できない」と拒否したと報道がされています。

TPP協定については4月の国会審議では、与野党が情報開示などを巡って対立し審議が中断しました。しかし政府は、大筋合意から1年になろうという今日に至るまで一貫して、積極的な情報開示をしておらず、暮らしや社会に及ぼす影響について国民の理解もまったく進んでおりません。

私たちは、TPP協定やその関連法案について、組合員の暮らしに密接にかかわる重要な問題であり、正確な情報を把握した上で、より多くの国民的議論が必要と考えております。しかしながら、アメリカをはじめとする交渉参加国が判断を迷う中、日本では国民への情報提供や国会での議論を十分に行わないまま、今国会で批准されようとしています。

私たちはTPP協定については、農業・ISD条項・国民皆保険・食の安全等の多くの問題を抱えていると考えています。政府が改めてTPP協定の全体像を、消費者・組合員に示した上で、国民的議論をすすめることを強く求めます。また、議論がすすまない中で、今国会での批准には反対します。

記

1. 国民的議論を促進する為に消費者・国民に対して、TPP交渉の予想されるメリットとデメリットを整理し、正確でわかり易い情報提供の強化を求めます。

「24分野」（食の安全、医療問題、雇用問題、金融・投資の自由化、国際関係など）の協定内容について明確でわかり易い情報提供と政府としてまとめた見解をもとにTPPについての国民的議論をすすめることを求める。

2. 「食品の安全・安心」にかかる政策について、後退することができないよう求めます。

TPP協定の中では今後、「非関税障壁」として各国の定めている安全にかかる政策に対し緩和を求められる可能性も指摘されています。とりわけ消費者にとって影響の大きい「食品の安全・安心」にかかる政策について、科学的知見に基づいた判断をすすめ、参加の結果として後退することができないよう求めます。食品の表示義務、情報開示など、消費者の安全・安心を担保するために積み上げてきたものがなし崩しになることは認められません。

3. 国内農業の再生をすすめるとともに、TPP協定承認後の取り組みの整合性について丁寧な説明を求めます。

世界情勢の現状を踏まえ、国内農業生産力の強化が必要です。食料自給力向上、再生可能な農業経営の基盤づくりを目指す施策を具体的にすすめること、TPP協定と国内農業再生促進との整合性について政府の見解を明確にすることを求めます。

4. TPP協定により、国民の暮らしに不利益が生じると見込まれる場合には、慎重な判断を求めます。

TPP協定は、今後の日本のあり方や国民生活に大きな影響を及ぼす可能性があります。食の安全、医療、公共事業、ISD条項等国民の暮らしに不安など不利益が生じると見込まれる中での批准については慎重な判断を求めます。

国連第1委員会における 「核兵器禁止条約」制定交渉開始決議案採択について

生活協同組合ユーコープ
理事長 當具 伸一

10月27日（日本時間28日）、国連総会の軍縮問題を扱う第1委員会において、「核兵器禁止条約」の制定に向けた交渉会議を開始する決議案が、賛成123カ国、反対38カ国、棄権16カ国の賛成多数により採択されました。今年12月の国連総会本会議に諮られます。私たちはすべての核兵器の廃絶を求める立場から、この決議案の採択を心より歓迎します。

今回採択された決議案は、今年8月にジュネーブの国連核軍縮作業部会で採択された勧告に基づき、「核兵器の全廃に向け、核兵器を法的に禁止する仕組み」についての交渉会議を、2017年3月から開催することとしています。

また決議案には条約制定交渉への参加に関する拘束力はありません。決議案に反対した核兵器保有国の多くは交渉会議に参加しない公算が高いとの報道もあります。しかし、開催される交渉会議が核兵器保有国の思惑によって形骸化することはあるかもしれません。核兵器保有国は今こそ被爆者の訴え及び核兵器の非人道性を認識し、国際社会との間における真摯な対話をを行うべきです。

また今回の決議に際して、日本が反対票を投じたことは極めて遺憾な事です。唯一の戦争被爆国である日本は、核兵器廃絶に向けた議論をリードする役割と責任があります。私たちは日本政府に対して、核兵器廃絶の合意形成に向けた積極的な外交を求めます。

昨年のNPT再検討会議2日目、159か国が賛同しセバスチャン・クルツ・オーストリア外務大臣が発表した「核兵器の人道上の結末に関する共同声明」では、「核兵器がふたたび、いかなる状況下においても、使用されないことは人類の生存にとっての利益です。核兵器爆発の壊滅的な影響は、それが偶発的であれ、計算違いあるいは計画的なものであれ、十分な対応を行うことは不可能です。すべての努力はこれらの大量破壊兵器の脅威を取り除くために割かれなければなりません。」「核兵器が二度と使用されないことを保証する唯一の方法は、それらを全面的に廃絶することしかありえないのです。核兵器の使用を防止し、NPTの目標を達成することやその普遍性を実現することを通じたものも含め、垂直的・水平的拡散を防止し、核軍縮を達成することはすべての加盟国に課された共通の責務です。」と表明しています。

核兵器廃絶への流れを止めてはなりません。

核兵器の存在がもたらす脅威を取り除くために協働するという責務を、私たちは次世代に対して負っています。

生活協同組合ユーコープは、これからも被爆者の皆さんのが願いを実現するために力をつくします。そのために、始められた「ヒバクシャ国際署名」の取り組みを、核兵器のない世界を求める全世界の市民とともにすすめます。

2016年11月21日

経済産業大臣 世耕 弘成 様

生活協同組合ユーチューブ
理事長 當具 伸一

原子力発電の廃炉費用に関する意見

経済産業省は、電力自由化の下での公益的課題への対応を検討するためとして、総合資源エネルギー調査会の下に「電力システム改革貫徹のための政策小委員会（以下、小委員会）」を設置されました。同委員会の下には「財務会計ワーキンググループ（以下、WG）」が置かれ、主として廃炉費用を着実に回収するための制度変更について検討されています。

小委員会及びWGでは、昨年の電気料金審査専門小委員会廃炉に係る会計制度検証ワーキンググループの報告書を引き継ぐ形で、将来は「送配電部門の料金（託送料金）の仕組みを利用し、費用回収が可能な制度とする」方向で検討が進められるものと思われますが、私たちは以下の理由から方向性の見直しを要望します。

1. 既に廃炉費用は積み立ててきており、今後も廃炉費用は発電事業者の責任で引き当て、必要に応じてその発電事業者の売電価格に反映させるべきものです。

これまで廃炉に要する費用は原子力発電施設解体引当金により引き当てられ、また、福島第一原発事故後も廃炉会計の見直しが措置されてきました。これまでの原子力発電を供給してきた発電事業者の電力を利用してきた消費者は、廃炉費用を負担してきた訳であり、他の電力を利用する選択肢はありませんでした。電力の自由化によって、消費者は選択が可能となりました。今後は原子力発電を行う事業者が責任を持って廃炉費用を引き当て、売電価格に反映させるべきです。こうした廃炉費用の負担の違いも含め消費者が電力を選択できるようにすべきです。廃炉費用を託送料金に上乗せすることは、電力を利用するすべての国民に負担を求める事であり、原発以外の電力を利用したいと要望する消費者の理解を得られるとは思えません。

2. 託送料金は送配電のネットワークに要する費用として明確に限定すべきです。

公共料金である託送料金の透明性・納得性を確保していくために、託送料金はその名の通り、送配電のネットワークに要する費用に厳しく限定すべきです。廃炉費用は発電に関わる費用であり、託送料金に含めることは適切ではありません。

以上

規制改革推進会議農業ワーキング・グループ 「農協改革に関する意見」に強い懸念を表明します

生活協同組合ユーロープ
理事長 當具 伸一

2014年5月14日、政府の規制改革会議の農業ワーキング・グループ（以下、WG）において取りまとめられた「農業改革に関する意見」は、政府と与党での「農協改革」の議論を経て、2015年8月に農協法「改正」として可決され、2016年4月1日に施行されました。また、この11月11日にWGから「農協改革に関する意見」、そして「牛乳・乳製品の生産・流通等の改革に関する意見」が出されました。

政府の規制改革推進会議において、全農の事業制限や単位農協の信用事業の取り扱いなど、農業協同組合の事業の根幹に関わる意見がなされています。この内容に関し、一昨年からの農協法の改定に至る一連の議論の際と同様、私たちは、強い懸念を抱かざるをえません。

日本でも世界でも協同組合は、国際協同組合同盟（ICA）が定める協同組合の定義・価値・原則に基づき運営されています。協同組合とは、「共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。」とICAは定義しており、「自治と自立」を原則の一つに掲げています。

それぞれの協同組合の事業は、その構成員である組合員が決定するものであり、政府等の意思で決めるものではありません。

しかし、規制改革推進会議の農協や農業に関する意見は、協同組合への正しい理解を踏まえたものではないと言わざるをえません。

協同組合は、雇用創出、環境問題の取り組み、飢餓や貧困の削減などにおいて、大きな役割を担っており、昨年採択された国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けて、国連をはじめ、様々な国際機関からも大いに期待されています。

規制改革の名の下に協同組合の自主性、主体性が制限されることがあつてはならず、むしろ協同組合の発展・成長を促すよう政府として議論されることを期待します。

2017年1月9日

生活協同組合ユーコープ 理事長 當具 伸一

電力システム改革貫徹のための政策小委員会

中間とりまとめに対する意見

1. 委員会では電力全面自由化後も公共料金として残る託送費用を原子力発電所の廃炉や賠償といった費用に充てることが検討されています。しかし、電力システム改革は、本来、消費者の「選択」と事業者の「競争」を通じて透明・公正・効率的な電力市場化を目指すべきものです。

廃炉費用は既に積み立ててきており、今後も廃炉費用は発電事業者の責任で引き当て、必要に応じてその発電事業者の売電価格に反映させるべきものです。

これまでも廃炉に要する費用は原子力発電施設解体引当金により引き当てられ、また、福島第一原発事故後も廃炉会計の見直しが措置されてきました。これまでの原子力発電を供給してきた発電事業者の電力を利用してきた消費者は、廃炉費用を負担してきており、他の電力を利用する選択肢はありませんでした。

電力の自由化によって、消費者は選択が可能となりました。今後は原子力発電を行う事業者が責任を持って廃炉費用を引き当て、売電価格に反映させるべきです。こうした廃炉費用の負担の違いも含め消費者が電力を選択できるようにすべきです。廃炉費用を託送料金に上乗せすることは、電力を利用するすべての国民に負担を求める事であり、原発以外の電力を利用したいと要望する消費者への不利益になりかねません。

2. 託送料金は送配電のネットワークに要する費用として明確に限定すべきです。公共料金である託送料金の透明性・納得性を確保していくために、託送料金はその名の通り、送配電のネットワークに要する費用に厳しく限定すべきです。廃炉費用は発電に関わる費用であり、託送料金に含めることは適切ではありません。

3. 国民への大きな負担を強いる改革について、有識者会議の議論のみで結論を出すのではなく、国民への丁寧な説明と国会での議論が交わされるべきと考えます。

以上

アンゴラ共和国

特命全権大使 ジョアン・ミゲル・ヴァイケニ 閣下

核兵器禁止条約交渉会議に参加し、「核兵器のない世界」をつくり出してください

国連総会は、2016年12月23日、核兵器を禁止し、完全廃絶につながるような法的拘束力のある措置（「核兵器禁止条約」）について交渉する会議を招集することを決議しました。

この決議を受けて、2017年3月27日から31日、そして6月15日から7月7日の2会期にわたって、「核兵器禁止条約」についての交渉が行われることとなりました。

私たち唯一の戦争被爆国である日本の市民は、国連において「核兵器禁止条約」の交渉が開始されることは、「核兵器のない世界」に向けて、新たな一步が踏み出されることとして、心より歓迎しその成功を祈念するものです。

現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。しかしながら、地球上では今もなお戦乱や紛争が絶えず、核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。

平均年齢80歳を超えたヒロシマ・ナガサキの被爆者は、後世の人びとが二度と生き地獄を体験しないように、自分たちが生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望し、世界の市民に核兵器廃絶のための「ヒバクシャ国際署名」を呼び掛けています。ユーコープはこれに賛同して署名活動に取り組むとともに、各国に核兵器禁止条約交渉会議への参加を求めます。

アンゴラ共和国 特命全権大使 ジョアン・ミゲル・ヴァイケニ 閣下

平和を希求する閣下に、心より要請します。

1. 「核兵器が再び、いかなる状況下においても使用されないことに、人類の生存がかかっている。」とする2015年の国連総会の決議を想起し、この3月27日より始まる国連核兵器禁止条約交渉会議への貴国の出席を要請します。
2. ヒロシマ・ナガサキの被爆者の声に耳を傾け、「核兵器禁止条約」締結の交渉を進め、「核兵器のない世界」の実現に貴国が積極的な役割を果たしてください。

2017年2月21日
生活協同組合ユーコープ
代表理事理事長 當具 伸一

外務大臣
岸田 文雄 殿

核兵器禁止条約交渉会議に参加し、「核兵器のない世界」をつくり出してください

国連総会は、2016年12月23日、核兵器を禁止し、完全廃絶につながるような法的拘束力のある措置（「核兵器禁止条約」）について交渉する会議を招集することを決議しました。

この決議を受けて、2017年3月27日から31日、そして6月15日から7月7日の2会期にわたって、「核兵器禁止条約」についての交渉が行われることとなりました。

私たち唯一の戦争被爆国である日本の市民は、国連において「核兵器禁止条約」の交渉が開始されることは、「核兵器のない世界」に向けて、新たな一步が踏み出されることとして、歓迎しその成功を心より祈念するものです。

現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、ヒロシマ・ナガサキの2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

平均年齢80歳を超えたヒロシマ・ナガサキの被爆者は、後世の人びとが二度と生き地獄を体験しないように、自分たちが生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望し、世界の市民に核兵器廃絶のための「ヒバクシャ国際署名」を呼び掛けています。ユーロープはこれに賛同して署名活動に取り組むとともに、各国に核兵器禁止条約交渉会議への参加を求めています。

しかしながら2月16日、核兵器を法的に禁止する初めての条約交渉の進め方などを協議する準備会合が国連本部で行われましたが、唯一の戦争被爆国でありながら日本は出席しませんでした。こんなに残念なことはありません。

核兵器のない地球を子どもたちにつなげていくために私たちは心より要請します。

1. 「核兵器が再び、いかなる状況下においても使用されないことに、人類の生存がかかっている。」とする2015年の国連総会の決議を想起し、この3月27日より始まる国連核兵器禁止条約交渉会議へ日本の出席を求めます。
2. ヒロシマ・ナガサキの被爆者の声に耳を傾け、その思いを受け止め、「核兵器のない世界」を実現していくために、唯一の戦争被爆国である日本こそが積極的な役割を果たしてください。
3. 核兵器禁止条約交渉会議への核保有国への出席を積極的に働きかけ、実現してください。

2017年2月27日
生活協同組合ユーロープ
代表理事理事長 當具 伸一